

学 修 要 覧

(学 部 編)

2025 年度入学者用

スポーツ健康科学部

立命館憲章

立命館は、西園寺公望を学祖とし、1900年、中川小十郎によって京都法政学校として創設された。「立命」の名は、『孟子』の「尽心章句」に由来し、立命館は「学問を通じて、自らの人生を切り拓く修養の場」を意味する。立命館は、建学の精神を「自由と清新」とし、第2次世界大戦後、戦争の痛苦の体験を踏まえて、教学理念を「平和と民主主義」とした。

立命館は、時代と社会に真摯に向き合い、自主性を貫き、幾多の困難を乗り越えながら、広く内外の協力と支援を得て私立総合学園への道を歩んできた。

立命館は、アジア太平洋地域に位置する日本の学園として、歴史を誠実に見つめ、国際相互理解を通じた多文化共生の学園を確立する。

立命館は、教育・研究および文化・スポーツ活動を通じて信頼と連帯を育み、地域に根ざし、国際社会に開かれた学園づくりを進める。

立命館は、学園運営にあたって、私立の学園であることの特性を活かし、自主、民主、公正、公開、非暴力の原則を貫き、教職員と学生の参加、校友と父母の協力のもとに、社会連携を強め、学園の発展に努める。

立命館は、人類の未来を切り拓くために、学問研究の自由に基づき普遍的な価値の創造と人類の諸課題の解明に進進する。その教育にあたっては、建学の精神と教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努める。

立命館は、この憲章の本旨を踏まえ、教育・研究機関として世界と日本の平和的・民主的・持続的発展に貢献する。

2006年7月21日 学校法人 立命館

立命館大学学生育成目標

立命館大学は、「自由と清新」の建学の精神と「平和と民主主義」の教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努めることを教育的使命としています。

立命館大学は、多様なバックグラウンドや個性を持つ学生達が、「Creating a Future Beyond Borders 自分を越える、未来をつくる」ことができる主体として学び成長していくことを、様々な部署が連携することによって教職協働で支援しています。正課・課外など学生生活全体を通じて、「学びのコミュニティ」の中で相互に学び合い、切磋琢磨し、学部卒業時に次のようなことができる学生の育成を目指しています。

- (1) 多様な価値を尊重し、他者との対話と協働を重視し、「平和と民主主義」の価値観に裏打ちされた自律的な思考と行動ができる
- (2) 幅広い教養と専門性を有し、グローバルとローカルの視点を備え、既存の枠組みや境界を超えた「自由」で「清新」な思考と行動で問題発見・解決ができる
- (3) 自己を理解し、自らの役割や課題を踏まえた責任ある思考と行動ができる
- (4) 「未来を信じ、未来に生きる」高い志を持ち、生涯にわたって学び、行動し続けることができる

2018年3月2日制定

I. スポーツ健康科学部の教育理念と目標について

1. スポーツ健康科学部のミッション、ビジョン“CREA”と人材育成目的	2
2. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）	2
3. 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）	3
4. 回生別の到達目標	4

II. スポーツ健康科学部の履修について

1. スポーツ健康科学部カリキュラム表	6
2. スポーツ健康科学部での学位取得（卒業）について	
2.1 卒業に必要な単位数および要件	13
2.2 受講登録上限単位数	14
2.3 卒業見込証明書発行基準	14
2.4 早期卒業制度	15
3. スポーツ健康科学部での履修について	
3.1 外国語科目	16
3.2 教養科目〈2024年度入学生〉	19
3.3 専門科目	31
4. 系統履修について	
1. 回生別の到達目標	34

III. スポーツ健康科学部の特色ある学びについて

グローバル・アスレティックトレーニング（GAT）プログラム

1. ATCとは	38
2. GATプログラムについて	38
3. GATプログラムへの参加および各大学院への入学のための要件	38

IV. 学部横断プログラムについて

1. 海外留学について	
1.1 海外留学を計画するにあたって	40
1.2 海外留学プログラムの種類	40
1.3 留学中の学籍・留学中に修得した単位の認定等	40
1.4 大学で得られる海外留学に関する情報について	41
2. 大学間単位互換制度	
2.1 環びわ湖大学・地域コンソーシアム単位互換制度／大学コンソーシアム京都単位互換制度	41
2.2 立命館アジア太平洋大学（APU）交流学生プログラム	42

V. 教職課程について

教職課程について

1. 教職課程を学ぶにあたって	44
2. 教職課程履修計画	44
3. 「教職自己分析シート」について	45
4. スポーツ健康科学部で取得できる教員免許状の種類	45
5. 教員採用試験受験にあたって（教職支援センターの利用について）	45
6. 教員免許状取得の基礎資格および必要単位	47
7. 「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」	48
8. 「教育の基礎的理解に関する科目」等	48
9. 「教科及び教科の指導法に関する科目」	50
10. 「大学が独自に設定する科目」	51
11. 教育実習について	53
12. 介護等体験について	55
13. 「(教) 学校インターンシップ I・II・Ⅲ」、「学校ボランティア」について	55
14. 教育職員免許法の改正と適用カリキュラムについて	55

VI. 資格取得について

1. 健康運動指導士

1.1 健康運動指導士とは	58
1.2 資格取得の方法	58

2. 健康運動実践指導者

2.1 健康運動実践指導者とは	59
2.2 資格取得の方法	59

3. 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者

3.1 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者とは	60
3.2 資格取得の方法	60

4. トレーニング指導者

4.1 トレーニング指導者とは	61
4.2 資格取得の方法	61

5. 初級パラスポーツ指導員

5.1 初級パラスポーツ指導員とは	62
5.2 資格取得の方法	62

VII. 学びの支援および学生への援助制度について

1. ES・TA 制度	64
2. アカデミックアドバイザー（AA）制度	64
3. 学生への援助制度について	
3.1 小集団教育推進補助費	64
3.2 自主ゼミ援助制度	64

VIII. スポーツ健康科学部学部則

スポーツ健康科学部学部則	66
--------------	----

I．スポーツ健康科学部の教育理念と目標について

- 1．スポーツ健康科学部のミッション、ビジョン“CREA”と人材育成目的
- 2．教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）
- 3．学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）
- 4．回生別の到達目標

1. スポーツ健康科学部のミッション、ビジョン“CREA”と人材育成目的

【スポーツ健康科学部のミッション：学生・教職員に共通する「めざす姿」】

スポーツ健康科学の教育・研究における智の融合を通して、人々の健康、幸福な社会、ならびに平和な世界を創造するとともに、志高く未来を拓く。

【ビジョン“CREA”】

上記に掲げたスポーツ健康科学部のミッションを遂行するため、学部の行動指針や価値基準となるものが、“CREA”というビジョンであり、これを実現できる行為者を育成したいと考えている。“CREA”とは、「産む、創造する、引き起こす」などの意味をもったラテン語“create（クレアーレ）”を語源にもつ現代イタリア語で「創造」を意味し、それぞれの頭文字には、「Edge（智を極む）」「Collaboration（異分野を紡ぐ）」「Resiliency（主体的に挑む）」「Attraction（ひとと組織が輝く）」という想いが込められている。

「Edge（智を極む）」という概念に応じて、深く論理的に考える力を身につけるための深い教養を習得することで、スポーツ健康科学分野での尖った研究・教育が可能になる。

「Collaboration（異分野を紡ぐ）」ことへの挑戦から、糸（ひと、日々の出来事、経験、可能性など）を引き出して、よりをかけていく（キャリア、幸福、新しい創造物へ）ように創造を生み出していく。

「Resiliency（主体的に挑む）」という考え方から、困難な状況にあっても、常に前向きに挑戦し、「失敗してもまた立ち上がってがんばるぞ」という、しなやかに逞しく生き抜く力と勢いが持てるよう教学・研究を進める。

「Attraction（ひとと組織が輝く）」という理念では、自身だけでなく、周りの他者や社会・世界を魅力あるものにしていく影響力を発揮できる教学・研究のあり方を目指す。

【人材育成目的】

スポーツ健康科学の教育・研究における智の融合を通して、人々の健康、幸福な社会、ならびに平和な世界を創造するとともに、志高く未来を拓く人材を育成する。

2. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

スポーツ健康科学部では、教育目標を達成するために、以下の教育課程を編成しています。

- (1) 論理的に深く考える力と教養を身につけ、ならびに、スポーツ健康科学分野の知識を総合的に理解し、それらを説明して活用することができる力を獲得するために教養科目・外国語科目・基盤科目・領域科目・融合科目で学びます。
- (2) スポーツ健康科学分野に関する知識を活用し、多様な人々との協働及び分野を融合して、社会貢献につながる問題解決に取り組むことができるようになるため、基盤科目・領域科目・融合科目で学びます。
- (3) スポーツ健康科学分野の知識を活用し、責任を持って社会課題を解決していくために、志高く主体的に挑戦することができる力を獲得するため、専門小集団科目、領域科目、融合科目で学びます。
- (4) 自身が属する組織や社会の魅力と価値を高めるために、自身の魅力を発揮するとともに他者の魅力を活かしながら成果を生み出すことができる力を獲得するために、基盤科目の演習科目と領域科目の総合科目という専門小集団科目、プロフェッショナル・キャリア形成科目で学びます。

教養科目の学びは、自由に生きるための知性を磨きます。他者と出会い、未来を拓く人生の道筋に沿って、自分と社会を自由にする学びです。スポーツ健康科学の学びと相乗効果を生みます。

外国語科目の学びは、発信を重視し、自身の関心あるスポーツ健康科学のテーマで学びリサーチした成果を発表することで、英語運用能力とコミュニケーション能力、リサーチ・リ

テラシーを身につけ、国際的に活躍できる力を育みます。

専門・基盤科目の講義科目の学びは、学際的・総合的科学であるスポーツ健康科学の基礎的理解を深めるとともに、スポーツ健康科学の本質や価値、果たす役割についての理解も深めます。

専門・領域科目の専門領域科目は、「スポーツサイエンス」「健康運動科学」「スポーツ教育学」「スポーツマネジメント」の4領域から専門科目を構成します。専門領域科目の学びは、領域を横断しながら、学際的・総合的に学ぶとともに、自身の研究テーマの土台をつくります。

専門・融合科目の学びは、自身のテーマでスポーツ健康科学の智を極め、異なるテーマで学ぶ学生と切磋琢磨し、自他の魅力を引き出し合いながら、困難があろうとも主体的に挑戦して課題発見・解決に取り組む学びを展開します。

専門・小集団科目の学びは、基盤科目の演習科目から始まり領域科目の総合科目の学びへとつながります。融合科目の学びでは、一人一人の関心に則したスポーツ健康科学の探究を進めます。専門小集団科目の学びの集大成として、研究活動を展開し、卒業論文へと結実します。

プロフェSSIONAL・キャリア形成科目は、スポーツ健康科学分野におけるより高度な専門性を身につけ、習得した知識とスキルを実践で活かすことをねらいとしています。具体的には、国家資格を始め、スポーツ健康科学分野に関連する資格取得や実践に不可欠な知識とスキルを身につけます。また自らのキャリアを切り拓くために必要な知覚と感性を磨くこともねらいとしています。

3. 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

スポーツ健康科学は学際的な総合科学である。

スポーツ健康科学部では、人材育成目的の達成に向けて、以下の通り卒業時点において学生が身につけるべき能力（教育目標）を定めます。所定の単位の修得（卒業論文を含む）をもって教育目標の達成とみなし、学士（スポーツ健康科学）の学位を授与します。

- （1）深く論理的に考える力と教養を身につけ、ならびに、スポーツ健康科学分野の知識を総合的に理解して活用することができる。
- （2）多様な人々との協働及び異分野を融合して、社会貢献につながる問題解決に取り組むことができる。
- （3）責任を持って社会課題を解決していくために、志高く主体的に挑戦することができる。
- （4）自身が属する組織並びに社会の魅力及び価値を高めるために、自身の魅力を発揮するとともに他者の魅力を活かしながら成果を生み出すことができる。

〈卒業研究評価基準について〉

本学部では、以下の卒業研究評価基準を明示し、評価の客観性および透明性を図り、その基準に基づいて卒業研究評価を行っています。

1. 研究テーマの適切さ
2. 研究の信頼性・妥当性
3. 研究成果の意義
4. 卒業研究の体裁
5. 取り組み姿勢とプレゼンテーション

4. 回生別の到達目標

1・2回生は、学問の専門力を身に付けるための基礎力の修得期間としています。そこで①教養科目と外国語科目から構成される基礎科目、②「スポーツ健康科学原論」「ヒト・ひと・人の倫理と哲学」「身体の構造と働き」「ヘルスプロモーション」、「スポーツ健康科学とデータサイエンス」「スポーツ健康科学と未来」から構成される専門・基盤（講義）科目、③スポーツ健康科学分野を構成する学問の基礎となる小集団科目「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」で構成される専門・基盤（演習）科目、④スポーツ健康科学分野における各領域の専門科目で構成される専門・領域（講義）科目、⑤様々な問題や社会課題について多面的な視点から問題を捉え、複眼的・相補的に問題を解決するための視点や能力を身に付ける専門・融合科目を配置しています。

3・4回生では主に、専門・領域（講義）科目や「専門演習Ⅰ～Ⅳ」を履修します。また、みなさん自身の課題意識やキャリア形成プランに応じて専門的な学びを深めることができるよう、プロフェッショナル・キャリア形成科目を配置しています。そして4回生では、4年間の演習や学部での学びの集大成として、卒業論文を作成します。

1回生

- 1) 論理的に考える力と教養、スポーツ健康科学分野の基礎的知識を持ち、活用に取り組む。
- 2) 多様な人々と異分野の存在および意義を理解し、社会貢献に繋げる問題発見に取り組む。
- 3) 社会の一員であるという自覚を持ち、目標を持ち挑戦することができる。
- 4) 自分や他者の魅力を理解できる。

2回生

- 1) 論理的に考える力と教養、スポーツ健康科学分野の知識を持ち、活用に取り組む。
- 2) 多様な人々と異分野の存在および意義を理解し、問題解決に取り組む。
- 3) 社会との関わりを通じて掲げた目標達成に向け挑戦することができる。
- 4) 自分や他者の魅力を理解し、成果を生み出すために協働できる。

3回生

- 1) 論理的に考える力と教養、スポーツ健康科学分野の知識を持ち、研究に取り組む。
- 2) 多様な人々と協働し、異分野を融合して、問題解決に取り組む。
- 3) 社会課題解決のための未来ビジョンをもち、達成に向け努力することができる。
- 4) 自分や他者の魅力を活かしながら、成果を生み出すために協働できる。

4回生

- 1) 論理的に考える力と教養、スポーツ健康科学分野の知識を総合的に理解し、活用できる。
- 2) 多様な人々との協働および異分野を融合して、社会貢献につながる問題解決に取り組む。
- 3) 責任を持って社会課題を解決していくために、志高く主体的に挑戦できる。
- 4) 自身が属する組織ならびに社会の魅力・価値を高めるために、自身の魅力を発揮するとともに他者の魅力を活かしながら、成果を生み出すことができる。

Ⅱ．スポーツ健康科学部の履修について

- 1．スポーツ健康科学部カリキュラム表
- 2．スポーツ健康科学部での学位取得（卒業）について
- 3．スポーツ健康科学部での履修について
- 4．系統履修について

1. スポーツ健康科学部カリキュラム表

科目区分			1回生		2回生	
			春学期（第1学期）	秋学期（第2学期）	春学期（第3学期）	秋学期（第4学期）
基礎科目	教養科目		教養科目の科目名・配当回生・単位数はP. 24参照			
	外国語科目 ※留学生はP. 18参照		●英語P1① ●英語S1①	●英語P2① ●英語S2①	●英語P3① ●英語S3①	●英語P4① ●英語S4①
専門科目	基盤科目	講義	◎スポーツ健康科学原論② ◎スポーツ健康科学とデータサイエンス② ◎ヒト・ひと・人の倫理と哲学② ◎スポーツ健康科学と未来② ◎身体の構造と働き② ◎スポーツ健康科学と未来② ◎ヘルスプロモーション (衛生学および公衆衛生学を含む)②			
		演習	◎基礎演習Ⅰ②	◎基礎演習Ⅱ②		
	領域科目	講義	◎スポーツサイエンス概論② ◎スポーツ健康科学とデータサイエンス② ◎健康運動科学概論② ◎スポーツ健康科学と未来② ◎スポーツ教育学概論② ◎スポーツ健康科学と未来② ◎スポーツマネジメント概論② ◎スポーツ健康科学と未来② スポーツ健康科学特殊講義Ⅰ② ◎スポーツ健康科学と未来② 外国留学特修科目①～⑧ ◎スポーツ健康科学と未来② APU交流科目①～⑧ ◎スポーツ健康科学と未来②		◎バイオメカニクス論② ◎スポーツ生理・生化学② ◎健康運動栄養・生理学 ◎運動・栄養処方論 (基礎健康科学)② (応用健康科学)② ◎インクルーシブ体育・スポーツ論② ◎スポーツコーチング論② ◎組織心理学② ◎ビジネス戦略論②	
		演習				
	融合科目	講義			◎PBLⅠ④	
		演習				◎PBLⅡ④
	プロフェッショナル・キャリア形成科目	講義	簿記入門②		◎スポーツ健康科学セミナー② スポーツ健康科学特殊講義Ⅱ②	
		演習	外国留学科目①～⑧ APU交流科目①～⑧		インターンシップ(国内)②④ エクササイズプログラミング実習Ⅰ② インターンシップ(海外)②④ クリニカルATインターンシップ(国内)② サービスマーケティング②④ クリニカルATインターンシップ(海外)②	

* 次の科目を履修するには、事前に定められた科目の単位を修得していることが必要です。

- ・「学校保健学」、「スポーツ指導実習A（球技：ゴール型）」、「スポーツ指導実習A（球技：ネット型）」、「スポーツ指導実習A（武道）」、「スポーツ指導実習B（器械運動）」、「スポーツ指導実習B（陸上競技）」、「スポーツ指導実習B（水泳）」、「スポーツ指導実習B（ダンス）」：P. 13の表に記載の科目のうち20単位以上修得していること。
- ・「卒業論文」：「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」のうち2単位以上修得していること。

※●：必修科目、◎：履修指定科目、○内の数字は単位数を表す

3回生		4回生		卒業必要単位数	
春学期（第5学期）	秋学期（第6学期）	春学期（第7学期）	秋学期（第8学期）	最低限修得すべき単位数	
				①：24単位以上	合計 124単位以上
				②：8単位	
				③：12単位以上	
トレーニング科学② パフォーマンス測定評価方法論② 健康運動評価方法論② スポーツ医学② スポーツ栄養教育学② スポーツ心理学② マーケティング論② リサーチメソッド②		スポーツ情報科学② 生活習慣病論② スポーツ教育実践学② ソーシャルイノベーション論②		④：36単位以上	
◎専門演習Ⅰ②	◎専門演習Ⅱ②	◎専門演習Ⅲ②	◎専門演習Ⅳ② ●卒業論文④	⑤：「専門演習Ⅰ」もしくは「専門演習Ⅱ」のいずれかと、「卒業論文」を含む6単位以上	
				⑥：4単位以上	
学校保健学②				—	
スポーツ指導実習A（球技：ゴール型）① スポーツ指導実習A（球技：ネット型）① スポーツ指導実習A（武道）① エクササイズプログラミング実習Ⅱ② インターンシップ（健康運動指導士）②		スポーツ指導実習B（器械運動）① スポーツ指導実習B（陸上競技）① スポーツ指導実習B（水泳）① スポーツ指導実習B（ダンス）① インクルーシブ体育・スポーツ実習①			

*基礎演習Ⅰ・Ⅱ、PBLⅠ・Ⅱ、専門演習Ⅰ～Ⅳを合わせて〈小集団科目〉とします。

*他学部受講で履修した単位は最大14単位まで卒業に必要な専門科目の単位（③～⑥外）として算入することができます。

*「英語PO」は卒業必要単位には算入されないため、カリキュラム表には掲載していません。

カリキュラムツリー

	E*	C*	R*	A*
	深く論理的に考える力と教養を身につけ、 ならびに、スポーツ健康科学分野の知識を 総合的に理解して活用することができる。	多様な人々との協働および異分野を融合 して、社会貢献につながる問題解決に 取り組むことができる。	責任を持って社会課題を解決していく ために、志高く主体的に挑戦すること ができる。	自身が属する組織並びに社会の魅力および 価値を高めるために、自身の魅力を発揮する とともに他者の魅力を活かしながら成果を 生み出すことができる。
4回生 秋学期	教養科目	領域科目	専門演習Ⅳ・卒業論文	
4回生 春学期			専門演習Ⅲ	
3回生 秋学期			専門演習Ⅱ	プロフェッショナル・ キャリア形成科目（演習）
3回生 春学期			専門演習Ⅰ	
2回生 秋学期			PBLⅡ	
2回生 春学期			PBLⅠ	
1回生 秋学期			プロフェッショナル・ キャリア形成科目（講義）	
1回生 春学期			基礎演習	
	基礎科目			

*CREAとはイタリア語で「創造」を意味し、人材育成目的を成し遂げるためのビジョンとして、「Collaboration（異分野を紡ぐ）」「Resiliency（主体的に挑む）」「Edge（智を極む）」「Attraction（ひとと組織が輝く）」という頭文字に想いを込めたものです。

科目区分	科目	科目ナンバリング	ディプロマ・ ポリシー：E*	ディプロマ・ ポリシー：C*	ディプロマ・ ポリシー：R*	ディプロマ・ ポリシー：A*
			深く論理的に考える力 と教養を身につけ、な らびに、スポーツ健康 科学分野の知識を総合 的に理解して活用する ことができる。	多様な人々との協働及 び異分野を融合して、 社会貢献につながる問 題解決に取り組むこと ができる。	責任を持って社会課題 を解決していくため に、志高く主体的に挑 戦することができる。	自身が属する組織並び に社会の魅力及び価値 を高めるために、自身 の魅力を発揮するとと もに他者の魅力を活か しなから成果を生み出 すことができる。
自由科目	自由科目	英語P0	◎			
	教養科目	立命館科目・A群～E群	◎			
		英語P1	◎			
		英語P2	◎			
基礎科目	外国語科目	英語P3	◎			
		英語P4	◎			
		英語S1	◎			
		英語S2	◎			
	基礎科目	英語S3	◎			
		英語S4	◎			
		スポーツ健康科学原論	◎			
		ヒト・ひと・人の倫理と哲学	◎			
	講義	身体の構造と働き	◎			
		ヘルスプロモーション（衛生学および公衆衛生学を含む）	◎			
	演習	スポーツ健康科学とデータサイエンス	◎			
		スポーツ健康科学と未来	◎	◎	◎	
	基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅰ	◎	◎	◎	◎
		基礎演習Ⅱ	◎	◎	◎	◎
		スポーツサイエンス概論	◎			
		バイオメカニクス論	◎	◎		
	講義	スポーツ生理・生化学	◎			
		トレーニング科学	◎	◎		
		パフォーマンス測定評価方法論	◎	◎	◎	
		スポーツ情報科学	◎	◎	◎	
	健康運動科学概論	健康運動科学概論	◎			
		健康運動栄養・生理学（基礎健康科学）	◎	◎		
		運動・栄養処方論（応用健康科学）	◎	◎		
		健康運動評価方法論	◎	◎	◎	
	スポーツ医学	スポーツ医学	◎	◎	◎	
		生活習慣病論	◎	◎		
		スポーツ教育学概論	◎			
		インクルーシブ体育・スポーツ論	◎	◎		
	演習	スポーツコーチング論	◎	◎		
		スポーツ栄養教育学	◎	◎	◎	
		スポーツ心理学	◎	◎	◎	
		スポーツ教育実践学	◎	◎	◎	
	スポーツマネジメント概論	スポーツマネジメント概論	◎			
		組織心理学	◎	◎		
		ビジネス戦略論	◎	◎		
		マーケティング論	◎	◎	◎	
	演習	リサーチメソッド	◎	◎	◎	
		ソーシャルイノベーション論	◎	◎	◎	
		スポーツ健康科学特殊講義Ⅰ	◎	◎		
		外国留学特修科目				
	APU交流科目	APU交流科目				
		専門演習Ⅰ	◎	◎	◎	◎
		専門演習Ⅱ	◎	◎	◎	◎
		専門演習Ⅲ	◎	◎	◎	◎
	演習	専門演習Ⅳ	◎	◎	◎	◎
		卒業論文	◎	◎	◎	◎
		PBLⅠ	◎	◎	◎	◎
		PBLⅡ	◎	◎	◎	◎
	簿記入門	簿記入門	◎			
		スポーツ健康科学セミナー	◎			◎
		スポーツ健康科学特殊講義Ⅱ	◎			◎
		学校保健学	◎			◎
	演習	スポーツ指導実習A（球技：ゴール型）		◎	◎	◎
		スポーツ指導実習A（球技：ネット型）		◎	◎	◎
		スポーツ指導実習A（武道）		◎	◎	◎
		スポーツ指導実習B（器械運動）		◎	◎	◎
	演習	スポーツ指導実習B（陸上競技）		◎	◎	◎
		スポーツ指導実習B（水泳）		◎	◎	◎
		スポーツ指導実習B（ダンス）		◎	◎	◎
		インクルーシブ体育・スポーツ実習		◎	◎	◎
	演習	エクササイズプログラミング実習Ⅰ		◎	◎	◎
		エクササイズプログラミング実習Ⅱ		◎	◎	◎
		インターンシップ（国内）		◎	◎	◎
		インターンシップ（海外）		◎	◎	◎
	演習	インターンシップ（健康運動指導士）		◎	◎	◎
		クリニカルATインターンシップ（国内）		◎	◎	◎
		クリニカルATインターンシップ（海外）		◎	◎	◎
		サービスマネーニング		◎	◎	◎
	外国留学科目	外国留学科目				
		APU交流科目				

◎：特に関連する科目

*CREAとはイタリア語で「創造」を意味し、人材育成目的を成し遂げるためのビジョンとして、「Collaboration（異分野を紡ぐ）」「Resiliency（主体的に挑む）」「Edge（智を極む）」「Attraction（ひとと組織が輝く）」という頭文字に想いを込めたものです。

科目ナンバリング

科目ナンバリングは、授業科目に当該科目のカリキュラム上の位置づけに対応する番号を付すことで、学生が科目の系統履修および卒業要件充足の自己管理を容易にするためのものです。

科目ナンバリングの基本フォーマット

C	SH	23	XX	1	01	J
学士	学部・学科	カリキュラム 年度	科目区分	配当 回生	分類番号	使用言語
①		②	③	④	⑤	⑥

- ① 3桁のアルファベットで学部・研究科・全学横断科目の区分を表しています。

【学部・全学横断科目の区分コード】

スポーツ健康科学部専門科目：CSH、教養科目：CGE、副専攻科目：CSM、
教職科目：CTT

- ② 2桁の数字はカリキュラム年度を表しています。

- ③ 2～3桁のアルファベット・数字で科目区分を表しています。

【科目区分コード】

科目区分1		科目区分2		科目区分3		科目区分 コード
自由科目	A	-	0	-	-	A0
基礎科目	B	外国語科目	1	-	-	B1
専門科目	C	基盤科目	2	講義	L	C2L
				演習	S	C2S
		領域科目	3	講義	L	C3L
				演習	S	C3S
		融合科目	4	講義	L	C4L
				演習	S	C4S
		プロフェッショナル・ キャリア形成科目	5	講義	L	C5L
				演習	S	C5S

- ④ 1桁の数字で配当回生を表しています。

【配当回生コード】

1	学部1年次相当
2	学部2年次相当
3	学部3年次相当
4	学部4年次相当

- ⑤ 整理番号として2桁の数字で分類番号を表しています。

- ⑥ 1桁のアルファベットで使用言語を表しています。

【使用言語コード】

J	日本語開講
E	英語開講
M	複数言語での開講（1授業内で複数言語を併用して授業を行う場合）

ルーブリック

	E	C	R	A
4回生 後期	【DP1】 深く論理的に考える力と教養を身につけ、ならびに、スポーツ健康科学分野の知識を総合的に理解して活用することができる。	【DP2】 多様な人々との協働及び異分野を融合して、社会貢献につながる問題解決に取り組むことができる。	【DP3】 責任を持って社会課題を解決していくために、志高く主体的に挑戦することができる。	【DP4】 自身が属する組織並びに社会の魅力及び価値を高めるために、自身の魅力を発揮するとともに他者の魅力を活かしながら成果を生み出すことができる。
4回生 前期				
3回生 後期	論理的に考える力と教養を身につけ、ならびに、スポーツ健康科学分野の知識をもち、活用に取り組んでいる。(研究としての十分な活用は次の挑戦課題)	多様な人々との協働及び異分野を融合して、問題解決に取り組むことができる。(社会貢献への道筋の明確化は次の挑戦課題)	社会課題の解決のための未来ビジョンを持ち、その達成に向けて努力することができ、(未来ビジョンを志に昇華して、困難にぶつかっても粘り強く挑戦を継続できるようになることが次の挑戦課題)	自分や他者の魅力を活かしながら、成果を生み出すために協働できる。(組織及び社会の魅力や価値を高めるかについては次の挑戦課題)
3回生 前期				
2回生 後期	論理的に考える力と教養を身につけ、ならびに、スポーツ健康科学分野の知識をもち、活用に取り組んでいる。(まとまった基礎知識の活用の体験がある、実際に十分な活用は次の挑戦課題)	多様な人々の存在と異分野を融合する意義を理解し、問題解決に取り組むことができる。(多様な人々との協働や異分野の融合の経験は次の挑戦課題)	社会との関わりを通じて掲げた目標達成のために挑戦することができる。(目標が社会問題の解決につながるかについての視野を広げることとは次の挑戦課題)	自分や他者の魅力を理解し、成果を生み出すために協働できる。(お互いの魅力を生かせるかどうかは、次の挑戦課題)
2回生 前期				
1回生 後期	論理的に考える力と教養を身につけ、ならびに、スポーツ健康科学分野の知識をもち、活用に取り組んでいる。(基礎知識を活用する体験がある、まとまった知識の活用は次の挑戦課題)	多様な人々の存在と異分野を融合する意義を理解し、社会貢献につながる問題発見に取り組むことができる。(問題解決への挑戦は、次の挑戦課題)	社会の一員であるという自覚を持ち、目標を持ち挑戦することができる。(目標と社会との関係したものにすることは次の挑戦課題)	自分や他者の魅力を理解できる。(自分や他人の魅力を理解した上での協働は次の挑戦課題)
1回生 前期				

2. スポーツ健康科学部での学位取得（卒業）について

スポーツ健康科学部のカリキュラムに従って卒業に必要な単位を満たすと学士の学位を取得する（卒業する）ことができます。スポーツ健康科学部で取得できる学位は「学士（スポーツ健康科学）」です。

2.1 卒業に必要な 単位数および 要件

科目区分			卒業に必要な単位数		
			最低限修得すべき単位数	合計	
基礎科目	教養科目		24単位以上	合計124単位以上*	
	外国語科目		8単位		
専門科目	基盤科目	講義	12単位以上		
		演習			
	領域科目	講義	36単位以上		
		演習	「専門演習Ⅰ」もしくは「専門演習Ⅱ」のいずれかと、「卒業論文」を含む6単位以上		
	融合科目	講義	4単位以上		
		演習			
	プロフェッショナル・キャリア形成科目	講義	－		
演習		－			

* 他学部受講で修得した単位は最大14単位まで卒業に必要な専門科目の単位として算入することができます。

【必修科目・履修指定科目】

卒業するまでに必ず履修し、単位を修得しなければならない「**必修科目**」や、各配当回生で必ず履修しなければならない「**履修指定科目**」が指定されています。スポーツ健康科学部カリキュラム表（P. 6～7）に記載している科目の前に、必修科目には「●印」、履修指定科目には「◎印」がついています。

必修科目：必修科目は、必ず履修し単位を修得しなければならない科目です。単位を修得できなかった場合は、再度履修し、単位を修得しなければ卒業できません。

履修指定科目：必ず受講登録し、履修しなければならない科目です。（ただし、単位を修得できなかった場合でも卒業できないわけではありません。）

【先修条件のある科目】

次の科目を履修するには、事前に定められた科目の単位を修得していることが必要です。

「学校保健学」「スポーツ指導実習A（球技：ゴール型）」

「スポーツ指導実習A（球技：ネット型）」「スポーツ指導実習A（武道）」

「スポーツ指導実習B（器械運動）」「スポーツ指導実習B（陸上競技）」

「スポーツ指導実習B（水泳）」「スポーツ指導実習B（ダンス）」：下表の授業科目から20単位以上を修得していること。

科目名	
(教) 教育原理	(教) 特別活動の理論と方法
(教) 教職概論	(教) 教育方法論（ICT活用を含む）
(教) 教育社会学	(教) 生徒指導・進路指導の理論と方法
(教) 教育心理学	(教) 教育相談の理論と方法
(教) 特別支援教育概論	(教) 保健体育科教育概論
(教) 教育課程論	(教) 保健体育科指導法Ⅰ
(教) 道德教育の理論と方法	(教) 介護等体験（事前指導）

「卒業論文」：「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」のいずれかを修得していること。

開講科目の精選について

スポーツ健康科学部では、開講科目を精選することにより、大学で学ぶ上で必要となる基礎知識、スポーツ健康科学の基礎を確実に修得する仕組みを整えています。

また、スポーツ健康科学の学問体系を系統的に履修し、かつ総合的・学際的な学びを保証するために、各セメスターの専門科目についても、多くの科目を開設せず、科目を精選しています。

2.2 受講登録上限 単位数

【学期毎の受講登録上限単位数】

学期毎に受講登録することができる上限単位数は、以下のとおりです。
 なお、入学後、最初の学期は第1学期であり、その後在学期間ごとに次の学期へ進行します（編入学・転入学を除く）。自身の現在の学期は、「履修状況確認」画面に記載されている「現セメスター（現学期）」にて確認可能です。

1回生		2回生		3回生		4回生		5回生以上
第1学期	第2学期	第3学期	第4学期	第5学期	第6学期	第7学期	第8学期	第9学期以降
22単位	22単位	22単位	22単位	22単位	22単位	22単位	22単位	22単位

【通年科目（春学期～秋学期を通して行われる科目）の取り扱い】

通年科目を受講登録した場合、春学期と秋学期において1/2分の単位数をカウントします。
 （例）通年4単位科目を受講登録した場合、春学期に2単位、秋学期に2単位分をカウントします。

【受講登録上限外科目】

以下の科目は、受講登録上限単位数に含まれません。

「コーオプ演習（理論）」・「コーオプ演習（実践）」・「サービスマーケティング（専門）」・
 「インターンシップ（国内）」・「インターンシップ（海外）」・
 「クリニカルATインターンシップ（国内）」・「クリニカルATインターンシップ（海外）」・
 「インターンシップ（健康運動指導士）」・「英語PO」・教職課程に関わる一部科目

この他に、外国留学や単位互換に関する科目など、受講登録上限単位数に含まれない科目があります。詳細は各要項等を確認してください。

【受講登録上限単位数の緩和を行う場合（特例）】

学籍異動を伴う海外留学プログラムに参加した場合に限り、受講登録上限単位数を緩和します。

〈受講登録上限単位数の緩和を行う時期〉

留学プログラム派遣終了後の翌学期

〈当該学期の受講登録上限単位数〉

30単位

※22単位を超えて登録する場合の受講登録方法は別途指示します。

2.3 卒業見込証明書 発行基準

「卒業見込証明書」とは卒業見込日が記載された証明書であり、就職試験や大学院入試等で受験先から提出を求められます。

「卒業見込証明書」は証明書を発行する時点において以下①～③の基準全てを満たしている場合に、学内の証明書自動発行機およびコンビニエンスストアのマルチプリント機で発行できます。詳細については大学ホームページ（「大学ホームページトップ」→「在学生の方」→「証明書、証紙、学割証、通学定期券購入について」）で確認してください。

【発行基準】

①第7学期以降であること（早期卒業制度対象者は第5学期以降であること）

＊「履修状況確認」画面に表示されている「現セメスター」が、7セメスター（早期卒業制度対象者は5セメスター）以降であること

（「履修状況確認」画面は、manaba+RからCAMPUS WEBへログインの上確認のこと）

②「在学」中または「留学」中であること（休学中は発行できません）

③以下の時期において、「修得済単位数」が次表の基準を満たしていること

※第8学期（8セメスター）以降（早期卒業制度対象者は第6学期以降）の場合は、修得単位数に応じて、証明書に記載される卒業見込日が異なります。なお、当該学期卒業日もしくは翌学期卒業日の両方の基準を満たしている場合は、当該学期の卒業見込日が記載された証明書が発行されます（卒業見込日を選択することはできません）。

証明書発行請求を行う時期	前学期末時点の修得単位数	証明書に記載される卒業日（下記参照）
第7学期（7セメスター） （早期卒業制度対象者は第5学期） 学期開始日（*）～学期終了日	79単位以下	（証明書発行不可）
	80単位以上	翌学期卒業日
第8学期以降（8セメスター以降） （早期卒業制度対象者は第6学期） 各学期開始日（*）～学期終了日	79単位以下	（証明書発行不可）
	80単位以上101単位以下	翌学期卒業日
	102単位以上	当該学期卒業日

* システムメンテナンスのため、学期開始数日後から証明書の発行が可能になります。

【卒業日】

春学期：秋分の日

秋学期：3月20日

※卒業見込証明書は、上記基準に従って発行するもので、上記以外の卒業要件については勘案されていません。実際に全ての卒業の要件を満たしているかどうかは、各自、適宜学修要覧や「履修状況確認」画面にて確認してください。

2.4 早期卒業制度

スポーツ健康科学部では、優秀な成績を修めた場合、最短修業年限で大学院までの学修を進めることができる制度として、3年で卒業可能な「早期卒業制度」を設けています。

（1）申請時期

1 回生終了時（3月の成績発表後、成績発表日を含めて7日以内）

（2）申請方法

「早期卒業申請書」を提出

※早期卒業制度を利用するためには、必ず「早期卒業申請書」を提出する必要があります。提出がない場合は、要件を満たしていたとしても早期卒業制度は適用されませんので、注意してください。

（3）早期卒業適用の要件

- ①早期卒業制度への申請時点で卒業後の進学志望が明確である者（申請要件）
- ②1 回生終了時点で卒業に必要な単位のうち40単位以上を修得し、且つ、単年度GPAが3.8以上であること（申請要件）
- ③1 回生終了時に申請を許可された者で、2 回生終了時点で卒業に必要な単位のうち80単位以上を修得し、且つ、2 回生時の単年度GPAが3.9以上であること
- ④1 回生終了時に申請を許可された者で、3 回生終了時点で卒業に必要な単位を全て修得し、且つ、累積GPAが4.0以上であること
- ⑤原則として入学時点から2 回生終了時点までに休学、再入学、転籍を行っていないこと

（4）早期卒業制度が適用される場合の特例措置

- ①3 回生次の受講登録上限単位数を、春学期・秋学期合計で50単位に引き上げる（ただし、学期毎の受講登録上限単位数は26単位とする）
- ※各学期、22単位までは、CAMPUS WEBもしくはその他決められた方法で自ら受講登録をおこない、22単位を超える分については事務室にて申請してください。
- ②3 回生次に、4 回生配当科目の履修を認める
- ※3 回生次における4 回生配当科目の受講登録については、事務室にて申請してください。

（5）辞退及び適用資格の喪失

在学中、要件を満たせず早期卒業制度の資格を失った場合、その時点で取得している単位及び履修中の科目の履修資格はそのまま維持されますが、以降は上記の特例措置を受けることができなくなります。

早期卒業制度申請・許可後にその適用の辞退を希望する場合、辞退届を事務室に提出してください。一旦辞退すると、その後再申請はできません。また、3 回生終了時点で早期卒業の要件を全て満たし、早期卒業することが決定した後に辞退する場合は、卒業合否発表日の前日までに辞退届を提出する必要があります。

3. スポーツ健康科学部での履修について

3.1 外国語科目

(1) スポーツ健康科学部における英語の位置づけ

スポーツ健康科学部では、多様な人々との協働および異文化を融合して社会貢献につながる問題解決に取り組むことができる人材を育成することを目標としています。そのためには専門分野における先端的な研究プロジェクトの成果を英語で発信する能力が必要不可欠となります。

本学部のプロジェクト発信型英語プログラムでは、在学中にスポーツサイエンス、健康運動科学、スポーツ教育学、スポーツマネジメントに関する先端的な研究プロジェクトを英語で行い、その成果を英語で発信する基礎能力の習得を目標に設定しています。

(2) スポーツ健康科学部における英語学習の目標

スポーツ健康科学部においては、学生が身につけるべき英語力として、以下の段階の目標を掲げています。

- ①自らの身体と、英語を用い、スポーツ・運動・健康の指導ができること
- ②英語の文献やその他の資料からスポーツ健康科学分野における最新の情報を収集し、その知見を英語で要約できること
- ③自らの研究成果を英語で発表できること
- ④海外プロジェクトや海外インターシップに参加できること

全ての学生が上記の第4段階へ到達できるとは限りませんが、最低でも第1段階の能力を習得し、英語でのスムーズなコミュニケーションが可能となる力量を養成していくことを目指します。また、その力量については、TOEIC® L & Rテスト (IP) およびその他の評価基準により、総合的に評価します。

(3) 英語カリキュラムについて

配当回生	期間	科目名	履修形態	単位数
1回生	春semester	英語P1	必修	各1単位
		英語S1		
	秋semester	英語P2		
		英語S2		
2回生	春semester	英語P3		
		英語S3		
	秋semester	英語P4		
		英語S4		

※Pはプロジェクト、Sはスキルワークショップの授業です。

すべて必修科目であるため、当該年度に修得できなかった場合は、次年度に再履修し、単位を修得する必要があります。

①プロジェクト

プロジェクトでは、日常生活、クラブ活動、大学の講義などから、自分自身が興味関心のあるテーマを選び、受講期間を通して自分の考えを探究し、その成果を英語で発信します。また、並行して、Professional Skills (Research, Presentation, Debating, Negotiation) を学びます。

②スキルワークショップ

スキルワークショップでは、英語でプロジェクトを行い、その成果を発信するために必要なEnglish Skills (Listening, Speaking, Reading, Writing) とEnglish Competence (Syntax, Pronunciation, Vocabulary / Expressions, Meaning) を徹底的な訓練を通して総合的に学習します。また、オンライン英語学習プログラムの自学自習を基にした、TOEIC®テストなどのTest Taking Skillsの習得も目標としています。

③プロジェクトとスキルワークショップの関係

プロジェクトとスキルワークショップは密接に繋がっています。スキルワークショップではプロジェクトに必要な英語運用能力を身につけます。つまり、プロジェクトで発信するた

に必要な英語力はスキルワークショップを履修しながら磨かれます。一方、プロジェクトでは、リサーチやプレゼンテーションを通して情報を収集し発信するため、スキルワークショップで身につけた英語運用能力を実際に活かすことができます。つまり、この2つを履修することにより、英語を理解して表現する力が高まります。

④英語PO（※対象者のみ）

英語POは、英語の苦手な学生を対象に、スポーツ健康科学部で英語学習を行うために最低限必要な英語力を獲得することを目的としています。講義の流れとしては、10分～15分程度のビデオによる事前講義を視聴し、課外で課題を行います。その後、教室で課題の理解を確認するための小テストを解いたり、学習内容を実演したりしながら、担当講師からフィードバックを受けます。本クラスの対象者は、入学時に実施するクラス分けテストの結果に基づき、選抜されます。

（４）TOEIC®テストの受験について

英語力の習熟度を測る目安として、1回生の4月にTOEIC®Bridgeテスト、1回生の6月、12月、2回生の6月、12月（いずれも予定）にTOEIC® L & Rテスト（IP）を全員が受験します。

団体受験について

立命館大学では、正課授業の到達度を測るため、また主体的な外国語学習の自己検証を目的として、学内で年に数回、TOEFL ITP®テストとTOEIC® L & R IPテストを団体受験として実施しています。

■TOEFL ITP®テスト

TOEFL®テストは、英語を母国語としない人の英語能力を測る世界共通のテストです。TOEFL ITP®テストは、学校などの団体向けプログラムで、主にTOEFL®テストで過去に出された問題から出題されます。このスコアは、本学の英語副専攻プログラムや、各種留学プログラムなどへの応募に利用することができます。

■TOEIC® L & R IPテスト

TOEIC® L & Rテストは、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。IPテストは、大学などの団体向けプログラムで、TOEIC® L & Rテストの過去問題を中心に出题されます。このスコアは、就職活動などで提示を求められることも多いため、学内団体受験をぜひ活用してください。

※団体受験で発行されるスコアは公式スコアではありませんが、公式テストと同等の評価として、多くのケースで利用できます。利用の可否については、提出先に必ず確認してください。

※団体受験はTOEFL ITP®テスト、TOEIC® L & R IP テスト、もしくはその他のテストで実施されます。実施形態はオンライン形式あるいはキャンパスの教室を利用した集合形式のいずれかとなります。

※実施日程、試験種別・実施形態など詳細については、言語教育センターのホームページで公開していますので、必ず確認のうえ受験してください。

「言語教育センター」 ホームページ

(manaba+Rの「スポーツ健康科学部生のページ」→「トップページ」→「学び支援サイト」→「留学・外国語学習」→「英語団体受験」をクリック)

※TOEIC®, TOEFL®はEducational Testing Service (ETS) の登録商標です。

※TOEIC® L & Rテストの「L & R」はLISTENING AND READINGの短縮形です。

（５）日本語科目について（留学生のみ対象）

日本語を母語としない外国人留学生の皆さんが大学での学修に必要とされる高い日本語力を修得できるように、留学生科目（外国語科目）として、日本語を履修できるようにしています。

日本語による講義を理解し、授業の中での議論に参加し、レポートを書くために必要とされる日本語力を身につけるために、必ず1・2回生の間に日本語科目を履修してください。

【留学生が受講することのできる日本語科目一覧】

配当回生	科目名	単位数	授業開講期間
1 回生	(留) 日本語Ⅶ (文章表現a)	1	春semester
	(留) 日本語Ⅶ (文章表現b)	1	秋semester
	(留) 日本語Ⅶ (読解a)	1	春semester
	(留) 日本語Ⅶ (読解b)	1	秋semester
	(留) 日本語Ⅶ (聴解口頭a)	1	春semester
	(留) 日本語Ⅶ (聴解口頭b)	1	秋semester
2 回生以上	(留) 日本語Ⅷ (アカデミック日本語a)	1	春semester
	(留) 日本語Ⅷ (アカデミック日本語b)	1	秋semester
	(留) 日本語Ⅷ (キャリア日本語a)	1	春semester
	(留) 日本語Ⅷ (キャリア日本語b)	1	秋semester

【クラス編成について】

新入生は、1 回生で履修する日本語科目（「日本語Ⅶ」の6科目）がクラス指定されます。

【再履修について】

日本語科目で単位を修得できなかった場合は、次年度に修得できなかった科目を再度履修してください。「日本語Ⅶ」を履修した後に「日本語Ⅷ」を履修することが原則ですが、2 回生以降、1 回生配当科目を再履修しながら2 回生配当科目を履修することは認められます。

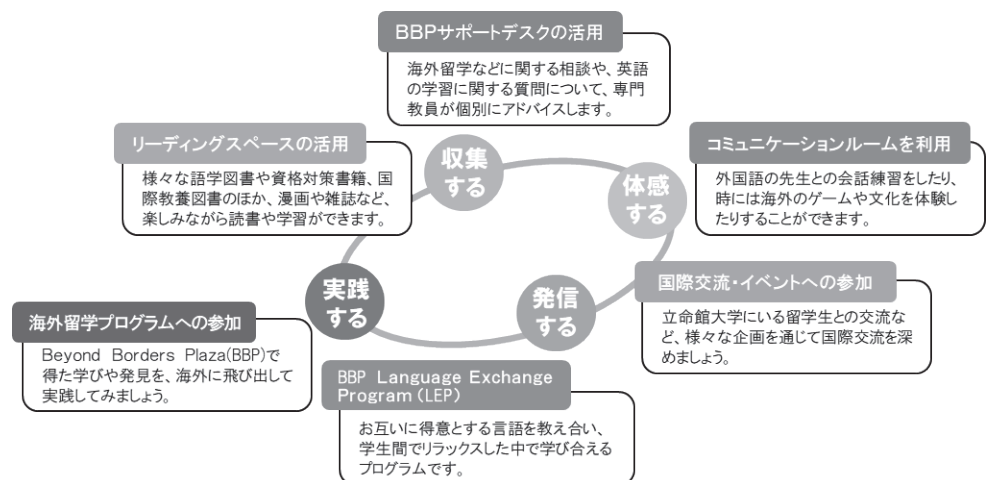
【単位修得要件について】

日本語科目では、単位修得の最低要件として授業への出席回数が定められています。詳細はオンラインシラバスを確認してください。

(6) Beyond Borders Plaza (BBP) について

BBPは、国境の壁、文化の壁、言葉の壁、価値観の壁など、様々なBorderを超えて繋がりを生み出し、共に学ぶ、国際交流や言語学習をコンセプトにした空間です。学部や回生、国籍、話す言語等に関係なく誰でも利用・活用できます。

BBPでは、国際交流企画や言語学習、海外留学に向けた準備を活発に行えるよう、様々な企画や取り組みを実施しています。みなさんも積極的に活用してください。



【WEBサイト】

<https://www.ritsumeai.ac.jp/bbp/>

(manaba+Rの「スポーツ健康科学部生のページ」→「トップページ」→「学び支援サイト」→「留学・外国語学習」→「外国語での交流の場」をクリック)

【QRコード】



【Beyond Borders Plaza (BBP)】

衣笠キャンパス : Beyond Borders Plaza 1・2階

びわこ・くさつキャンパス: セントラルアーク2階

大阪いばらきキャンパス : Beyond Borders Plaza (A棟1階AN事務室内)・Room・iCommons・AN4階SALL

3.2 教養科目

〈2024年度入学生〉

(1) 本学の教養教育の理念および目標

本学の教養教育は、総合大学の特長を活かして、専門教育と往還しながら自らの専門性を相対化し、物事を総合的に捉える視野を身につけ、人生の指針となる知性と知恵、価値観、考え方を涵養し、主体的かつ自律的な思考や行動、ならびに他者との対話や協働ができる力の育成を目指しています。

この理念のもと、3つの目標を掲げています。

〈教養教育の目標〉

【目標Ⅰ】 知識・理解	学部固有の専門教育とは異なる知的体系や方法論による学習によって、自らの専門性を相対化し考察する能力の習得を目指す。
【目標Ⅱ】 思考・判断・意識	豊かな教養と深い洞察力の獲得によって、人生の指針となる知性と知恵、価値観、考え方の涵養を目指す。
【目標Ⅲ】 態度・行動	他者と実践をともにする中で多様な価値観を踏まえて主体的に学習する姿勢を身につけ、現代社会を切り拓く力の育成を目指す。

(2) 教養教育の到達目標とカリキュラム・マップについて

(1) で掲げた3つの目標に対応する、より具体的な到達目標を定めています。各科目がどの到達目標と合致しているかを示したのがカリキュラム・マップです。バランスよく履修できるようカリキュラム・マップを活用してください(「(6) 教養科目一覧およびカリキュラム・マップ」を参照)。

〈教養教育の目標および到達目標〉

目 標	到 達 目 標
【目標Ⅰ】 知識・理解	【Ⅰ-a】知識 幅広い知識を習得し、自らの専門や日常生活に活用できる
	【Ⅰ-b】科学的考察力 科学的方法論に基づき、事象を考えることができる
	【Ⅰ-c】総合的解釈力 物事を総合的に考えることができる
【目標Ⅱ】 思考・判断・意識	【Ⅱ-d】洞察力 論理的・批判的に事象を洞察することができる
	【Ⅱ-e】指針の確立 倫理観・正義感を持ち、多様な選択肢から適切な意思決定を行うことができる
	【Ⅱ-f】創造性 既成の概念に抛らず、創造的に考えることができる
【目標Ⅲ】 態度・行動	【Ⅲ-g】多様性・国際性 多様な価値観が異なる意味、対立する意味を考えることができる
	【Ⅲ-h】自己表現力 問題を発見し、その解決に向けて自分の考えを他者へ伝えることができる
	【Ⅲ-i】共創する力 他者やコミュニティへ関心を持ち、能動的で責任ある行動を取ることができる

(3) 教養科目の群・分野構成と卒業に必要な単位数

科 目		群	分野、科目区分など	卒業に必要な 単位数
基礎科目	教養科目	立命館科目	—	24単位以上
		教養基盤科目（A群）	第1分野 思想と人間	
			第2分野 現代と文化	
			第3分野 芸術と創造	
			第4分野 社会・経済と統治	
			第5分野 世界の史的構成	
			第6分野 自然・科学と人類	
			第7分野 数理と情報	
		国際教養科目（B群）	国際教養科目区分	
			異文化交流科目区分	
			海外留学科目区分	
		社会で学ぶ自己形成科目（C群）	キャリア教育科目 サービスラーニング科目	
		スポーツ・健康科目（D群）	—	
		学際総合科目（E群）	—	
	外国語科目（英語P 1～P 4、英語S 1～S 4）			8単位

(4) 各科目群の概要

1) 立命館科目

立命館科目は、学生自らが立命館大学で学ぶ意義を理解し、未来を描き、未来を創る人間への成長に向けて、その礎を築くための科目群です。大学における学びのスタイルを身につけ、高校までの学習観の「転換」を図り、自らの専門性を発展させる学びの展開と選択ができるようになるために、入学後早い段階（おおむね第3セメスターまで）で1科目以上履修することが望ましいです。

13の科目から構成される立命館科目は、次の3つの特徴をもって構成されています。

第1に、立命館大学が経験してきた学問の自由と大学の自治の歴史、社会問題への向き合い方、大学創造の歴史の学びを通して、大学とは何かについて考える自校史科目、教学理念である「平和と民主主義」とこれらを支えるために必要な「人権」について学ぶ科目を置いています。

第2に、立命館大学の学生として必要な現代社会を生きる知恵を磨きます。地球市民の大前提となるシチズンシップを身につける必要があります。それを基礎にして、現代が直面する科学・技術・安全等の課題を見極める力、歴史的な視野で世界を俯瞰する力、多様化するメディア環境を批判的にみつめ活用する力、ビッグデータを実践的に扱い理解する力を身につけ、現代社会を生きる羅針盤となる知性を育みます。

第3に、自らの人生を切り拓く修養の場としての立命館で、知識を他者との出会いや対話のなかで自分のものにすることができるよう、自律と協働の力を養います。人々のいのち・生活・尊厳を脅かすものとそれを克服しようとする人々に学ぶフィールドスタディ、学生相互の学びあいとしてのピア・サポートの実践と理論を通して他者とともに社会のなかで学ぶ力を身につけるアクティブラーニングを重視しています。

2) 教養基盤科目（A群）

学問や社会生活を営む上で必然とされる文化・芸術に関する幅広い知識を通して得られる理解力、洞察力及び創造的活力の獲得を目的とした分野別基盤科目群です。人類が培ってきた知的体系や先端的知識、現代的諸課題を多様な視点から学び、芸術における創造力、社会に対する問題意識や問題解決のための発想力の涵養を目指します。

教養基盤科目（A群）は、「思想と人間」「現代と文化」「芸術と創造」「社会・経済と統治」「世界の史的構成」「自然・科学と人類」「数理と情報」の7つの分野から成り立っています。

第1分野 思想と人間	哲学や倫理学は、古代ギリシャの時代からそれぞれの時代ごとに論議の主要課題を変えつつ考察され、深められてきました。この分野では、社会思想史の成果を踏まえながら、人間存在がどのように考えられてきたかということについて哲学および倫理的に考察します。さらに単に哲学史などの学問の歴史を学ぶだけではなく、21世紀を生きる者に求められる哲学と倫理についての考察を促し、それらの課題や問題に関し主体的に思考します。また、現代社会が抱える宗教や心の問題についても、世界的な視野から多面的に考察します。
第2分野 現代と文化	人間を政治、経済、社会、文化の4側面から捉えたとき、文化的な観点から見ることの重要性から、この分野では、現代日本の特徴を世界の中に位置付けながら、社会および文化的存在としての人間を考察します。また、社会問題に対する考察を含みつつ、主に文化的存在としての人間について考察します。
第3分野 芸術と創造	人間の文化的活動の中には芸術が大きな役割を果たしています。表現芸術には絵画、音楽、演劇、文学、映像などがありますが、この分野では、人間の多様な表現能力や芸術理論についても考察します。芸術に関する広い知識や鑑賞力は、想像力の問題を喚起します。さらに異文化理解に役立ち、グローバル社会において、文化、芸術の総合的理解をもとにした思考力、創造力、感性を高めることが求められます。日本文化の深い理解にも資するような分野です。
第4分野 社会・経済と統治	この分野は、経済社会の維持とその発展を促してきた諸学問分野を中心とし、それに関連する科目を幅広く包含します。現代社会は、政治と経済の関係だけでなく、社会システム全体が変化しています。世界のボーダレス化はいっそう進展しており、今や世界のどの国や地域も政治経済上の再編の枠外に留まることはできない事態となっています。そのため、これまでの日本社会の在り様を法律、政治、経済、経営等の多面的な側面から検討する必要性が生じ、また、国際社会における地域主義の台頭などによって、国家統治の基礎となってきた法律や諸制度も変化しています。そうした社会構造を解明します。
第5分野 世界の史的構成	現代社会を理解する際の基礎的方法のひとつは、世界を歴史的に把握することです。この分野は、社会科学的な発想を基調としつつ人文科学の見方も包含して、社会を歴史的な観点から考察します。この分野では、分野全体の基礎概念等を説明する科目によって、歴史を見る際の見方と、世界を地域の観点から眺める際の見方を学習します。そして、それを基に世界を大きく5地域(日本、日本を除くアジア、ヨーロッパ、アメリカ、そしてイスラーム圏)に区分して、それぞれの主要課題を考察します。さらに、こうした理解に加えて本学に入学した学生諸君が身近な視点から歴史的存在としての自己の認識を深めることができるような科目を配置しています。
第6分野 自然・科学と人類	この分野は、主に自然科学および科学技術に関する諸分野を対象とし、その歴史や到達点を学ぶとともに、現在および今後の課題について分析・考察する力を養うことを目標とします。現代社会においては、自然科学や科学技術が及ぼす影響は極めて大きくなっており、科学技術と社会の関わりに関心を持つことは不可欠です。とくに宇宙科学、地球科学、生命科学など最先端の科学技術や環境空間、生命倫理などを理解し、自然・科学分野での思考の方法と方向性を養います。問題への関心の強さと学ぶ意欲が求められます。
第7分野 数理と情報	この分野は、主に数理的なものの見方と考え方の涵養をはかりつつ、合わせて情報関連科学に注目します。数理の世界について学ぶことは、どのような分野を専門的に学習する際にも必要である、論理的で合理的な思考方法を身に付けることにつながります。ここで重要なのは、例えば代数学を学ぶ際には方程式の解法を学習するのではなく、方程式という数理的世界の思考方法の特徴を学習することによって現象を論理的に把握することを学ぶことです。代数学、幾何学、解析学など数理の世界は多様ですが、ここではその歴史的発展の経緯、数理的思考法の特徴とその応用などを学習します。さらに、数理の世界の応用として、情報理論とコンピュータ、および情報科学についての、広範な学習を学生に期待します。情報科学の進展は、多様な回路から社会に大きな影響を及ぼしつつありますが、情報技術と社会の諸活動との連関にまで考察の範囲を広げます。

3) 国際教養科目 (B群)

グローバル化社会において必要となる異文化の相互理解の基礎となる科目群です。英語など日本語以外を授業言語とし、人文・社会・自然科学の基礎的学びを通じた幅広い教養とコミュニケーション能力を涵養し、確かな人間観・世界観の構築を目指す科目や、留学を視野に入れた学生のための科目など、外国語運用能力を活用し異文化理解を実践する科目で構成されます。

国際教養科目 (B群) は、「国際教養科目区分」「異文化交流科目区分」「海外留学科目区分」の3つの科目区分から成り立っています。

国際教養科目区分	人文・社会・自然科学などについて、英語など日本語以外を授業言語として学ぶ講義科目および演習科目を配置しています。もしくは初修外国語で学ぶ講義形式の科目を配置しています。「Liberal Arts Seminar」は、テーマに基づき、グループディスカッションやプレゼンテーションを積極的に取り入れた20～35人規模の小集団授業で、学部や回生、文化的な背景の異なる学生同士の学びあいを重視しています。
異文化交流科目区分	文化や歴史など多様な異文化背景を持った学生同士のコミュニケーションを通じて、国際的な感覚を涵養する科目を配置しています。母語と外国語の視点からのコミュニケーションや価値観の違いを通じて、異文化間コミュニケーションや他者理解を学ぶ科目「Cross-cultural Encounters 1」「Cross-cultural Encounters 2」や、グローバルなキャリア形成につながるテーマ設定のもとグループワーク等を通じて学びあい異文化理解を促進する科目「Cross-cultural Seminar」などがあります。
海外留学科目区分	主に、半年から1年程度の海外留学を目指す学生や留学が決定した学生を対象として、海外の大学での学びに必要な学習スキルを学ぶ留学準備科目を配置しています。語学の4技能（読む・聞く・書く・話す）を総合的に用いて留学リテラシーを集中的に学ぶ「Academic Skills 1」「Academic Skills 2」のほか、海外派遣プログラム単位授与科目があります。

4) 社会で学ぶ自己形成科目 (C群)

実社会（企業・公益団体・地域社会等）との連携・協働・相互理解を通して、現代社会を生きる上で求められる市民としての倫理観・正義感・責任感の必要性を理解するとともに、問題発見や創造的課題解決を行う能力を身につける科目群です。この科目群では、実社会の人々や受講生同士の対話や協働を通じて学ぶ「アクティブラーニング」の形式がとられ、特徴の異なる「キャリア教育科目」と「サービ斯拉ーニング科目」に分けられています。

キャリア教育科目	キャリア教育科目では、「自らの学びを活かして、どのように社会や世界と関わるか」を深く省察することにより、自らの将来を構想していきます。学部や専門領域が異なる学生が一つのクラスに集う「多様性」を活かし、全ての科目で受講生同士のグループワークを実施しています。また、多くの産業界の方々からの講演や学生の発表に対するコメントなどを通じて、大学での学びの意義を社会との関わりの中で考え、社会に出るまでに学ぶべきことに気づく機会を提供しています。 1 回生春 semester から学生のキャリア発達段階に応じた科目が配置されているので、初年次から系統的に履修することが望めます。
サービ斯拉ーニング科目	主に NPO・NGO や地域の市民団体、行政機関と共働して、まちづくり・伝統文化・地域福祉・環境保護・地域防災・災害復興などの身近な社会の課題や問題を地域の人々と一緒に考え、汗を流し、解決していくことを通じてシチズンシップを学ぶ科目です。この学び方の手法を「サービ斯拉ーニング」といいます。地域の人々の生活リズムに寄り添いながら授業を行うため、時間割以外の活動期間があります。主体的に取り組み、新たな視野を得るきっかけとしてください。

5) スポーツ・健康科目 (D群)

スポーツに親しみ健康に関する意識を高めることは、若者の人間形成と健康づくりに重大な役割を果たします。この認識のもとに、スポーツ実践そのものを学びの対象とする実技科目と、スポーツを題材としたスポーツの歴史、スポーツの現代社会との関り、スポーツの科学的な研究ならびに健康づくりを題材としたヘルスケア、地域コミュニケーションをテーマとする講義科目によって構成される科目群です。特に実習については、学部・回生を超えた組織・集団づくりを通じて、スポーツ技術やその知識、分析能力の習得のみならず集団に関する幅広い知識と分析能力の涵養を目指しています。

6) 学際総合科目 (E群)

現代社会に必要な課題をテーマとし、学際的・総合的な知の構築を目指し、とりわけ学生の主体的な授業参加を重視する科目群です。既存の学問分野を超えた、また各分野にまたがるテーマで、講義だけでなくグループ学習などを取り入れた多様な授業方法で展開する参加型の授業を目指しています。小集団での調査・研究・討議・発表などを通じて学生が主体となって学びあうことを目指す「教養ゼミナール」、異なるバックグラウンドを持つ学生同士の協働学習を通じて他文化・多文化についての理解を深める「異文化間テーマ演習」、3回生以上を対象とする「超領域リベラルアーツ」から成り立っています。

(5) 教養科目における各科目の位置付けについて

配当回生に基づき、教養科目を「導入」「形成」「先端」に位置付けています（**(6) 教養科目一覧およびカリキュラム・マップ**を参照）。履修計画を立てる際に参考にしてください。

導 入	低回生に受講を強く推奨する科目です。配当回生は、1回生のみ、もしくは、1・2回生とし、3回生以上の履修は認めませんので、注意してください。具体的には以下の科目です。 ■ 1回生のみ：「社会と学ぶ課題解決」 ■ 1・2回生：「日本の近現代と立命館」「ピア・サポート論」「メディアと図書館」「学びとキャリア」「国の行政組織」「Cross-cultural Encounters 1」「地域参加学習入門」「現代社会とボランティア」
形 成	教養教育の多様性を実現する科目です。「導入」「先端」以外の科目は全て「形成」です。配当回生は1回生以上、もしくは、2回生以上です（一部例外あり）。
先 端	学部での専門教育を経た3回生以上を対象とする科目です。 具体的には、人類が直面する課題に対し、学問分野の枠にとらわれず、分野の壁を越えた先進的・学際的・学融合的アプローチを行う科目「超領域リベラルアーツ」のみです。

(6) 教養科目一覧およびカリキュラム・マップ

群	分野・科目区分等	科目名	単位数	配当回生
立命館科目		日本の近現代と立命館	2	1・2回生
		ピア・サポート論	2	1・2回生
		ジェンダーとダイバーシティ	2	1回生以上
		メディアと現代文化	2	1回生以上
		市民と政治	2	1回生以上
		日本国憲法	2	1回生以上
		災害と安全	2	1回生以上
		歴史観の形成	2	1回生以上
		科学・技術と社会	2	1回生以上
		実践データ科学	2	1回生以上
		現代平和論	2	1回生以上
		戦争の歴史と思想	2	1回生以上
		平和人権フィールドスタディ	2	2回生以上
		哲学と人間	2	1回生以上
A群 教養基礎科目	第1分野 思想と人間	人間性と倫理	2	1回生以上
		心理学入門	2	1回生以上
		論理と思考	2	1回生以上
		社会思想史	2	1回生以上
		科学技術と倫理	2	1回生以上
		宗教と社会	2	1回生以上
		メンタルヘルス	2	1回生以上
		(留) 日本の文化・地理・歴史 ※	2	1回生以上
	第2分野 現代と文化	メディアと図書館	2	1・2回生
		社会学入門	2	1回生以上
		文化人類学入門	2	1回生以上
		文学と社会	2	1回生以上
		現代の教育	2	1回生以上
		世界の言語と文化	2	1回生以上
		世界と日本の食文化	2	1回生以上
		観光学	2	1回生以上
		京都学	2	1回生以上
		(留) 日本語学 ※	2	2回生以上
	第3分野 芸術と創造	美と芸術の論理	2	1回生以上
		音楽原論	2	1回生以上
		映像と表現	2	1回生以上
		映像メディア実践入門	2	1回生以上
	第4分野 社会・経済と統治	文芸創作論	2	1回生以上
		国の行政組織	2	1・2回生
		現代社会と法	2	1回生以上
		経済と社会	2	1回生以上
		企業と社会	2	1回生以上
		現代日本の政治	2	1回生以上
		現代の国際関係と日本	2	1回生以上
		現代の世界経済	2	1回生以上
		現代の経営	2	1回生以上
		社会と福祉	2	1回生以上
	第5分野 世界の史的構成	ソーシャルデザイン論	2	1回生以上
		(留) 日本の社会・政治 ※	2	1回生以上
		(留) 日本の経済・経営 ※	2	1回生以上
		エリアスタディ入門	2	1回生以上
		新しい日本史像	2	1回生以上
		中国の国家と社会	2	1回生以上
	第6分野 自然・科学と人類	東アジアと朝鮮半島	2	1回生以上
		ヨーロッパの歴史	2	1回生以上
		アメリカの社会と文化	2	1回生以上
		イスラーム世界の多様性	2	1回生以上
		科学的な見方・考え方	2	1回生以上
		宇宙科学	2	1回生以上
		地球科学	2	1回生以上
		生命科学 (分子と生命)	2	1回生以上
		生命科学 (生物と生態系)	2	1回生以上
		材料と化学	2	1回生以上
		現代環境論	2	1回生以上
		科学と技術の歴史	2	1回生以上
		生命科学と倫理	2	1回生以上
		近現代の科学技術	2	1回生以上
		(留) 日本の自然・科学技術 ※	2	1回生以上
第7分野 数理と情報		数理の世界	2	1回生以上
		情報の数理	2	1回生以上
		情報科学	2	1回生以上
		情報技術と社会	2	1回生以上
		データサイエンス・AI基礎	2	1回生以上
		データエンジニアリング基礎	2	1回生以上

群	分野・科目区分等	科目名	単位数	配当回生
B群 国際教養科目	国際教養科目区分	Liberal Arts Seminar	2	1回生以上
		Introduction to Law	2	1回生以上
		Modern World History	2	1回生以上
		Japan and the West	2	1回生以上
		Introduction to Economics	2	1回生以上
		Kyoto and the Japanese Arts	2	1回生以上
		Special Lecture	2	1回生以上
		Introduction to Linguistics	2	1回生以上
		Introduction to Anthropology	2	1回生以上
		Introduction to Natural Science	2	1回生以上
		Introduction to Humanities	2	1回生以上
		Introduction to the United Nations	2	1回生以上
		Introduction to Peace Studies	2	1回生以上
		Introduction to Gender Studies	2	1回生以上
		Introduction to Computational Linguistics	2	1回生以上
		History of Computing	2	1回生以上
		Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities	2	1回生以上
		Understanding Language	2	1回生以上
		Computers in Education	2	1回生以上
		Language in Politics	2	1回生以上
		Introductory Course to Climate Change and Global Warming	2	1回生以上
		Introductory Course to International Project Development	2	1回生以上
		Understanding Visual Culture	2	1回生以上
		Introduction to Food Culture	2	1回生以上
		Cross Border Policy Issues	2	1回生以上
		Playing with Playfulness	2	1回生以上
		Introduction to Global Justice	2	1回生以上
		Sustainable Development Goals (SDGs) in a Nutshell	2	1回生以上
	異文化・交流	Cross-cultural Encounters 1	2	1・2回生
		Cross-cultural Encounters 2	2	1回生以上
		Cross-cultural Studies	2	1回生以上
		Cross-cultural Seminar	2	1回生以上
	海外留学科目区分	Non-verbal Communication	2	1回生以上
		Academic Skills 1	2	1回生以上
		Academic Skills 2	2	1回生以上
		Global Engineer Program	2	1～3回生
		University of Hawaii Program	2	2・3回生
		グローバル社会の体験と理解	2	1回生以上
		Intensive Language Workshop	2	1回生以上
		Language for Academic Communication	2	1回生以上
		Global Project-Based Learning	2	1回生以上
		Area Study I	2	1回生以上
		Area Study II	4	1回生以上
		Global Study	4	1回生以上
		Academic Communication (Online Learning)	2	1回生以上
		Area Study (Online Learning)	2	1回生以上
		外国留学科目	1～8	1回生以上
		外国留学特修科目	1～8	1回生以上
		社会と学ぶ課題解決	2	1回生のみ
		学びとキャリア	2	1・2回生
		仕事とキャリア	2	2回生以上
C群 社会で学ぶ自己形成科目	キャリア科目	コーオプ演習 (理論)	2	2回生以上
		コーオプ演習 (実践)	2	2回生以上
		地域参加学習入門	2	1・2回生
		現代社会とボランティア	2	1・2回生
		現代社会のフィールドワーク	2	1回生以上
		シチズンシップ・スタディーズ	2	2回生以上
	ラーニングサービス科目	スポーツの歴史と発展	2	1回生以上
		スポーツと現代社会	2	1回生以上
		スポーツ方法実習 I	1	1回生以上
		スポーツ方法実習 II	1	1回生以上
		教養ゼミナール	2	1回生以上
		異文化間テーマ演習	2	1回生以上
	D群 スポーツ・健康科目	超領域リベラルアーツ	2	3回生以上
		単位互換科目	1・2・4	1回生以上
		単位互換科目 (遠隔授業)	1・2・4	1回生以上
		A P U交流科目	1・2・4	2回生以上
		特殊講義 (総合)	2	1回生以上
	E群 学際総合科目			

※科目名に (留) とある科目は日本に対する理解を様々な角度・視点から深めるための「日本事情等に関する科目」で、外国人留学生のみが受講できます。

群	分野、科目区分等	科目名	単位数	授業方法	配当回生	科目の位置付け	カリキュラム・マップ（教養教育の目標Ⅰ～Ⅲに対応する9つの到達目標のうち、特にあてはまるものに○、あてはまるものに◎）								
							【Ⅰ-a】知識	【Ⅰ-b】科学的考察力	【Ⅰ-c】総合的解釈力	【Ⅰ-d】洞察力	【Ⅰ-e】指針の確立	【Ⅰ-f】創造性	【Ⅰ-g】多様性・国際性	【Ⅲ-h】自己表現力	【Ⅲ-i】共創する力
立命館科目		日本の近現代と立命館	2	講義	1・2回生	導入	◎	○	○	◎			○		
		ピア・サポート論	2	講義	1・2回生	導入			○		○		○	○	◎
		ジェンダーとダイバーシティ	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○		○	○	◎		○
		メディアと現代文化	2	講義	1回生以上	形成	○	○	◎	◎		○	○	○	
		市民と政治	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○		◎				
		日本国憲法	2	講義	1回生以上	形成	○			○	◎				
		災害と安全	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	◎	○	○	○	○		
		歴史観の形成	2	講義	1回生以上	形成		◎	○	○	○			○	○
		科学・技術と社会	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	○	◎		○	◎	○	
		実践データ科学	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	◎	○				○	◎
		現代平和論	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○	◎		○		○
		戦争の歴史と思想	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○	◎	○	
		平和人権フィールドスタディ	2	演習	2回生以上	形成		○	○	◎	○		◎		○
教養基盤科目（A群）	第1分野 思想と人間	哲学と人間	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○		○	○	○	
		人間性と倫理	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○	○		○		
		心理学入門	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○		○		○		
		論理と思考	2	講義	1回生以上	形成		◎	○		○			◎	
		社会思想史	2	講義	1回生以上	形成	◎	○	◎	○	◎	○	○		
		科学技術と倫理	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○	◎		○	◎	
		宗教と社会	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○			○		○
		メンタルヘルス	2	講義	1回生以上	形成	◎	○	◎	○					
		（留）日本の文化・地理・歴史	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○			◎		
	第2分野 現代と文化	メディアと図書館	2	講義	1・2回生	導入	◎		○	○			○		○
		社会学入門	2	講義	1回生以上	形成	◎	○	◎	○		○	○	○	◎
		文化人類学入門	2	講義	1回生以上	形成	○	○	◎	◎			◎		
		文学と社会	2	講義	1回生以上	形成	◎		◎	○		◎		○	
		現代の教育	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○	○				
		世界の言語と文化	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○			◎		

群	分野、科目区分等	科目名	単位数	授業方法	配当回生	科目の位置付け	カリキュラム・マップ（教養教育の目標Ⅰ～Ⅲに対応する9つの到達目標のうち、特にあてはまるものに○、あてはまるものに◎）								
							【Ⅰ-a】知識	【Ⅰ-b】科学的考察力	【Ⅰ-c】総合的解釈力	【Ⅰ-d】洞察力	【Ⅰ-e】指針の確立	【Ⅰ-f】創造性	【Ⅰ-g】多様性・国際性	【Ⅲ-h】自己表現力	【Ⅲ-i】共創する力
教養基盤科目（A群）	第2分野 現代と文化	世界と日本の食文化	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○	◎		
		観光学	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	◎			○	○	○
		京都学	2	講義	1回生以上	形成	○		◎				○		
		（留）日本語学	2	講義	2回生以上	形成	○	◎							
	第3分野 芸術と創造	美と芸術の論理	2	講義	1回生以上	形成	○		◎	◎			○		
		音楽原論	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	◎	○					
		映像と表現	2	講義	1回生以上	形成	◎					○			
		映像メディア実践入門	2	講義	1回生以上	形成						○		○	◎
		文芸創作論	2	講義	1回生以上	形成	○					◎	○	◎	○
	第4分野 社会・経済と統治	国の行政組織	2	講義	1・2回生	導入	○		◎						○
		現代社会と法	2	講義	1回生以上	形成	○		○		◎				
		経済と社会	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	◎	○		○	○	○	
		企業と社会	2	講義	1回生以上	形成			◎				○		○
		現代日本の政治	2	講義	1回生以上	形成	○			◎	○				
		現代の国際関係と日本	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○			◎		○
		現代の世界経済	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	
		現代の経営	2	講義	1回生以上	形成		○	◎	○					
		社会と福祉	2	講義	1回生以上	形成	○	○	◎	○		○	◎		○
		ソーシャルデザイン論	2	講義	1回生以上	形成	○	○	◎	○		○	◎		○
		（留）日本の社会・政治	2	講義	1回生以上	形成	◎		○		○		○		○
		（留）日本の経済・経営	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	◎	○		○	○	○	
	第5分野 世界の史的構成	エリアスタディ入門	2	講義	1回生以上	形成	○	○	◎	○			○		
		新しい日本史像	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	○	○			○	○	
		中国の国家と社会	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○			◎		
		東アジアと朝鮮半島	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○			◎		○
		ヨーロッパの歴史	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○	○	○	◎		
		アメリカの社会と文化	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○	○	○	◎		
		イスラーム世界の多様性	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○			◎		○

群	分野、科目区分等	科目名	単位数	授業方法	配当回生	科目の位置付け	カリキュラム・マップ（教養教育の目標Ⅰ～Ⅲに対応する9つの到達目標のうち、特にあてはまるものに○、あてはまるものに◎）								
							【Ⅰ-a】知識	【Ⅰ-b】科学的考察力	【Ⅰ-c】総合的解釈力	【Ⅱ-d】洞察力	【Ⅱ-e】指針の確立	【Ⅱ-f】創造性	【Ⅲ-g】多様性・国際性	【Ⅲ-h】自己表現力	【Ⅲ-i】共創する力
教養基盤科目（A群）	第6分野 自然・科学と人類	科学的な見方・考え方	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	◎	○	○	○	○		
		宇宙科学	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎				○			
		地球科学	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎				○			
		生命科学（分子と生命）	2	講義	1回生以上	形成	◎	○							
		生命科学（生物と生態系）	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	○						
		材料と化学	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	○						
		現代環境論	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	◎	○	○				
		科学と技術の歴史	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	○	○			○		
		生命科学と倫理	2	講義	1回生以上	形成	◎	○	○				○		
		近現代の科学技術	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎		○	◎	○	○		
		（留）日本の自然・科学技術	2	講義	1回生以上	形成	○	◎			○	○	◎		
	第7分野 数理と情報	数理の世界	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	◎			
		情報の数理	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	◎			
		情報科学	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○			
		情報技術と社会	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○	○		○
		データサイエンス・AI基礎	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○		○	○
		データエンジニアリング基礎	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○		○	○
国際教養科目（B群）	国際教養科目区分	Liberal Arts Seminar	2	演習	1回生以上	形成			○				◎	○	
		Introduction to Law	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○	◎		○		○
		Modern World History	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○	○		◎		○
		Japan and the West	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○	○		◎		○
		Introduction to Economics	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	◎	○	○	○	◎	○	
		Kyoto and the Japanese Arts	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○			◎		○
		Special Lecture	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○			◎		○
		Introduction to Linguistics	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○	◎		○		○
		Introduction to Anthropology	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○	◎		○		○
		Introduction to Natural Science	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	○	○	○		○		
		Introduction to Humanities	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○	◎		○		○
		Introduction to the United Nations	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○			◎		○

群	分野、科目区分等	科目名	単位数	授業方法	配当回生	科目の位置付け	カリキュラム・マップ（教養教育の目標Ⅰ～Ⅲに対応する9つの到達目標のうち、特にあてはまるものに○、あてはまるものに◎）								
							【Ⅰ-a】知識	【Ⅰ-b】科学的考察力	【Ⅰ-c】総合的解釈力	【Ⅰ-d】洞察力	【Ⅰ-e】指針の確立	【Ⅰ-f】創造性	【Ⅲ-g】多様性・国際性	【Ⅲ-h】自己表現力	【Ⅲ-i】共創する力
国際教養科目（B群）	国際教養科目区分	Introduction to Peace Studies	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○	◎		○		○
		Introduction to Gender Studies	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○	◎		○		○
		Introduction to Computational Linguistics	2	講義	1回生以上	形成	◎	○	◎	○			◎		
		History of Computing	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○			○		
		Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○			○		
		Understanding Language	2	講義	1回生以上	形成	◎	○	○	○			◎		
		Computers in Education	2	講義	1回生以上	形成	◎	○	○	○			◎		
		Language in Politics	2	講義	1回生以上	形成	◎	○	○	○			◎		
		Introductory Course to Climate Change and Global Warming	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	◎	○	○	○	◎	○	
		Introductory Course to International Project Development	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	◎	○	○	○	◎	○	
		Understanding Visual Culture	2	講義	1回生以上	形成	◎		○				○		
		Introduction to Food Culture	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○		○	◎	◎	◎
		Cross Border Policy Issues	2	演習	1回生以上	形成	○		○		○	○	◎	◎	◎
		Playing with Playfulness	2	講義	1回生以上	形成	○		○			○	◎	○	◎
	異文化交流科目区分	Introduction to Global Justice	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	○		○		◎		○
		Sustainable Development Goals (SDGs) in a Nutshell	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	○		○	○	◎		◎
		Cross-cultural Encounters 1	2	演習	1・2回生	導入			○		○	○	◎	◎	◎
		Cross-cultural Encounters 2	2	演習	1回生以上	形成			○		○	○	◎	◎	◎
		Cross-cultural Studies	2	講義	1回生以上	形成	○					◎	◎		◎
	海外留学科目区分	Cross-cultural Seminar	2	演習	1回生以上	形成	○				◎	◎			◎
		Non-verbal Communication	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○		○	◎	○	◎
		Academic Skills 1	2	演習	1回生以上	形成						○	◎	○	
		Academic Skills 2	2	演習	1回生以上	形成						○	◎	○	
		Global Engineer Program	2	講義	1～3回生	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）				○		○	◎	◎	◎
		University of Hawaii Program	2	講義	2・3回生	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）				○		○	◎	◎	◎
		グローバル社会の体験と理解	2	実習・講義	1回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）							◎		

群	分野、科目区分等	科目名	単位数	授業方法	配当回生	科目の位置付け	カリキュラム・マップ（教養教育の目標Ⅰ～Ⅲに対応する9つの到達目標のうち、特にあてはまるものに○、あてはまるものに○）								
							【Ⅰ-a】知識	【Ⅰ-b】科学的考察力	【Ⅰ-c】総合的解釈力	【Ⅱ-d】洞察力	【Ⅱ-e】指針の確立	【Ⅱ-f】創造性	【Ⅲ-g】多様性・国際性	【Ⅲ-h】自己表現力	【Ⅲ-i】共創する力
国際教養科目（B群）	海外留学科目区分	Intensive Language Workshop	2	講義	1回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）	○						○	○	
		Language for Academic Communication	2	講義	1回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）	○						○	○	○
		Global Project-Based Learning	2	講義・実習	1回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）		○	○	○	○		○	○	○
		Area Study I	2	講義	1回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）	○		○				○		
		Area Study II	4	講義	1回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）	○		○	○		○	○		
		Global Study	4	講義	1回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）	○	○	○	○	○	○	○		
		Academic Communication (Online Learning)	2	講義	1回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）	○						○	○	○
		Area Study (Online Learning)	2	講義	1回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）	○		○			○	○		
社会で学ぶ自己形成科目（C群）	キャリア教育科目	社会と学ぶ課題解決	2	演習	1回生のみ	導入				○		○	○	○	○
		学びとキャリア	2	講義	1・2回生	導入			○	○			○	○	○
		仕事とキャリア	2	講義	2回生以上	形成			○	○			○	○	○
		コーオブ演習（理論）	2	講義	2回生以上	形成			○	○			○	○	○
		コーオブ演習（実践）	2	演習	2回生以上	形成				○		○	○	○	○
	サービスマーケティング科目	地域参加学習入門	2	講義	1・2回生	導入	○	○	○		○	○	○	○	○
		現代社会とボランティア	2	講義	1・2回生	導入	○	○	○		○	○	○	○	○
		現代社会のフィールドワーク	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○		○	○	○	○	○
		シチズンシップ・スタディーズ	2	演習	2回生以上	形成		○	○	○	○	○	○	○	○
スポーツ・健康科目（D群）		スポーツの歴史と発展	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○			○		
		スポーツと現代社会	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○			○		
		スポーツ方法実習Ⅰ	1	実技	1回生以上	形成	○	○			○			○	○
		スポーツ方法実習Ⅱ	1	実技	1回生以上	形成	○	○			○			○	○
学際総合科目（E群）		教養ゼミナール	2	演習	1回生以上	形成			○	○	○	○	○	○	○
		異文化間テーマ演習	2	演習	1回生以上	形成				○			○	○	
		超領域リベラルアーツ	2	講義	3回生以上	先端	○	○	○	○		○	○	○	○

（注意事項）

- ・科目名に「（留）」とある科目は、日本に対する理解を様々な角度・視点から深めることを目的とした「日本事情等に関する科目」で正規留学生・短期留学生のみが受講できます。
- ・国際教養科目（B群）は科目ごともしくは授業ごとに、4段階の「Stage」を設定しています。「Stage」とは、授業で前提とする言語レベルや国際交流の関わり度合いのことです。受講にあたっては「Stage」に相当する語学力を身につけていることが必要です。「Stage」はシラバスで確認してください。なお、初修外国語開講のクラスは、各言語の検定4級以上相当の語学力が必要です。
- ・外国留学科目、外国留学特修科目、単位互換科目、単位互換科目（遠隔授業）、APU交流科目、特殊講義（総合）はこの表には含めておりません。

〈英語開講の授業における言語レベル〉

Stage	TOEIC [®] LISTENING AND READINGテスト	TOEFL ITP [®] テスト	TOEFL iBT [®] テスト	IELTS
Stage 1	380未満	400未満	32未満	4.5未満
Stage 2	380～580	400～480	32～55	4.5～5.0
Stage 3	580～630	480～530	55～71	5.0以上
Stage 4	630以上	530以上	71以上	5.5以上

*TOEIC[®]およびTOEFL[®]はEducational Testing Service (ETS) の登録商標です。
・海外留学科目区分のうち、海外派遣プログラムについては、各プログラムの募集要項で詳細を確認してください。

(7) データサイエンス+Rプログラムについて

本学の教養教育では、“デジタル社会の基礎知識”である数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能を修得できる教育プログラム「データサイエンス+Rプログラム」があります。

プログラムは数理・データサイエンス・AIを活用するための基礎的な知識・スキルを修得する「基礎」と、自らの専門分野への数理・データサイエンス・AIの応用基礎力を修得する「応用基礎」の2種類で構成されており、要件を満たすと履修証明書が発行されます。

デジタル社会が進展するなかで、データサイエンスやAIに関する知識は、従来の「読み・書き・そろばん」的な素養として位置づけられ、在学中に履修、修得することが望ましいです。

1) データサイエンス+Rプログラム（基礎）

対象科目	配当回生	単位
情報技術と社会	1回生以上	2単位

2) データサイエンス+Rプログラム（応用基礎）

対象科目	配当回生	単位
データサイエンス・AI基礎	1回生以上	2単位
データエンジニアリング基礎	1回生以上	2単位

※ 上記2科目の単位取得により応用基礎に求められる知識・技能を修得することができます。

3) データサイエンス+Rプログラムの修了について

上記、データサイエンス+Rプログラム（基礎）ならびにデータサイエンスプログラム（応用基礎）双方の要件を満たした学生へは、その証として履修証明書（オープンバッジ）が付与されます。オープンバッジについての詳細は以下のHPから確認してください。

教養科目の詳細は、「教養教育」ホームページで確認してください。

・右のQRコードから、アクセスできます。



・manaba+Rからは、

「スポーツ健康科学部生のページ」→「スポーツ健康科学部の履修」

→「教養科目の履修」をクリック。

3.3 専門科目

専門科目は、学際的総合科学であるスポーツ健康科学の特性を理解するとともに、人々の健康、幸福な社会、ならびに平和な世界を創造するために必要な専門知識やスキルの獲得を目的としています。この科目では、スポーツ健康科学の学際性や総合性についてより深く理解するために、スポーツ健康科学を構成する多角的な領域におけるミクロからマクロまでの多様な現象や事象を科学的に捉えるとともに、各々の領域及び領域の横断・連携により醸成される英知、社会問題の解決に活かすための専門的素養を身につけます。

(1) 基盤科目

基盤（講義）科目は、学際的総合科学であるスポーツ健康科学の特性に対する基礎的な理解を深めるための科目です。同時に、現代社会におけるスポーツ健康科学の本質・価値、また人々の健康、幸福な社会、ならびに平和な世界を創造するためにスポーツ健康科学が果たす役割や可能性について、人や社会とのつながりから考えるための基礎的素養を養います。

基盤（演習）科目は、「自由と清新」という建学の精神と、「平和と民主主義」という教学理念を踏まえた上で、「大学で学ぶ」ために必要な学習に対する姿勢や学び方に対する理解を深めるとともに、スポーツ健康科学をより深く探究する上で必要な素養や基礎的な力を培う科目です。同時に、自分自身の興味・関心を探索する中で、学際的応用科学であるスポーツ健康科学の多様な研究フィールドを理解するとともに、それらが直面する社会的課題の発見やその解決に向けて、主体的かつ自律的に学習する姿勢を養います。

【基盤科目一覧】

区分	科目名	単位数	配当回生	履修形態
講義	スポーツ健康科学原論	各2単位	1回生以上	履修指定
	ヒト・ひと・人の倫理と哲学			
	身体の構造と働き			
	ヘルスプロモーション (衛生学および公衆衛生学を含む)			
	スポーツ健康科学とデータサイエンス			
	スポーツ健康科学と未来			
演習	基礎演習Ⅰ			
	基礎演習Ⅱ			

(2) 領域科目

領域（講義）科目は、学際的総合科学であるスポーツ健康科学の特性に対して、より深く理解するための科目です。同時に、人々の健康、幸福な社会、ならびに平和な世界を創造するために必要なスポーツ健康科学の専門知識やスキルを、各々の領域の特長と英知、またそのつながりや結びつきを踏まえながら、総合的に理解します。

領域（演習）科目は、学際的総合科学であるスポーツ健康科学の知識やスキルを活用し、人々や社会が直面する様々な課題や問題に対して深く考察した上で、それらを科学的な根拠に基づき解決しようとするための科目です。同時に、修得したスポーツ健康科学の価値や魅力を広く伝えていくための表現力、さらには自らのキャリアと未来を拓くためのより実践的な力を養います。

【領域（演習）科目一覧】

区分	科目名	単位数	配当回生	履修形態
演習	専門演習Ⅰ	各2単位	3回生	履修指定
	専門演習Ⅱ			
	専門演習Ⅲ		4回生	
	専門演習Ⅳ			
	卒業論文	4単位	4回生	必修*

*「卒業論文」は、「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」のいずれかを修得していないと履修できません。

※「専門演習Ⅰ～Ⅳ」の所属クラスは、2回生秋学期に希望調査を実施し選考（志望理由書、成績、面接等）のうえ決定します。なお、「専門演習Ⅰ～Ⅳ」は同一クラスでの受講を原則とします。

【卒業論文】

卒業論文は、学生一人ひとりが主体的かつ自律的な姿勢で研究に臨み、研究テーマの設定から、実験・調査の計画、データの収集から分析、そして結論に至るまで、持てる力を最大限に発揮し、スポーツ健康科学部で学んだ専門的な知識や能力を証明するものです。これを踏まえた上で3つの到達目標を設定しています。

- ①新しいスポーツ健康科学を切り拓く独創的な研究を遂行できるようになる。
- ②論理構成が明確であり、妥当性と信頼性を踏まえた実証研究を手掛けるための能力とスキルを獲得する。
- ③研究および研究成果を通じて、科学の発展や社会に貢献しようとする志と態度を身につける。

卒業論文で成績評価を受けるまでの流れや詳細については、別途案内します。

卒業論文は年間登録上限単位数に含まれます。

(3) 融合科目

融合科目は、学際的総合科学であるスポーツ健康科学の特性や英知を理解した上で、人や社会に内在する様々な問題や社会的課題に対して、多面的な視座から問題の本質を捉え、スポーツ健康科学の英知を融合的、総合的に活かしながら、複眼的かつ相補的に問題を解決するための能力を身につける科目です。同時に、社会的課題の解決に向けて、多様な人々と協働しながら、主体的かつ自律的に取り組むことによって、スポーツ健康科学の価値や魅力、また可能性に対してより深く理解します。

【融合科目一覧】

区分	科目名	単位数	配当回生	履修形態
講義	PBL I	各4単位	2回生	履修指定
演習	PBL II			

(4) プロフェッショナル・キャリア形成科目

プロフェッショナル・キャリア形成科目は、スポーツ健康科学分野におけるより高度な専門性を身につけ、習得した知識とスキルを実践で活かすことをねらいとしています。具体的には、国家資格を始め、スポーツ健康科学分野に関連する資格取得や実践に不可欠な知識とスキルを身につけること、また自らのキャリアを切り拓くために必要な知覚と感性を磨くこともねらいとしています。

1) 「学校保健学」「スポーツ指導実習A（球技：ゴール型）」*

「スポーツ指導実習A（球技：ネット型）」*「スポーツ指導実習A（武道）」*

「スポーツ指導実習B（器械運動）」*「スポーツ指導実習B（陸上競技）」*

「スポーツ指導実習B（水泳）」*「スポーツ指導実習B（ダンス）」*

*以下合わせて「スポーツ指導実習A・B」と表記

教職課程を履修する学生を対象とした科目です。

「学校保健学」では、教師として身につけるべき「学校保健」の知識を習得し、児童生徒が自身の健康を考え行動する力を培うための具体的な方策を考え、実践します。

「スポーツ指導実習A・B」では、実践的にスポーツ指導を行う力量を高めることをねらいとしています。単なるスポーツ技術の指導だけでなく、グループ組織の運営・指導の力も身につけます。

なお、「学校保健学」「スポーツ指導実習A・B」を履修するためには、下表の科目から20単位以上を修得していることが必要ですので、計画的に履修してください。

科目名	
(教) 教育原理	(教) 特別活動の理論と方法
(教) 教職概論	(教) 教育方法論 (ICT活用を含む)
(教) 教育社会学	(教) 生徒指導・進路指導の理論と方法
(教) 教育心理学	(教) 教育相談の理論と方法
(教) 特別支援教育概論	(教) 保健体育科教育概論
(教) 教育課程論	(教) 保健体育科指導法 I
(教) 道徳教育の理論と方法	(教) 介護等体験 (事前指導)

2) エクササイズプログラミング実習Ⅰ・Ⅱ

エクササイズプログラミング実習Ⅰでは、健康運動指導をグループで実践するにあたって、自身が運動を体験するとともに、自身が見本を示し、指導者の視点で運動方法を伝える能力を養います。また、安全で効果的な運動効果を得るためのポイントや指導スキルを習得します。

エクササイズプログラミング実習Ⅱでは、健康運動における指導方法について、主に実習を通じて習得します。リスクマネジメント、生活習慣病に対する運動プログラム作成など、ハイリスク者に対する実践的な指導技術を学びます。具体的な運動プログラムやカウンセリング法の実践実例を紹介し、医療・保健指導などの指導現場で活用できる技能を養います。

3) サービスラーニングならびにインターンシップの履修について

専門科目におけるサービスラーニングならびにインターンシップは、授業内の講義で学んだ理論が、実践の場でどのように用いられているのかを理解し、日常的な疑問を実践の場で解決していくための科目です。スポーツ健康科学部では、このような実践を重視し、様々な実習先を設けています。

なお、この実習の受講生は、受入先の利用者から見れば、受入先組織の一員としてみなされます。そのため、社会的なマナーを守ることはもちろんのこと、実習先について事前に調査し、学びを深めておく必要があります。

①「サービスラーニング（専門）」

サービスラーニングは、特に地域と深く関わることで、コミュニティや地域社会を理解し、その場における課題を理解していくことを目的とした科目となります。スポーツ健康科学の観点に立った具体的な活動としては、地域の健康づくり支援やスポーツ振興、小中学校等の課外活動支援などがあります。実習では、実際のスポーツ活動や健康づくり等の現場に出て、運営のボランティアとして参加し、課題解決のプロセスを学習します。

履修にあたっては、事前にガイダンスと募集を行います。実習先によって実習期間や時間等は異なりますが、実習の他に、必ず事前学習、事後学習等を行います。

ガイダンス日程については、2年生以降の春頃にスポーツ健康科学部事務室よりmanaba+Rにてお知らせします。

②「インターンシップ（国内）・（海外）」

インターンシップは、企業等の現場で就業体験をすることで、キャリア意識の向上や実践力を高める科目です。スポーツ健康科学部では、主に様々なスポーツ・健康に関わる組織でのインターンシップを開講します。スポーツマネジメント分野をはじめ、チームのトレーナーのサポートなど、スポーツ現場での実習などがあります。実践の場を経験することで、社会人になるにあたって必要となる知識や、学んだ理論の活用方法など、様々なことを身につけます。

履修にあたっては、①「サービスラーニング（専門）」と同様に、事前にガイダンスと募集を行います。実習先によって期間や実習時間などは異なりますが、必ず事前学習、事後学習等を行います。

ガイダンス日程については、2年生以降の春頃にスポーツ健康科学部事務室よりmanaba+Rにてお知らせします。

③「クリニカルATインターンシップ（国内）・（海外）」

将来ATC*を目指すにあたって、これまで学んできた知識・スキルを、常に目まぐるしく状況が変化するスポーツ現場で応用する事で、アスレティックトレーニングの専門家となるための基礎的な実践応用力・判断力を身につける科目です。

「クリニカルATインターンシップ（国内）」では、事前に英語で学んだ米国発信の知識を、どう日本の現場に活かし還元できるか考えて実践するという経験を積みまします。こうした実習を通じて、日本語・英語の二言語での現場対応を可能とし、かつ新たな課題の発見などを通して、その後の学習をより意義のあるものとすることを目指します。

履修にあたっては、別途「履修・登録の手引き」を参照してください（他のインターンシップとは異なる扱いとなります）。

また、「クリニカルATインターンシップ（海外）」では、アスレティックトレーニングの本場である米国での最先端の研修経験を通じて、グローバルなコミュニケーション能力の重要性や必要性ならびに知識・スキルの汎用性を認識し、それらを高めます。

履修にあたっては、②「インターンシップ（国内）・（海外）」と合わせて事前にガイダンスと募集を行います。実習先によって期間や実習時間などは異なりますが、必ず事前学習、事後学習を行います。ガイダンス日程については、2回生以降の春頃にスポーツ健康科学部事務室よりmanaba+Rにてお知らせします。

*ATC：米国公認アスレティックトレーナー（「1. ATCとは」P.38を参照）

※上記の①～③の科目は、2回生以上が受講の対象となり、在学中に最大3科目8単位まで履修することが可能です。

※①「サービスマナー（専門）」、②「インターンシップ（国内）・（海外）」は、同一科目で複数の派遣機関にて実習を行うことも可能ですが、同一年度内においては、単位が授与されるのはそれぞれ1科目分のみとなります。

※③「クリニカルATインターンシップ（国内）・（海外）」は、同一科目でも、派遣時期・プログラム内容が異なれば重複受講が可能であり、最大3科目8単位の範囲内であれば履修年度に関係なく単位が授与されます。

※上記①～③の科目は、受講登録上限単位数外であり、成績評価については「P」または「F」で行います。

④「インターンシップ（健康運動指導士）」

健康運動指導士（P.58参照）の資格取得を目指す学生を対象とした実習科目です。

履修にあたっては、事前にガイダンスと募集を行います。実習の他に、必ず事前指導、事前講義（健康産業施設の概要、健康運動指導士の役割、コンプライアンスの遵守等）、ビジネスマナー研修を行います。また実習後には、実習報告書の提出と事後指導の受講を必要とします。受講登録については、年間受講登録上限単位数外、成績評価については「P」または「F」で行います。

詳細については、3回生以降の春頃にスポーツ健康科学部事務室よりmanaba+Rにてお知らせします。

（7）他学部受講制度について（3回生以上）

他学部で開講されている専門科目を「他学部受講科目」として単位取得した場合、最大14単位まで卒業に必要な専門科目の単位として算入することができます。他学部受講科目は年間登録上限単位数に含まれます。

4. 系統履修について

1. 回生別の到達目標

【各回生の到達目標】

1・2回生は、学問の専門力を身に付けるための基礎力の修得期間としています。そこで①教養科目と外国語科目から構成される基礎科目、②「スポーツ健康科学原論」「ヒト・ひと・人の倫理と哲学」「身体の構造と働き」「ヘルスプロモーション」、「スポーツ健康科学とデータサイエンス」「スポーツ健康科学と未来」から構成される専門・基盤（講義）科目、③スポーツ健康科学分野を構成する学問の基礎となる小集団科目「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」で構成される専門・基盤（演習）科目、④スポーツ健康科学分野における各領域の専門科目で構成される専門・領域（講義）科目、⑤様々な問題や社会課題について多面的な視点から問題を捉え、複眼的・相補的に問題を解決するための視点や能力を身に付ける専門・融合科目を配置しています。

3・4回生では主に、専門・領域（講義）科目や「専門演習Ⅰ～Ⅳ」を履修します。また、みなさん自身の課題意識やキャリア形成プランに応じて、専門的な学びを深めることができるようプロフェッショナル・キャリア形成科目を配置しています。そして4回生では、4年間の演習や学部での学びの集大成として、卒業論文を作成します。

1 回生

- 1) 論理的に考える力と教養、スポーツ健康科学分野の基礎的知識を持ち、活用に取り組む。
- 2) 多様な人々と異分野の存在および意義を理解し、社会貢献に繋げる問題発見に取り組む。
- 3) 社会の一員であるという自覚を持ち、目標を持ち挑戦することができる。
- 4) 自分や他者の魅力を理解できる。

教養科目、外国語科目、専門・基盤科目また領域科目の基礎となる科目を十分に学ぶことで、大学での学びの基礎力をしっかり身に付けることが目標です。

そこで、学際的総合科学であるスポーツ健康科学の特性に対する基礎的な理解を深めるための科目であり、現代社会におけるスポーツ健康科学の本質・価値、また人々の健康、幸福な社会、ならびに平和な世界を創造するためにスポーツ健康科学が果たす役割や可能性について、人や社会とのつながりから考えるための基礎的素養を養う科目である、専門・基盤（講義）科目を中心に履修します。

また、「大学で学ぶ」ために必要な学習に対する姿勢や学び方に対する理解を深めるとともに、スポーツ健康科学をより深く探究する上で必要な素養や基礎的な力を培う科目であり、自分自身の興味・関心を探索する中で、学際的応用科学であるスポーツ健康科学の多様な研究フィールドを理解するとともに、それらが直面する社会的課題の発見やその解決に向けて、主体的かつ自律的に学習する姿勢を養う専門・基盤（演習）科目である「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を履修します。

専門・領域（講義）科目では、学際的総合科学であるスポーツ健康科学における各領域の基礎的な科目である概論科目を履修します。

2 回生

- 1) 論理的に考える力と教養、スポーツ健康科学分野の知識を持ち、活用に取り組む。
- 2) 多様な人々と異分野の存在および意義を理解し、問題解決に取り組む。
- 3) 社会との関わりを通じて掲げた目標達成に向け挑戦することができる。
- 4) 自分や他者の魅力を理解し、成果を生み出すために協働できる。

1回生に引き続き、教養科目、外国語科目、そして専門・領域（講義）科目を履修します。専門・領域（講義）科目では、学際的総合科学であるスポーツ健康科学における各領域の専門的知識やスキルを身に付けるため、各領域の科目を幅広く履修します。

また、専門・基盤（講義）科目や、専門・領域（講義）科目で得た知識を踏まえ、様々な問題や社会課題について多面的な視点から問題を捉え、複眼的・相補的に問題を解決するための視点や能力を身に付ける専門・融合科目を履修します。この科目では、社会的課題の解決に向けて、多様な人々と協働しながら、主体的かつ自律的に取り組むことによって、スポーツ健康科学の価値や魅力、また可能性に対してより深く理解する事を目的としています。

また、プロフェッショナル・キャリア形成科目として「スポーツ健康科学セミナー」を配置し、様々なキャリアを持った講師を招きキャリアイメージをより明確にしていきます。同時に「インターンシップ（国内）・（海外）」、「サービスマーケティング（専門）」により、就業体験、地域貢献を通して、学びの問題意識やキャリア意識をより明確にすることで、理論と実践の往還を図ります。

3 回生

- 1) 論理的に考える力と教養、スポーツ健康科学分野の知識を持ち、研究に取り組む。
- 2) 多様な人々と協働し、異分野を融合して、問題解決に取り組む。
- 3) 社会課題解決のための未来ビジョンをもち、達成に向け努力することができる。
- 4) 自分や他者の魅力を活かしながら、成果を生み出すために協働できる。

3回生からはいよいよ専門演習（ゼミ）が始まります。自らのキャリア意識やスポーツ健康科学の課題の中で明らかにしたいテーマにもとづき、これまでに得たスポーツ健康科学における各領域の専門的知識やスキルを活用し、様々な問題や社会課題の解決に取り組みます。また、並行して、専門・領域（講義）科目を中心に履修し、専門的な知識やスキルの修得に取り組むことで、自らが取り組む課題に対する、複眼的な視点や課題解決に向けたスキルの深化・豊富化を図ります。

また、自身のキャリア意識に即したプロフェッショナル・キャリア形成科目の履修を通じて、国家資格を始めとした、スポーツ健康科学分野に関連する資格取得や実践に不可欠な知識とスキルの修得や、自らのキャリアを切り拓くために必要な知覚と感性を磨きます。

4回生

- 1) 論理的に考える力と教養、スポーツ健康科学分野の知識を総合的に理解し、活用できる。
- 2) 多様な人々との協働および異分野を融合して、社会貢献につながる問題解決に取り組む。
- 3) 責任を持って社会課題を解決していくために、志高く主体的に挑戦できる。
- 4) 自身が属する組織ならびに社会の魅力・価値を高めるために、自身の魅力を発揮するとともに他者の魅力を活かしながら、成果を生み出すことができる。

大学での学びの集大成になります。これまでに身に付けた様々な力を再度磨き直し、さらに専門性を高めていきます。「専門演習Ⅲ・Ⅳ」では、スポーツ健康科学の課題の中で明らかにしたいテーマに対して、これまで学んだスポーツ健康科学の各領域の専門知識やスキル、様々な視点等を融合して、学修した理論のみならず実践的なアプローチも含めて、卒業論文としてまとめます。4回生では、今まで学んだことを踏まえた上で、自らの課題設定をして表現することを最大の目標とします。

Ⅲ. スポーツ健康科学部の特色ある学びについて

グローバル・アスレティックトレーニング (GAT) プログラム

1. ATCとは

1990年にアメリカ医学会において認知されたATC（Certified Athletic Trainer：米国公認アスレティックトレーナー）は、プロスポーツ選手から一般の人々を対象に、活動（運動）中に起こる外傷の救急措置、傷害や疾病の予防・認知・評価、そしてリハビリテーションなどに関わる専門職であり、理学療法士や看護師等と同じ準医療従事者です。ATCの資格を得るためには、CAATE（The Commission on Accreditation of Athletic Training Education）公認のカリキュラムを持つ大学院を修了し、BOC（Board of Certification）による資格認定試験に合格する必要があります。

2. GATプログラムについて

グローバル・アスレティックトレーニング（以下、GAT）プログラムは、立命館大学スポーツ健康科学部の独自プログラムです。このプログラムは、CAATE公認のカリキュラムを備えた大学院を持つ米国大学院と提携し、最速で4回生の春学期終了時までに立命館大学の卒業に必要な科目の修得を終え、夏頃から各大学院へ留学し、立命館大学の学士号と各大学院の修士号の取得を可能とする「Global Accelerated Program（グローバルー貫学修プログラム）」です。

また、2018年度以降入学者は、早期卒業制度（※）を利用して、3年で立命館大学スポーツ健康科学部を卒業し、卒業した年の夏頃に各大学院へ留学することも可能です。

立命館大学で修得した科目が提携先の米国大学院入学の先修要件として認められることで、通常個人で留学する場合と比べて短い期間で修士号まで取得し、ATCの資格認定試験の受験資格が得られるプログラムとなっています。

（※）早期卒業制度を利用するには別途申請が必要であり、定められた履修・成績上の要件を満たす必要があります。詳細は、P.15を参照してください。

3. GATプログラムへの参加および各大学院への入学のための要件

立命館大学入学後、新入生オリエンテーションでGATプログラムに参加するためのStep-Upコースの参加者を募集します。スポーツ健康科学部における学修や単位修得を進めた上で、3回生の秋学期にGATプログラムへの参加を申し込み、出願手続を経て提携先の米国大学院へ入学、留学を開始します。その後、同大学院の修士号取得に向けて、所定科目の履修を進めていきます。

最速で同大学院へ入学するためには、一定以上の成績で4回生の春学期終了時まで（早期卒業適用者は3回生の秋学期終了時まで）に、立命館大学卒業に必要な科目を修得する必要があります。また、スポーツ健康科学部開講のGATプログラム向け科目や、同大学院への出願手続、大学院での講義などは、全て英語で実施されるため、高い英語運用能力が必須です。

したがって、GATプログラムに参加するにあたっては、スポーツ健康科学部における履修をしっかりと積み重ねていること、必要な英語運用能力を有すること、そしてATC資格取得に向けて強い意志があることが求められます。

プログラムの詳細は、別途、要項やガイダンスで確認してください。

Ⅳ. 学部横断プログラムについて

1. 海外留学について
2. 大学間単位互換制度

1. 海外留学について

1.1 海外留学を計画するにあたって

立命館大学は、「地球市民として活躍できる人間」を目的として、海外に多くの協定校を有し、目的やレベルに応じた多彩な海外留学プログラムを用意しています。立命館大学国際教育センターが主催する全学生が応募可能なプログラムのほか、各学部や教学機関でも独自のプログラムを用意しています。在学中に海外留学を経験することは、皆さんの大学生活を豊かなものとし、また将来の進路選択にとっても大切な機会となります。

限られた大学生活のなかで「海外留学」を成功させるためには、明確な目的意識を持ち、留学中・留学後を見通した学生生活の計画を立てる必要があります。例えば、①目的意識と動機を明確にする、②経費を含めた留学計画の情報を保護者と共有する、③留学に向けた継続的な学習を進める、④帰国後の目標・進路を考える、ことなどです。また、長期の留学では、派遣前の約1年前に募集を行いますので、日々の学習はもちろん、応募条件となる語学検定の受験など、早めの準備を行きましょう。なお、長期留学をする場合は、その時期や履修状況によっては4年間での卒業ができなくなる可能性があります。

1.2 海外留学プログラムの種類

	全学募集プログラム	各学部・教学機関のプログラム
主催	国際教育センター	各学部・教学機関
対象	全学部学生（一部を除く）	所属学部学生（一部他学部生も可）
区分	自身が留学を通して経験したいことや身に付けたい力に沿ってプログラムを選択し参加できるよう、海外留学プログラムを以下の「ねらい」で類型しています。 ①グローバルな体験を通じ世界を知る ②アカデミックな外国語を習得する ③特定の課題について解決策を探る ④世界の地域を深く知る ⑤専門的な内容を外国語で学ぶ	学部教学に関連した内容の短期プログラムが展開されています。学部によっては、中期から長期のプログラムもあります。詳細は、主催する学部・教学機関にお問い合わせください。

* 各プログラムの内容・募集時期・実施時期・プログラム内容・単位修得・応募方法・応募条件等の詳細は、各募集要項や海外留学プログラムホームページなどを確認してください。

* 上記の留学プログラムには、給付型の奨学金があります。詳細は各プログラムの募集要項を確認してください。

1.3 留学中の学籍・留学中に修得した単位の認定等

区分	学籍状態の概要	単位認定・単位授与
立命館大学の海外留学プログラムを利用して留学する場合	①派遣期間や要件に応じて学籍が「在学」から「留学」となる場合があります。また、実際の派遣期間と学籍上の「留学」期間は一致しない場合があります。（*1） ②学籍上「留学」となる期間は、原則として本学の科目を受講登録できません。一部受講登録を認められる科目がありますので、スポーツ健康科学部事務室に相談してください。（*2）	プログラム内容に基づいて、単位認定・単位授与が行われます。詳細は、各プログラムの募集要項で確認してください。（*3）
休学制度を利用して留学する場合（私費留学）（*4）	学籍が「休学」の期間は、在学期間には含まれません。	単位認定は行いません。

* 1：「学修要覧（全学部共通編）Ⅰ. 学籍 11. 留学」を参照してください。

* 2：「学修要覧（全学部共通編）Ⅲ. 本学での履修 4. 受講登録（4.1 受講登録とは【留学から帰国した場合の受講登録について】）」を参照してください（ただし、学部共同単位プログラム（DUDP）は除く）。

* 3：「学修要覧（全学部共通編）Ⅲ. 本学での履修 6. 成績および単位授与・認定」を参照してください。

* 4：休学制度を利用して留学する場合は、留学先機関の受入許可手続きや渡航に関する手続きをはじめ、自分自身で留学手続きを行います。休学する場合は、「学修要覧（全学部共通編）Ⅰ. 学籍 9. 休学」を参照して、事前にスポーツ健康科学部事務室に相談してください。

1.4 大学で得られる 海外留学に 関する情報に ついて

- ①全学募集プログラムにおいては海外留学プログラム ホームページ、学部・教学機関プログラムにおいては各学部・教学機関 ホームページで確認してください。
- ②Beyond Borders Plaza (BBP) では、海外留学に役立つ情報、教材、企画を提供しています。詳細は、Beyond Borders Plaza ホームページで確認してください。

〈海外留学プログラム ホームページ、Beyond Borders Plaza ホームページには以下のQRコードからアクセスできます〉

【海外留学プログラムホームページ】



【Beyond Borders Plazaホームページ】



③国際教育センター

- ・「Study Abroad Guide」などのパンフレットを配布しています。
- ・「海外留学フェア」など、海外留学を支援する様々な企画を実施しています。
- ・海外留学に関する相談は、「海外留学プログラムホームページ」の「海外留学相談」ページを確認してください。

2. 大学間単位互換制度

2.1 環びわ湖大学・ 地域コンソーシアム 単位互換制度／ 大学コンソーシアム 京都単位互換制度

環びわ湖大学・地域コンソーシアム単位互換制度とは、滋賀県内の他大学の科目を履修し、それを立命館大学の単位として認定する制度です。皆さんの幅広い関心と興味に応じ、本学にはない分野の科目を学ぶことが可能です。

BKC学部学生が利用できる大学間単位互換制度には、環びわ湖大学・地域コンソーシアム単位互換制度（滋賀県内の大学）のほかに、大学コンソーシアム京都単位互換制度（主に京都地域を中心とした大学）があります。

（１）主なスケジュール

【環びわ湖大学・地域コンソーシアム単位互換制度】・【大学コンソーシアム京都単位互換制度】

- ・出願の詳細発表（3月下旬）：manaba+Rにて案内します。
- ※出願・受講にあたっての説明も公開するため、必ず確認のこと。
- ・履修希望科目の出願（4月上旬のみ〈追加募集なし〉）：指定のWEB上から、毎年度合計2科目まで出願可
- ・履修許可発表（4月下旬）：manaba+Rで発表、履修許可された科目は受講登録外で登録
- ・科目開設大学への履修手続（受講許可後、各大学の指示に従うこと）
- ・科目開設大学での履修／試験・レポート提出等（各大学の学年暦、開講日程、時間割に従うこと）
- ※本学の定期試験と他大学の試験や授業（夏集中科目を除く）が重複した場合は、本学追試験の受験が可能。
- ・成績発表（3月下旬）：CAMPUS WEBに掲載

（２）単位認定

- ・認定時期：秋学期
- ・認定される区分：教養科目
- ・認定される科目名：学部によって異なります。詳細は、出願の詳細発表時に確認してください。
- ・評価：合格の場合「T」、不合格の場合「F」

2.2 立命館アジア太平洋大学(APU) 交流学生プログラム

このプログラムでは、立命館大学に所属しながら、立命館アジア太平洋大学（以下、APU）の科目を履修することができます。具体的には、以下の2つの交流プログラムを提供しています。

（1）交流学生プログラム

①制度の概要

半年（春学期・秋学期）または1年間、「特別聴講学生」として、APUの授業科目を受講できるプログラムです。

②主なスケジュール

- ・ 10月頃／4月頃 募集ガイダンス
- ・ 11月／5月頃 交流プログラムへの出願
- ・ 12月／7月頃 履修許可発表および許可者ガイダンス
- ・ 3月中旬／9月上旬頃 派遣前ガイダンス（履修ガイダンス）
- ・ 3月下旬／9月中旬頃 出発
- ・ 4月／9月下旬頃 APUで履修開始

③単位認定

- ・ 認定時期：プログラム終了日を含む学期の末日
- ・ 認定される区分：基礎科目もしくは専門科目
- ・ 認定評価：合格の場合「T」、不合格の場合「F」

（2）サマーセッションプログラム

①制度の概要

APUのサマーセッション（夏集中講義）科目を受講できるプログラムです。受講期間は立命館大学の定期試験日程と一部重複しています。重複により定期試験・追試験が受験できなかった場合でも配慮は行いません。

②主なスケジュール

- ・ 6月頃 履修科目の出願（指定のWEB上から毎年度1科目出願可）
- ・ 7月下旬頃 履修許可発表およびガイダンス
- ・ 8月上旬頃 APUのサマーセッション（夏集中講義）科目受講期間
- ・ 9月中旬頃 APUで成績発表
- ・ 9月下旬頃 本学で単位認定

③単位認定

- ・ 認定時期：春学期
- ・ 認定される区分：基礎科目もしくは専門科目
- ・ 認定評価：合格の場合「T」、不合格の場合「F」

（3）詳細情報の入手について

募集ガイドや具体的な応募方法、受講にあたっての詳細は、manaba+RおよびAPU交流プログラムサイトにて案内します。

V. 教職課程について

1. 教職課程を学ぶにあたって

本学では、「自由と清新」を建学の精神とし、「平和と民主主義」を教学理念とする大学の学びを基礎とし、総合大学としての高度な専門性と多様性を生かすことによって教師教育（教員養成）を行ってきました。この建学の精神及び教学理念でめざしてきたものは、確かな学力と深い人間理解のもと、子供の未来を信じ、正義と倫理をもった地球市民として教育活動を行う個性豊かな教師の養成です。

本学の教職課程において養成を目指す教師像は、具体的に表現すると、以下の6つの力を身につけた教師です。

①授業力

（確かな学力のもと、深い授業観を持ち、授業を遂行する）

②児童生徒理解力

（児童生徒を理解し児童生徒と関わる）

③教師としてのコミュニケーション力

（学校における多様なコミュニケーションを行う）

④教師としてのマネジメント力

（学校における各種マネジメントを行う）

⑤教師としての自己形成力

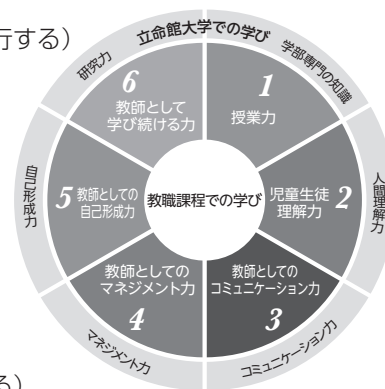
（教職に関する深い知識や倫理を身につける）

⑥教師として学び続ける力

（学校教育をめぐる問題を解決するために学び続ける）

これらの力は、立命館の学部教学において身につけられる、深い教養、教科専門知識と研究遂行力、平和と民主主義への志向、国際志向、そして各学部のディプロマポリシーに基づく資質能力が支えることによって、より豊かなものとなります。

本学では、課程認定を受けた8学部において教職課程を設置しており、教職を希望する皆さんは、所属学部設置されている教職課程を履修することができます。定められた教職科目を履修・単位修得すれば、各都道府県教育委員会への申請によって教員免許状を取得することができます。ただし、履修すべき教職科目の多くは、各学部での卒業に必要な単位とは別に修得しなければなりません。単に免許状取得だけを目的にしたような安易な気持ちでの教職課程の履修は、卒業時に希望していた教員免許状の取得ができないのみならず、学部科目の履修計画を困難にすることもありますので、しっかりとした目的意識をもって履修することが必要となります。



2. 教職課程履修計画

本学の教職課程は、1回生から4回生までの4年間を基本としたカリキュラム構成となっています。したがって、原則として1回生から履修を開始し、必要な科目を配当回生にそって4年間をかけて段階的・計画的に履修していくことが必要です。例えば2回生以降に履修を開始した場合や、留学や休学などで履修を一時中断した場合などは、4回生での卒業と同時に履修を終えることができるとは限りません。

また、教員免許状を取得するためには、教職課程科目の履修に加えて、教職課程に関する諸行事（ガイダンス・オリエンテーションなど）に必ず出席するとともに、大学が定めた所定の手続き（「教職自己分析シート」の提出、教育実習や介護等体験などの各種手続き）も行わなければなりません。諸行事への遅刻・無断欠席や所定期日内の手続き未了の場合には、その履修や実習への参加を認めません。

3. 「教職自己分析シート」について

教育職員免許法施行規則において、皆さんの教職課程における学びの履修履歴を把握し、それを踏まえた指導を行い、不足している知識や技術等を補うため、教員による「履修カルテ」を用いた指導が求められています。本学では、この「履修カルテ」のことを「教職自己分析シート」と呼んでいます。

1回生での履修を終えた段階から、毎年「教職自己分析シート」を作成していきます。提出方法や提出期日等詳細は、2回生春学期に行われる教職課程ガイダンスや「(教) 学校教育総合演習」、「(教) 教育実習事前指導」および「(教) 教職実践演習 (中・高)」を通じて説明します。なお、「教職自己分析シート」の作成・提出は、必修科目「(教) 学校教育総合演習」「(教) 教育実習事前指導」「(教) 教職実践演習 (中・高)」の履修や単位修得の要件になっています。

4. スポーツ健康科学部で取得できる教員免許状の種類

下表は、スポーツ健康科学部が文部科学大臣より認定を受けている課程です。

なお、教員免許状は、免許状取得有資格者本人からの申請にもとづき、授与権者である都道府県教育委員会が授与します。授与された免許状は、全国の都道府県において効力を有します。

学部・学科		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	保健体育	保健体育

小学校教諭免許状取得プログラム

2013年度より、佛教大学通信教育課程と連携した「小学校教諭免許状取得プログラム（佛教大学協定方式）」が開設されました。このプログラムにより、産業社会学部子ども社会専攻以外の学生でも、スポーツ健康科学部の教職課程（中学校教諭一種免許状）を修得することを条件として、小学校教諭一種免許状を取得することが可能となります。応募要件・プログラム内容等詳細は、1、2回生の11月頃に実施するガイダンスで説明します。

5. 教員採用試験受験にあたって

（教職支援センターの利用について）

教員になるには、教員免許状を取得するとともに、各都道府県等の実施する教員採用試験に合格しなければなりません。本学では、教職支援センターを設置し、教員志望者に対する対策講座の開講や、情報資料・参考書等を豊富に揃えており、教員採用に関する具体的な相談・指導助言に応じています。教員志望の人はできるだけ早い段階から積極的に利用してください。

● 「教職支援センター」ホームページ

立命館大学教職支援センター



検索

<https://www.ritsumei.ac.jp/kyoshoku/>

『教職課程における学びの流れ』

教育職員免許法施行規則に規定する科目	本学における最低必要単位数		1 回生	2 回生	3 回生	4 回生
	中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状				
免許法 施行規則 第66条の6	日本国憲法	2	教職課程科目の履修開始 (1 回生 配当科目)	教職課程科目の履修開始 (2 回生 配当科目)		
	体育	2				
	外国語コミュニケーション	2				
	数理、データ活用 及び人工知能に関 する科目又は情報 機器の操作	2				
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解 に関する科目					〔教〕教育実習ⅠまたはⅡ（事後指導を含む） ※受講要件：受講年度の開始時点で、卒業見込みおよび教員免許状取得見込み、かつ実習校や教育委員会との手続きが完了していること
	道徳、総合的な学 習の時間等の指導 法及び生徒指導、 教育相談等に関す る科目	31			〔20単位要件〕 ※3	受講要件 ※5
	教育実践に関する 科目				〔教〕教育実習事前指導〈秋学期〉 ※受講要件：「〔教〕学校教育総合演習」の 単位を修得していること	〔教〕教職実践演習（中・高）〔秋学期〕 ※受講要件：受講年度の開始時点で、卒業見込みおよび教員免許状取得見込みであること
	教科及び教科の指 導法に関する科目	28 ※1				
	大学が独自に設定 する科目	4		〈中学校教諭一種免許取得希望者〉 〔教〕介護等体験（事前指導）〈秋学期〉 ※受講要件：原則受講前年度に「〔教〕介護等体験（事前指導）」の単位を修得していること	〔教〕学校教育総合演習〈春学期〉 ※受講要件：受講前年度までに「教職自己分析シート1」を提出済であること	
		8 ※2		〈中学校教諭一種免許取得希望者〉 〔教〕介護等体験（事前指導）〈秋学期〉 ※受講要件：原則受講前年度に「〔教〕介護等体験（事前指導）」の単位を修得していること	〈中学校教諭一種免許取得希望者〉 〔教〕介護等体験実習 ※受講要件：原則受講前年度に「〔教〕介護等体験（事前指導）」の単位を修得していること	
				〔教職自己分析シート1〕の提出〈春学期〉 ※翌年度に「〔教〕学校教育総合演習」を受講するための要件	〔教職自己分析シート2〕の提出〈春学期〉 ※「〔教〕学校教育総合演習」単位修得の要件 〔教職自己分析シート3〕の提出〈秋学期〉 ※「〔教〕教育実習事前指導」単位修得の要件	〔教職自己分析シート4〕の提出〈秋学期〉 ※「〔教〕教職実践演習（中・高）」単位修得の要件

※1 学部や教科によって、「教科及び教科の指導法に関する科目」は28単位を超える単位修得が必要な場合があります。

※2 学部や教科によって、「教科及び教科の指導法に関する科目」は24単位を超える単位修得が必要な場合があります。その場合、「大学が独自に設定する科目」の最低必要単位数は、「教科及び教科の指導法に関する科目」24単位を超えた単位分だけ減じられます。

※3 1・2回生配当の教職基礎科目のうち20単位以上修得していない場合は、3回生以上配当の「教職基礎科目」、「教職発展科目」を受講できません。

※4 「(教) 学校教育総合演習」を受講するには「教職自己分析シート1」の提出が必要です。

※5 「(教) 教育実習 I または II (事後指導を含む)」、「(教) 教職実践演習 (中・高)」を受講するには要件があります。「(教) 教育実習 I または II (事後指導を含む)」の受講資格を確認してください。

6. 教員免許状取得の基礎資格および必要単位

「教育職員免許法」および「教育職員免許法施行規則」により教員免許状の取得に必要な基礎資格と必要単位数が定められています。基礎資格とは、各自が所属する学部において卒業に必要な単位を修得し、学士の学位を取得することです。免許状の種類毎の必要単位数は、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」、「教科及び教職に関する科目」を各自の入学年度に応じた科目表にしたがって修得する必要があります。また、小学校・中学校教諭免許状を取得する場合は、法律で定められた「介護等体験」の受講が必要となります。本学における教員免許状の取得に必要な基礎資格と免許状の種類毎の必要単位数は下表の通りです。法定上の必要単位数はこれとは一部異なります。

(1) 基礎資格と必要単位

① 中学校教諭一種免許状の必要単位

〈基礎資格〉 学士の学位を 有すること	免許法施行規則第66条の6				教科及び教職に関する科目			合 計
	日本国憲法	体育	外国語 コミュニケーション	数理、データ活用及び 人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	教育の基礎的理解に 関する科目等(※1)	教科及び教科の 指導法に関する科目	大学が独自に 設定する科目	
本学が定める 最低修得単位数	2	2	2	2	31	28	4 (※2)	71
免許法施行規則 に定める最低修 得単位数	2	2	2	2	27	28	4	67

② 高等学校教諭一種免許状の必要単位

〈基礎資格〉 学士の学位を 有すること	免許法施行規則第66条の6				教科及び教職に関する科目			合 計
	日本国憲法	体育	外国語 コミュニケーション	数理、データ活用及び 人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	教育の基礎的理解に 関する科目等(※1)	教科及び教科の 指導法に関する科目	大学が独自に 設定する科目	
本学が定める 最低修得単位数	2	2	2	2	27	24	8 (※3)	67
免許法施行規則 に定める最低修 得単位数	2	2	2	2	23	24	12	67

- ※1 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の各分野の合計を指します。
- ※2 中学校一種免許状の「大学が独自に設定する科目」における必修科目は、「(教) 学校教育総合演習」(2単位)、「(教) 介護等体験(事前指導)」(1単位) および「(教) 介護等体験実習」(1単位) の計4単位です。
- ※3 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「教科及び教科の指導法に関する科目」のそれぞれ定められた最低修得単位数を超えて修得した単位数(余剰分)は、「大学が独自に設定する科目」としてみなすことができます。例：「(教) 学校教育総合演習」(2単位) を修得し、余剰分が6単位ある場合は、「大学が独自に設定する科目」の本学における最低修得単位数8単位を満たしたことになります。

(2) 教職基礎科目と教職発展科目(本学における科目区分)

教育職員免許法施行規則における「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「教科及び教科の指導法に関する科目」および「大学が独自に設定する科目」は、本学では「教職基礎科目」と「教職発展科目」という区分を設け科目を設置しています。

①教職基礎科目

教員免許状の取得に必要な科目であり、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の必修科目（中一種免31単位・高一種免27単位）、「各教科の指導法」の「(教)保健体育科授業発展演習」以外の科目、および「大学が独自に設定する科目」の「(教)学校教育総合演習」（2単位）、「(教)介護等体験（事前指導）」（1単位）、「(教)介護等体験実習」（1単位）を指します。全て「自由科目（随意科目）」（＝卒業要件には含まれない科目）です。

②教職発展科目

教員免許状の取得上は全て選択科目ですが、将来、教員採用試験の受験や教育系大学院への進学など、「進路としての教職」に強い意欲と目標を持つ皆さんにとっては必須の科目です。教員免許状の取得に必要な教職基礎科目の履修・単位修得を踏まえ、さらにより広く、深く学ぶ意欲を持つ皆さんが受講する科目です。全て3回生以上配当で、これらの科目の修得単位は、卒業に必要な単位に含まれず、セメスター毎の受講登録上限単位数にも含まれません。なお、「各教科の指導法」の科目のうち「(教)保健体育科授業発展演習」は、教職発展科目です。

7.「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」

免教育職員免許法施行規則第66条の6		スポーツ健康科学部で履修すべき科目		
科 目		科目名	必要単位数	履修区分
日本国憲法		日本国憲法	2	必 修
体 育		スポーツと現代社会	2	2単位以上選択必修
		スポーツ方法実習Ⅰ	1	
		スポーツ方法実習Ⅱ	1	
		スポーツコーチング論	2	
外国語コミュニケーション		英語P 1	1	2単位以上選択必修
		英語P 2	1	
		英語P 3	1	
		英語P 4	1	
数理・データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	数理・データ活用及び人工知能に関する科目	情報技術と社会	2	2単位以上選択必修
	情報機器の操作	スポーツ健康科学とデータサイエンス	2	

8.「教育の基礎的理解に関する科目」等^{注1)}

3回生以上配当の「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」については、1・2回生配当の教職基礎科目^{注2)}のうち、20単位以上修得しなければ受講できません（後述の〈3回生配当科目を受講するための「20単位要件」について〉参照）。

注1)「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」

注2)「各教科の指導法」科目（2回生配当科目の4単位）、「大学が独自に設定する科目」の「(教)介護等体験（事前指導）」（2回生配当科目の1単位）を含む。

教育職員免許法施行規則に規定する科目			本学で修得すべき科目					
科 目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	教職基礎科目			教職発展科目		
			科目名 (丸囲みの数字は単位数)	配当 回生	履修区分	科目名 (丸囲みの数字は単位数)	配当 回生	履修 区分
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	(教) 教育原理②	1以上	必修			
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		(教) 教職概論②	1以上	必修			
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		(教) 教育社会学②	1以上	必修	(教) 教育制度論②	3以上	選択
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		(教) 教育心理学②	1以上	必修	(教) 児童・生徒理解の心理学②	3以上	選択
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		(教) 特別支援教育概論②	1以上	必修			
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		(教) 教育課程論②	2以上	必修			
								12
生徒指導、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中学10 高校8	(教) 道徳教育の理論と方法②	2以上	中学必修	(教) 道徳授業発展演習②	3以上	中学選択
	総合的な学習の時間の指導法		(教) 総合的な学習の時間の理論と方法②	3以上	必修			
	特別活動の指導法		(教) 特別活動の理論と方法②	2以上	必修			
	教育の方法及び技術		(教) 教育方法論 (ICT活用を含む) ②	2以上	必修			
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法							
	生徒指導の理論及び方法		(教) 生徒指導・進路指導の理論と方法②	2以上	必修			
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法							
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		(教) 教育相談の理論と方法②	2以上	必修	(教) 教育相談の実践②	3以上	選択
教育実践に関する科目	教育実習	中学5 高校3	(教) 教育実習事前指導①(※1) (教) 教育実習Ⅰ(事後指導を含む)② (教) 教育実習Ⅱ(事後指導を含む)④	3以上 4以上 4以上	必修 中学校4単位、 高校2単位以上 選択必修(※2)			中学5 高校3
	教職実践演習	2	(教) 教職実践演習(中・高)②	4以上	必修			2

- ※1 「(教) 教育実習事前指導」は、大学における事前指導をその内容としているため、教育実習を履修する前年度に履修し、その単位を修得しなければなりません。
- ※2 中学校教諭一種免許状のみ、または中学校教諭一種免許状と高等学校教諭一種免許状の両方取得する人は「(教) 教育実習Ⅱ(事後指導を含む)」(4単位)を履修してください。
高等学校教諭一種免許状のみを取得する人は「(教) 教育実習Ⅰ(事後指導を含む)」(2単位)を履修してください。ただし、高等学校で3週間実習を行う人は「(教) 教育実習Ⅱ(事後指導を含む)」(4単位)を履修してください。

〈3回生配当科目を受講するための「20単位要件」について〉

以下の(1)～(3)の3回生以上配当科目を受講するためには、下表の1・2回生配当科目のうち、20単位以上修得していなければなりません。

- (1)「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」の3回生以上配当科目
- (2)「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「各教科の指導法」の3回生以上配当科目
- (3)「大学が独自に設定する科目」の3回生以上配当科目

「20単位要件」科目名(丸囲みの数字は単位数)	
(教) 教育原理②	(教) 特別活動の理論と方法②
(教) 教職概論②	(教) 教育方法論 (ICT活用を含む) ②
(教) 教育社会学②	(教) 生徒指導・進路指導の理論と方法②
(教) 教育心理学②	(教) 教育相談の理論と方法②
(教) 特別支援教育概論②	(教) 保健体育科教育概論②
(教) 教育課程論②	(教) 保健体育科指導法Ⅰ② (中学校必修)
(教) 道徳教育の理論と方法②(中学校必修)	(教) 介護等体験(事前指導)① (中学校履修指定)

9.「教科及び教科の指導法に関する科目」

・中学校一種免許状（保健体育）

免許法施行規則に規定する科目		スポーツ健康科学部で修得すべき科目					
科目	各教科に含めることが必要な事項	科目名		単位数	配当回生	履修区分	最低必要単位数
教科に関する専門的事項※1	体育実技	スポーツ指導実習A（球技：ゴール型）		1	3以上	1単位以上選択必修	20
		スポーツ指導実習A（球技：ネット型）		1	3以上		
		スポーツ指導実習A（武道）		1	3以上		
		スポーツ指導実習B（陸上競技）		1	3以上		
		スポーツ指導実習B（器械運動）		1	3以上		
		スポーツ指導実習B（水泳）		1	3以上		
		スポーツ指導実習B（ダンス）		1	3以上		
	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	バイオメカニクス論		2	2以上	必修	
		スポーツ健康科学原論		2	1以上	2単位以上選択必修	
		スポーツ健康科学と未来		2	1以上		
		身体の構造と働き		2	1以上		
		スポーツサイエンス概論		2	1以上		
		スポーツ教育学概論		2	1以上		
		スポーツマネジメント概論		2	1以上		
		健康運動栄養・生理学（基礎健康科学）		2	2以上		
		インクルーシブ体育・スポーツ論		2	2以上		
		運動・栄養処方論（応用健康科学）		2	2以上		
		トレーニング科学		2	3以上		
		パフォーマンス測定評価方法論		2	3以上		
		健康運動評価方法論		2	3以上		
		スポーツ栄養教育学		2	3以上		
		スポーツ心理学		2	3以上		
		スポーツ情報科学		2	3以上		
		生活習慣病論		2	3以上		
		スポーツ教育実践学		2	3以上		
	生理学（運動生理学を含む。）	スポーツ生理・生化学		2	2以上	必修	
	衛生学・公衆衛生学	ヘルスプロモーション（衛生学および公衆衛生学を含む）		2	1以上	必修	
	学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	スポーツ医学		2	3以上	必修	
		学校保健学		2	3以上	必修	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	教職基礎科目	（教）保健体育科教育概論		2	2以上	必修	8
		（教）保健体育科指導法Ⅰ		2	2以上	必修	
		（教）保健体育科指導法Ⅱ		2	3以上	必修	
		（教）保健体育科授業法		2	3以上	必修	
	教職発展科目	（教）保健体育科授業発展演習		2	3以上	選択	
合計修得単位数							28

※1 「教科に関する専門的事項」は、必修、選択科目併せて20単位以上の修得が必要

・高等学校一種免許状（保健体育）

免許法施行規則に規定する科目		スポーツ健康科学部で修得すべき科目						
科目	各教科に含めることが必要な事項	科目名	単位数	配当回生	履修区分	最低必要単位数		
教科に関する専門的事項※1	体育実技	スポーツ指導実習A（球技：ゴール型）	1	3以上	1単位以上選択必修	20		
		スポーツ指導実習A（球技：ネット型）	1	3以上				
		スポーツ指導実習A（武道）	1	3以上				
		スポーツ指導実習B（陸上競技）	1	3以上	1単位以上選択必修			
		スポーツ指導実習B（器械運動）	1	3以上				
		スポーツ指導実習B（水泳）	1	3以上				
		スポーツ指導実習B（ダンス）	1	3以上				
	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	バイオメカニクス論	2	2以上	必修			
		スポーツ健康科学原論	2	1以上	2単位以上選択必修			
		スポーツ健康科学と未来	2	1以上				
		身体の構造と働き	2	1以上				
		スポーツサイエンス概論	2	1以上				
		スポーツ教育学概論	2	1以上				
		スポーツマネジメント概論	2	1以上				
		健康運動栄養・生理学（基礎健康科学）	2	2以上				
		インクルーシブ体育・スポーツ論	2	2以上				
		運動・栄養処方論（応用健康科学）	2	2以上				
		トレーニング科学	2	3以上				
		パフォーマンス測定評価方法論	2	3以上				
		健康運動評価方法論	2	3以上				
		スポーツ栄養教育学	2	3以上				
		スポーツ心理学	2	3以上				
		スポーツ情報科学	2	3以上				
		生活習慣病論	2	3以上				
		スポーツ教育実践学	2	3以上				
	生理学（運動生理学を含む。）	スポーツ生理・生化学	2	2以上	必修			
	衛生学・公衆衛生学	ヘルスプロモーション（衛生学および公衆衛生学を含む）	2	1以上	必修			
	学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	スポーツ医学	2	3以上	必修			
		学校保健学	2	3以上	必修			
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	教職基礎科目	（教）保健体育科教育概論	2	2以上		必修	4
			（教）保健体育科指導法Ⅰ	2	2以上		選択	
			（教）保健体育科指導法Ⅱ	2	3以上		選択	
（教）保健体育科授業法			2	3以上	必修			
教職発展科目		（教）保健体育科授業発展演習	2	3以上	選択			
合計修得単位数						24		

※1 「教科に関する専門的事項」は、必修、選択科目併せて20単位以上の修得が必要

10. 「大学が独自に設定する科目」

以下の一覧表にある科目の単位を修得した場合は、「大学が独自に設定する科目」として充当することができます。

ただし、3回生以上配当の「大学が独自に設定する科目」については、1・2回生配当の教職基礎科目^{注1}のうち、20単位以上修得しなければ受講できません（前述の〈3回生配当科目を受講するための「20単位要件」について〉参照）。

注1）「各教科の指導法」科目（2回生配当科目の4単位）、「大学が独自に設定する科目」の「（教）介護等体験（事前指導）」（1単位、2回生配当）を含む。

(1)「大学が独自に設定する科目」一覧表

本 学 科 目 区 分	科 目 名	単位数	免許状校種	配当回生	備 考
教職基礎科目	(教) 学校教育総合演習	2	中・高 一種	3以上	中学校必修、高校必修
	(教) 介護等体験（事前指導）	1	中・高 一種	2以上	中学校履修指定
	(教) 介護等体験実習	1	中・高 一種	3以上	中学校履修指定（※1） 「(教) 介護等体験（事前指導）」 の単位を修得済みでなければ、 履修不可。
	(教) 道德教育の理論と方法	2	高 一種	2以上	中学校必修、高校選択（※2）
教職発展科目	(教) 人間と差別の教育論	2	中・高 一種	3以上	選択
	(教) 国際理解教育論	2	中・高 一種	3以上	選択
	(教) 学校文化論	2	中・高 一種	3以上	選択
	(教) 学級担任論	2	中・高 一種	3以上	選択
	(教) 道德授業発展演習	2	高 一種	3以上	選択（※2）
	(教) 学校インターンシップⅠ	2	中・高 一種	3以上	選択
	(教) 学校インターンシップⅡ	3	中・高 一種	3以上	選択
	(教) 学校インターンシップⅢ	4	中・高 一種	3以上	選択

※1 介護等体験証明書を授与されたにも関わらず「(教) 介護等体験実習」の単位を修得できない場合は、免許状一括申請の対象とはしない。

後述する「12. 介護等体験について」に示す免除対象者については履修の必要はない。

※2 中学校一種免許状取得に関わっては「道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」として扱う。

(2) 他校種必要単位の余剰分の修得によって「大学が独自に設定する科目」としてみなすことができる「各教科の指導法」科目、「教育実践に関する科目」（※高等学校一種免許状取得者のみ）

①当該免許状教科の「(教) ○○科指導法Ⅰ」（2回生配当、2単位）、「(教) ○○科指導法Ⅱ」（3回生配当、2単位）

②「(教) 教育実習Ⅱ（事後指導を含む）」（4回生配当）4単位のうち2単位分

	科 目 名	単位数	免許状校種	配当回生	備 考
教科及び教科の指導法に関する科目	(教) 保健体育科指導法Ⅰ	2	高 一種	2以上	教科が保健体育科の場合
	(教) 保健体育科指導法Ⅱ	2	高 一種	3以上	教科が保健体育科の場合
教育実践に関する科目	(教) 教育実習Ⅱ（事後指導を含む）	2	高 一種	4以上	4単位のうち2単位分

(3)「教育の基礎的理解に関する科目」、「道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「教科及び教科の指導法に関する科目」のそれぞれ定められた必修単位数を超えて修得した余剰分は、「大学が独自に設定する科目」としてみなすことができる。

※以下の場合には、「大学が独自に設定する科目」としてみなすことができませんので注意してください。

(1) 当該教科以外の「各教科の指導法」科目

異なる教科の指導法科目「(教) ○○科教育概論」「(教) ○○科指導法Ⅰ」「(教) ○○科指導法Ⅱ」「(教) ○○科授業法」「(教) ○○科授業発展演習」は、当該教科以外の「大学が独自に設定する科目」としてみなすことができません。

(2) 当該教科以外の「教科に関する専門的事項」に関する科目

異なる教科の「教科に関する専門的事項」に関する科目を修得しても、当該教科以外の「大学が独自に設定する科目」としてみなすことはできません。

11. 教育実習について

教育実習とは、中学校または高等学校の実際の学校教育の現場に実習生として配属され、教育活動に参加することです。この教育実習は、教職課程履修の仕上げというべきものであり、教壇に立って実際に授業を行う経験を得るだけでなく、教育活動の全般にわたって理解を深め、教員として必要な知識や技能、態度などを身につけることが目的です。

教育実習は、実習受入校の厚意と協力によって可能となっているものであり、大学の責任ある指導と実習生の真に教職を目指す姿勢が求められます。また、実習受入校は、あくまでも卒業後の進路に教職を第一志望として考えている人を対象に実習指導を行います。資格取得のみを目的とした安易な姿勢で教育実習を行うことは、実習受入校の先生や生徒に大きな迷惑をかけることになります。したがって、教育実習の履修にあたっては、自らの進路計画を踏まえ、十分な心構えで臨まなければなりません。

(1) 「教育実習」の内容と実習期間

教育実習は「(教) 学校教育総合演習」、「(教) 教育実習事前指導」、直前ガイダンス、実習校での実習、事後指導からなる一貫したものです。したがって、その全てを受講し、所定の手続きを行う必要があります。教育実習の詳細については、3年生での「(教) 学校教育総合演習」および「(教) 教育実習事前指導」の授業において説明があります。また、「(教) 学校教育総合演習」の授業で、「教育実習の手引き」が配付されますので、よく読んで理解を深めてください。なお、「(教) 教育実習事前指導」を履修するためには、「(教) 学校教育総合演習」を修得していることが必要です。

実習校での実習は、教育活動全般（ホームルーム、クラブ活動含む）について、観察実習、参加実習、授業実習により構成されますが、その内容については、それぞれの実習校の実情に即した教育実習の指導計画が編成されています。教育実習期間は、各実習校により異なりますが、例年、5月～11月までの間に実施されます。

(2) 「(教) 教育実習ⅠまたはⅡ（事後指導を含む）」の受講資格

教育実習を履修するためには、以下の要件を全て満たしていることが必要です。

- ① 「(教) 教育実習ⅠまたはⅡ（事後指導を含む）」受講年度の開始時点で、卒業見込および実習校種・教科における教員免許状取得見込であること
〈教員免許状取得見込みとは〉

卒業見込みがあり、下表の「教育職員免許法施行規則に規定する科目の本学必要単位数（27単位）」および「(教) 学校教育総合演習」（「大学が独自に設定する科目」・2単位）を修得している状態

- ② 実習受入校や教育委員会との手続きなどが全て完了していること

「教員免許状取得見込み」関係科目

教育職員免許法施行規則に規定する科目		科 目 名	単位数	配当回生	履修区分
科目	各科目に含めることが必要な事項				
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	(教) 教育原理	2	1以上	必修
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	(教) 教職概論	2	1以上	必修
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	(教) 教育社会学	2	1以上	必修
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	(教) 教育心理学	2	1以上	必修
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	(教) 特別支援教育概論	2	1以上	必修
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	(教) 教育課程論	2	2以上	必修
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	(教) 総合的な学習の時間の理論と方法	2	3以上	必修
	特別活動の指導法	(教) 特別活動の理論と方法	2	2以上	必修
	教育の方法及び技術	(教) 教育方法論（ICT活用を含む）	2	2以上	必修
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		2	2以上	必修
	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	(教) 生徒指導・進路指導の理論と方法	2	2以上	必修
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	(教) 教育相談の理論と方法	2	2以上	必修
教育実践に関する科目	教育実習	(教) 教育実習事前指導	1	3以上	必修
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）※	(教) 保健体育科教育概論	2	2以上	必修
		(教) 保健体育科授業法	2	3以上	必修
大学が独自に設定する科目		(教) 学校教育総合演習	2	3以上	必修
合計（1教科あたり）			29		

※ 教科の指導法は教育実習と同一教科で履修してください。教育実習は所属学科で取得できる免許状教科での履修となります。

(3) 実習校について

原則として、各自が中学校や高等学校を訪問して依頼し、承諾を受けることで実習校を確保します。ただし、教育委員会からの配当によって実習校が決定される場合もあり、また、本学附属校出身者についても取り扱いが異なります。詳細は、教育実習前年度に受講する「(教) 学校教育総合演習」で説明します。

12. 介護等体験について

義務教育課程（小学校および中学校）の教員免許状申請時には、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」により、7日間以上の介護等体験の証明書が必要となります。介護等体験とは、18歳に達した後に行う、特別支援学校や社会福祉施設等において、7日間以上にわたる介護などの体験のことを指します。

本学では、介護等体験を「大学が独自に設定する科目」の一部として単位化しており、小・中学校の免許状の取得を希望する場合は、履修指定科目となります。介護等体験の申し込み手続きの説明や事前指導については、2回生担当の「(教) 介護等体験 (事前指導)」において行います。介護等体験は、3回生担当の「(教) 介護等体験実習」として履修します。したがって、「(教) 介護等体験実習」を履修するためには、原則、前年度に「(教) 介護等体験 (事前指導)」の単位を修得していることが必要となります。

なお、「(教) 介護等体験 (事前指導)」(2回生担当)は、「(教) 介護等体験実習」(3回生担当)と連続して受講すべき科目であることから、翌年度3回生以上担当科目の受講に必要な条件(20単位要件)を満たす見込みがない場合にはその受講を認めません。

※介護等体験の免除について

以下の(1)～(3)に該当する人は介護等体験が免除されますので、教職教育課に「免除申告書」を提出してください。なお、介護等体験が免除されるかどうか分からない場合は、事前に教職教育課の窓口で確認・相談をしてください。

- (1) 介護等体験特例法が施行される以前(1998(平成10)年3月31日以前)に、大学・短大に在学した者であって、卒業までの間に小学校または中学校教諭の専修、一種または二種のいずれかの免許状取得のための所要資格を得た者
- (2) 介護等に関する専門的知識及び技術を有すると認められる者
保健師、助産師、看護師、准看護師、盲・ろう・特別支援学校教員、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士又は義肢装具士の免許・資格を既に有している者(取得見込みの場合は介護等体験が必要)
- (3) 身体上の障害により介護等の体験を行うことが困難な者
身体障害者手帳に、障害の程度が1級から6級であるとして記載されている者

13. 「(教) 学校インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ」,
「学校ボランティア」
について

本学では、近畿地区の教育委員会や小学校・中学校・高等学校・特別支援学校などと連携し、教師を目指す皆さんを対象とした「(教) 学校インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「学校ボランティア」を実施しています。教師を目指すためには、教職に関する理論や教科に関する知識を身につけるだけではなく、教師の仕事の実際や児童・生徒の様子について、体験的に知ることが重要です。

3回生より受講することができる「(教) 学校インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ」は、学校での現場体験活動を含んだ科目で、授業補助や学習支援、発達障害を持つ子どもへの支援など、教師の仕事を幅広く体験し、学ぶことができます。

「(教) 学校インターンシップⅠ」(2単位)は研修時間の合計が40時間以上、「(教) 学校インターンシップⅡ」(3単位)は70時間以上、「(教) 学校インターンシップⅢ」(4単位)は100時間以上の現場体験活動を含み、いずれも事前・事後指導(講義)の受講が必須です。

また、「学校ボランティア」は、単位授与は行いませんが、学校における特定の活動を支援する中で、児童・生徒と関わり、教師の仕事について理解を深めることができます。ぜひ積極的にこの制度を利用してください。

14. 教育職員免許法
等の改正と適用
カリキュラムに
ついて

2025年度入学者の皆さんは、本学修要覧に記載されたカリキュラムに沿って履修していくことになります。

2019～2021年度入学者の皆さんは、教育職員免許法の改正(2019年施行)を受け、それに対応するカリキュラムとなっています。一方、2022年度には教育職員免許法施行規則の改正が行われ、2022年度以降の入学者の皆さんは、そのつどの教育職員免許法施行規則の改正を受け、それぞれの入学年度に対応するカリキュラムとなっています。このように、入学年度により、学修要覧に記載されている教職課程のカリキュラムや履修方法、科目名称等が異なりますので、必ず、自らの入学年度の学修要覧を参照して履修するようにしてください。

Ⅵ. 資格取得について

1. 健康運動指導士
2. 健康運動実践指導者
3. 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者
4. トレーニング指導者
5. 初級パラスポーツ指導員

1. 健康運動指導士

1.1 健康運動指導士とは

個々の心身の状態に応じた、安全で効果的な運動を実施するための運動プログラムの作成および指導を行うものに与えられる、公益財団法人健康・体力づくり事業財団の資格です。この資格は国民一人ひとりの健康維持・増進のための運動プログラム作成及び実践指導計画の調整等を行う役割を担っています。

近年では、メタボリックシンドロームの予防、生活習慣病ハイリスク者への運動指導や少子高齢社会を踏まえた介護予防のための運動指導の専門家の必要性が増しており、健康運動指導士への期待が高まっています。

健康運動指導士の資格保持者の就職先は、地域や民間のフィットネス施設だけではなく、健康増進施設や病院、介護保健施設、一般企業の保健事業にまで及び、今後さらなる増加が見込まれています。

*詳細は、公益財団法人健康・体力づくり事業財団のホームページを参照してください。

1.2 資格取得の方法

スポーツ健康科学部は、公益財団法人健康・体力づくり事業財団の健康運動指導士養成校として認定を受けています。

定められた条件を満たした上で認定試験を受験・合格したのち、登録申請を行うと健康運動指導士の称号が与えられます。

(1) 受験資格

- ①下記指定科目を全て履修・修得した者
- ②卒業見込み、もしくは卒業している者

【注意事項】

受験資格を得るためには、受験日までに指定科目を全て「修得済み」であることが必要です。「修得見込み」では受験できません。3回生終了時まで必要単位を修得することを目指してください。

(2) 認定試験受験方法

申込方法等は、3回生以上を対象に、春学期中にmanaba+Rに掲載する「資格取得の手引き」にて案内します。

(3) 指定科目一覧

	科目名	配当回生	単位数
1	身体の構造と働き	1回生	2
2	ヘルスプロモーション（衛生学および公衆衛生学を含む）	1回生	2
3	健康運動科学概論	1回生	2
4	スポーツ生理・生化学	2回生	2
5	健康運動栄養・生理学（基礎健康科学）	2回生	2
6	運動・栄養処方論（応用健康科学）	2回生	2
7	バイオメカニクス論	2回生	2
8	トレーニング科学	3回生	2
9	パフォーマンス測定評価方法論	3回生	2
10	健康運動評価方法論	3回生	2
11	スポーツ医学	3回生	2
12	生活習慣病論	3回生	2
13	スポーツ心理学	3回生	2
14	エクササイズプログラミング実習Ⅰ	2回生	2
15	エクササイズプログラミング実習Ⅱ	3回生	2
16	インターンシップ（健康運動指導士）	3回生	2

*詳細はP.34を参照

2. 健康運動実践指導者

2.1 健康運動実践指導者とは

積極的な健康づくりを目的とした運動を安全かつ効果的に実践指導できる能力を有すると認められる者に与えられる、公益財団法人健康・体力づくり事業財団の資格です。

医学的基礎知識、運動生理学の知識、健康づくりのための運動指導の知識・技能等を持ち、健康づくりを目的として作成された運動プログラムに基づいて実践指導を行う役割を担っています。

*詳細は、公益財団法人健康・体力づくり事業財団のホームページを参照してください。

2.2 資格取得の方法

スポーツ健康科学部は、公益財団法人健康・体力づくり事業財団の健康運動実践指導者養成校として認定を受けています。

定められた条件を満たした上で認定試験を受験・合格したのち、登録申請を行うと健康運動実践指導者の称号が与えられます。

(1) 受験資格

- ①下記指定科目を全て履修・修得した者
- ②本学部にて2年以上在学している者

(2) 認定試験受験方法

申込方法等は、3年生以上を対象に、春学期中にmanaba+Rに掲載する「資格取得の手引き」にて案内します。

(3) 指定科目一覧

	科目名	配当回生	単位数
1	身体の構造と働き	1回生	2
2	健康運動科学概論	1回生	2
3	スポーツ生理・生化学	2回生	2
4	健康運動栄養・生理学（基礎健康科学）	2回生	2
5	運動・栄養処方論（応用健康科学）	2回生	2
6	バイオメカニクス論	2回生	2
7	パフォーマンス測定評価方法論	3回生	2
8	健康運動評価方法論	3回生	2
9	スポーツ医学	3回生	2
10	エクササイズプログラミング実習Ⅰ	2回生	2
11	エクササイズプログラミング実習Ⅱ	3回生	2

3. 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者

3.1 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者とは

公益財団法人日本スポーツ協会及び加盟団体等が、公認スポーツ指導者制度に基づき資格認定する指導者で、スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し、プレーヤーズスタンダードの考え方のもとに暴力やハラスメントなどあらゆる反倫理的行為を排除し、常に自らも学び続けながらプレーヤーの成長を支援することを通して、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献できる者に与えられる資格です。

日本スポーツ協会では公認スポーツ指導者資格として5つの領域（スポーツ指導者基礎資格、競技別指導資格、メディカルコンディショニング資格、フィットネス資格、マネジメント指導者資格）にわたる18種の資格を設け、ライフステージに応じた多様なスポーツ活動を推進することのできるスポーツ指導者を育成しています。

*詳細は、公益財団法人日本スポーツ協会のホームページを参照してください。

3.2 資格取得の方法

日本スポーツ協会が認定するコーチングアシスタント以外の資格を取得するには、共通科目と専門科目の受講等が必要です。

スポーツ健康科学部は、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会講習・試験免除承認校として認定されており、共通科目の受講が免除されます。

〈資格取得の流れ〉

- ①指定科目を履修・修得（学生）
- ②修得状況の確認、受講完了申請者とりまとめ（大学↔学生）
- ③受講完了申請（大学→日本スポーツ協会）
- ④共通科目検定試験（オンラインテスト）の案内（日本スポーツ協会→学生）
- ⑤共通科目検定試験（オンラインテスト）受験・合格（学生）
- ⑥資格登録手続きの案内（日本スポーツ協会→学生）

（1）受講完了申請の要件

- ①下記指定科目を全て履修・修得していること
- ②指導者マイページでアカウントを作成していること
- ③リファレンスブックを購入していること

（2）申請方法

3回生以上を対象に、春学期中にmanaba+Rに掲載する「資格取得の手引き」にて案内します。

（3）指定科目一覧

	科目名	配当回生	単位数
1	スポーツコーチング論	2回生	2
2	スポーツ教育学概論	1回生	2
3	組織心理学	2回生	2
4	トレーニング科学	3回生	2
5	スポーツマネジメント概論	1回生	2
6	スポーツ医学	3回生	2
7	スポーツ栄養教育学	3回生	2
8	スポーツ心理学	3回生	2

（4）資格認定の修了要件

- ①指導者マイページへの登録
- ②共通科目コースの受講完了申請
- ③共通科目検定試験（オンラインテスト）の合格

*①～③の後、日本スポーツ協会から送付される案内に基づき資格登録手続きを完了して初めて資格として認定されます。

4. トレーニング指導者

4.1 トレーニング指導者とは

トレーニングの対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を修得したと認められる者に授与される、特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会の認定資格です。

スポーツ選手や一般人を対象としたトレーニング指導の専門家として活動するための基礎資格として位置づけられます。

*詳細は、特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会のホームページを参照してください。

4.2 資格取得の方法

スポーツ健康科学部は特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会認定トレーニング指導者養成校として認定されています。

定められた条件を満たした上で認定試験を受験・合格したのち、会員登録を行うことにより、トレーニング指導者の資格を得ることができます。

(1) 受験資格

下記指定科目を履修の者／修得した者（単位取得見込での受験可）

(2) 認定試験受験方法

申込方法等は、3回生以上を対象に、春学期中にmanaba+Rに掲載する「資格取得の手引き」にて案内します。

(3) 指定科目一覧

	科目名	配当回生	単位数
1	スポーツサイエンス概論	1回生	2
2	身体の構造と働き	1回生	2
3	バイオメカニクス論	2回生	2
4	スポーツ生理・生化学	2回生	2
5	運動・栄養処方論（応用健康科学）	2回生	2
6	スポーツ医学	3回生	2
7	トレーニング科学	3回生	2
8	スポーツコーチング論	2回生	2
9	パフォーマンス測定評価方法論	3回生	2
10	スポーツ心理学	3回生	2
11	健康運動評価方法論	3回生	2
12	エクササイズプログラミング実習Ⅰ	2回生	2

5. 初級パラスポーツ指導員

5.1 初級パラスポーツ指導員とは

障がい者のスポーツ参加のきっかけ作りを支援する指導員の資格です。健康や安全管理に配慮した指導を行い、スポーツの喜びや楽しさを伝える役割を担います。地域の大会や教室など、スポーツ現場におけるサポートを行います。資格取得後は、経験を積み講習会を受講することで、中級・上級指導員にステップアップすることができます。

※詳細は、公益財団法人日本パラスポーツ協会のホームページを参照してください。

5.2 資格取得の方法

スポーツ健康科学部は公益財団法人日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導員資格取得認定校として認定されています。定められた条件を満たしたうえで申請することにより、初級パラスポーツ指導員の資格を得ることができます。

(1) 受験資格

- ①下記指定科目を全て履修・修得した者
- ②本学部 に在学している者

(2) 申請方法

3回生以上を対象に、春学期中にmanaba+Rに掲載する「資格取得の手引き」にて案内します。

(3) 指定科目一覧

	科目名	配当回生	単位数
1	スポーツ教育学概論	1回生	2
2	スポーツマネジメント概論	1回生	2
3	インクルーシブ体育・スポーツ論	2回生	2
4	インクルーシブ体育・スポーツ実習	3回生	1

VII. 学びの支援および学生への援助制度について

1. ES・TA制度
2. アカデミックアドバイザー（AA）制度
3. 学生への援助制度について

1. ES・TA制度

ES(Educational Supporter：教育サポーター)は、授業において、教員や学生のサポートをする学部学生のことをいいます。学生の質問対応や教材作成の補助など、教員と学生双方をサポートすることで、授業をスムーズに進め、より高い学修効果を生み出す役割を果たしています。同時にこれらのサポートを通じて、ES自身、学問的専門性や、幅広い専門性を涵養する機会となっています。

TAは、本学の授業や教学活動をサポートする大学院生です。TA制度は、TAが教員とともに大学教育を補佐および援助することを通じて、本学の教育の向上に資することを目的としています。これに加えて、TA制度は、大学院生がTAとしての経験を通じて自らの教育力を高めることで、自身のキャリア形成の一助とすることを目的としています。

2. アカデミックアドバイザー（AA）制度

スポーツ健康科学部では、プロジェクト発信型英語プログラムなどの特色を持った学びを展開しています。そのような特色を持った学びを深めるために、先輩学生が1回生の初年次学修を支援する「アカデミックアドバイザー（AA）制度」を設け、学生同士で学び合っています。アカデミックアドバイザー（AA）は主として「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」への参加を通して1回生の初年次教育を支援しています。

3. 学生への援助制度について

立命館大学では、小集団クラスや自主ゼミを対象として以下の補助・援助を行っています。積極的に活用し、学修を深めるために役立ててください。

3.1 小集団教育推進補助費

立命館大学では、学びの基礎単位となる基礎演習、PBL、専門演習のクラス・ゼミを教学の基軸におき、①「小集団教育の単位」と②「大学自治の単位」としての性格をもつものとして位置づけています。小集団教育推進補助費は、この2つの位置づけをもつクラス・ゼミの集団的学習と自治活動への援助を主要な目的とし、各クラス・ゼミなどで使用できます。詳細はスポーツ健康科学部事務室が作成する手引きを確認してください。

- ・「クラス資料印刷用ID」による援助：クラスで使用する授業レジュメ、その他クラス活動に必要な資料の印刷用IDの配布
- ・「学部共通費」による援助：スポーツ健康科学部が定める執行計画に基づく経費の配分

3.2 自主ゼミ援助制度

授業（正課）や課外で学んだことをさらに発展させ、その研究成果をまとめていくため、スポーツ健康科学部内のメンバーで組織された学習グループ(自主ゼミ)に対して、様々な援助を行う制度です。自主ゼミとして認められるには、スポーツ健康科学部事務室に登録する必要があります。詳細は、スポーツ健康科学部事務室からお知らせします。

Ⅷ. スポーツ健康科学部学部則

スポーツ健康科学部学部則

学部則はホームページにも記載しています。
manaba + Rの「スポーツ健康科学部生のページ」→「トップページ」→「学部則」をクリック

立命館大学スポーツ健康科学部学部則

(趣旨)

第1条 本学部則は、立命館大学学則（以下「学則」という。）第45条にもとづき、スポーツ健康科学部の授業科目、卒業に必要な単位数、単位認定その他の教育課程に関する事項について定める。

(英文表記)

第2条 スポーツ健康科学部の英文表記はCollege of Sport and Health Scienceとし、スポーツ健康科学部とスポーツ健康科学研究科を併せた総称をFaculty of Sport and Health Scienceとする。

(教育研究上の目的)

第3条 スポーツ健康科学部は、スポーツ健康科学の教育研究における智の融合を通して、人々の健康、幸福な社会および平和な世界を創造するとともに、志高く未来を拓く人材を育成することを目的とする。

第4条 削除

(教育課程の編成)

第5条 スポーツ健康科学部の授業科目は、専門科目および自由科目に区分し、これを4年間に配当して編成する。

- 2 基礎科目は、教養科目および外国語科目に区分する。
- 3 専門科目は、基盤科目、領域科目、融合科目、プロフェッショナル・キャリア形成科目に区分する。
- 4 外国人留学生入試を経て入学した学生（以下「留学生」という。）のために、日本語科目を設ける。
- 5 教育職員免許状の資格を得ようとする者のために、教職課程の授業科目を設ける。

(授業科目)

第6条 スポーツ健康科学部の授業科目の名称、単位数、授業方法、必修科目・選択科目・自由科目の別および配当年次は、次の各号に掲げる区分ごとに、当該各号の定める別表のとおりとする。

- (1) 基礎科目 別表1
- (2) 専門科目 別表2
- (3) 自由科目 別表5
- 2 教職課程の授業科目の名称、単位数、授業方法、修得方法および配当年次は、別表3のとおりとする。
- 3 第1項に定める授業科目のうち、多様なメディアを高度に利用して行う遠隔授業科目は、別表4のとおりとする。

(履修方法)

第6条の2 削除

(履修の条件)

第6条の3 「卒業論文」ならびに「学校保健学」、「スポーツ指導実習A（球技：ゴール型）」、「スポーツ指導実習A（球技：ネット型）」、「スポーツ指導実習A（武道）」、「スポーツ指導実習B（器械運動）」、「スポーツ指導実習B（陸上競技）」、「スポーツ指導実習B（水泳）」および「スポーツ指導実習B（ダンス）」の履修条件は、次の各号に定めるところによる。

- (1) 「卒業論文」を履修するためには、あらかじめ「専門演習Ⅰ」または「専門演習Ⅱ」のいずれかの単位を修得しなければならない。
- (2) 「学校保健学」、「スポーツ指導実習A（球技：ゴール型）」、「スポーツ指導実習A（球技：ネット型）」、「スポーツ指導実習A（武道）」、「スポーツ指導実習B（器械運動）」、「スポーツ指導実習B（陸上競技）」、「スポーツ指導実習B（水泳）」および「スポーツ指導実習B（ダンス）」を履修するためには、あらかじめ次表の授業科目から20単位以上を修得しなければならない。

(教) 教育原理
(教) 教職概論
(教) 教育社会学
(教) 教育心理学
(教) 特別支援教育概論
(教) 教育課程論
(教) 道德教育の理論と方法
(教) 特別活動の理論と方法
(教) 教育方法論（ICT活用を含む）
(教) 生徒指導・進路指導の理論と方法
(教) 教育相談の理論と方法
(教) 保健体育科教育概論
(教) 保健体育科指導法Ⅰ
(教) 介護体験（事前指導）

(卒業に必要な単位数)

第7条 スポーツ健康科学部における卒業に必要な単位数は、科目別表に定める必修科目・選択科目・自由科目の別を必修とする授業科目を含み、かつ、次項

から第6項までに定めるところに従い修得する124単位以上とする。ただし、科目別表に定める必修科目・選択科目・自由科目の別を自由とする授業科目を含めることはできない。

2 基礎科目は、次の各号に定める単位数を修得し、かつ、32単位以上を修得しなければならない。

- (1) 教養科目 科目別表に定める教養科目から24単位以上
- (2) 外国語科目 8単位
- 3 前項第2号にかかわらず、留学生は、入学時に日本語科目を選択した場合は、日本語科目の単位の修得をもって、外国語科目の単位の修得に代えることができる。
- 4 専門科目は、次の各号に定める単位数を修得し、かつ、58単位以上を修得しなければならない。
 - (1) 基礎科目から12単位以上
 - (2) 領域科目から、「専門演習Ⅰ」または「専門演習Ⅱ」のうちいずれか2単位以上および卒業論文4単位を含む42単位以上
 - (3) 融合科目から4単位以上
- 5 他学部の授業科目を履修し単位を修得したときは、これをスポーツ健康科学部の専門科目の履修により修得したものとみなすことができる。ただし、14単位を超えて卒業に必要な単位とすることはできない。
- 6 「インターンシップ（国内）」、「インターンシップ（海外）」、「サービスマーケティング（専門）」、「クリニカルATインターンシップ（国内）」または「クリニカルATインターンシップ（海外）」については、8単位を超えて修得した単位については卒業に必要な単位とすることはできない。

(早期卒業)

第8条 学則第54条第2項にもとづき早期卒業を認める。

- 2 早期卒業を希望する者は、1年次の秋学期に、申請しなければならない。
- 3 前項の申請をした者は、1年次の終了時に次の各号に定める要件をすべて満たしていなければならない。ただし、年次を越えて留学を行っている場合は、留学終了後当該留学にかかる単位の修得が確定した時期にこの条件を適用する。
 - (1) 学位を得るために必要な単位のうち40単位以上を修得していること。
 - (2) 1年次の単年度GPAが3.8以上であること。
- 4 次の各号に定める者については第2項の申請を認めない。
 - (1) 休学期間がある者
 - (2) 除籍または退学後、再入学した者
 - (3) 他学部から転籍した者
- 5 第1項の申請を認められた者は、2年次の終了時に次の各号に定める要件をすべて満たしていなければならない。ただし、年次を越えて留学を行っている場合は、留学終了後当該留学にかかる単位の修得が確定した時期にこの条件を適用する。
 - (1) 学位を得るために必要な単位のうち80単位以上を修得していること。
 - (2) 2年次の単年度GPAが3.9以上であること。
- 6 次条の定めにかかわらず、前項に定める要件を満たした者については、3年次において、1年間に50単位を上限として履修科目の登録を認める。この場合において、配当年次が4年次の授業科目の登録をすることができる。
- 7 早期卒業は、第3項および第5項の要件を満たし、かつ、3年次の終了時において次の各号に定める要件すべてを満たす学生について、面接および書類審査を行い、教授会の議を経て、学部長が決定する。
 - (1) 第7条の要件を満たすこと。
 - (2) 学位を得るために必要な単位のGPAが4.0以上であること。
- 8 早期卒業をすることを決定した者が、本大学の規程に違反する行為、学生の本人に反する行為等早期卒業をすることを決定した者としてふさわしくない行為を在学中に行った場合には、教授会の議を経て、学部長が早期卒業の決定を取り消す。
- 9 早期卒業をすることを決定した者が早期卒業を辞退するときは、3年次の秋学期における卒業可否判定の結果発表日の前日までに、学部長に申し出なければならない。

(履修科目の登録の上限)

第9条 1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は、次のとおりとする。ただし、休学、再入学等により登録することができる単位数の上限を変更する必要があると学部長が認めた者についてはこの限りでない。

- (1) 1年次春学期 22単位、1年次秋学期 22単位
- (2) 2年次春学期 22単位、2年次秋学期 22単位
- (3) 3年次春学期 22単位、3年次秋学期 22単位
- (4) 4年次春学期 22単位、4年次秋学期 22単位
- (5) 5年次以降春学期 22単位、秋学期 22単位
- 2 前項にかかわらず、留学、国内交流派遣等を許可された者については、指定された学期において30単位を上限として登録を認めることがある。
- 3 前2項にかかわらず、次の各号に定める科目については、前2項の単位数の上限を超えて登録をすることができる。
 - (1) 学士の学位を得るための教育課程の授業科目のうち科目別表に定める必修科目・選択科目・自由科目の別を自由とする科目
 - (2) 教職課程科目

- (3) 単位互換科目
(4) 次表の授業科目

基礎科目（教養科目）	平和人権フィールドスタディ
	Global Engineer Program
	University of Hawaii Program
	グローバル社会の体験と理解
	Intensive Language Workshop
	Language for Academic Communication
	Global Project-Based Learning
	Area Study I
	Area Study II
	Global Study
	Academic Communication（Online Learning）
	Area Study（Online Learning）
	コーオプ演習（理論）
専門科目（共通科目）	コーオプ演習（実践）
	インターンシップ（国内）
	インターンシップ（海外）
	クリニカルATインターンシップ（国内）
	クリニカルATインターンシップ（海外）
	インターンシップ（健康運動指導士）
	サービスマーケティング（専門）

- (5) スポーツ健康科学部教授会において承認された科目
4 前項にかかわらず、学士の学位を得るための教育課程の授業科目であって科目別表に定める必修科目・選択科目・自由科目の別を選択とするもののうち、教職課程科目を兼ねる授業科目は、第1項および第2項の単位数の上限に含むものとする。

(カリキュラム適用)

- 第10条 授業科目の種類および単位数、履修方法、卒業に必要な単位数ならびに単位認定等（以下「カリキュラム」という。）については、入学時に適用したカリキュラムを卒業まで適用する。
2 転入学にあっては転入学先、編入学にあっては編入学先、再入学にあっては再入学先の同じ回生に適用されるカリキュラムを適用する。
3 転籍にあっては転籍先の同じ回生に適用されるカリキュラムを適用する。

第11条 削除

(入学前の既修得単位の認定)

- 第11条の2 学則第39条にもとづき、入学後における授業科目の履修により修得したものとはみなすことができる単位は、入学する前に科目等履修生として本学部で履修した単位とする。

(教職課程)

- 第12条 スポーツ健康科学部において所要資格を得ることができる教育職員免許状の種類および教科は、次のとおりとする。

免許状の種類および教科	
中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
保健体育	保健体育

(教職課程の履修)

- 第13条 スポーツ健康科学部において教育職員免許状の所要資格を得ようとする者は、教育職員免許法に定める基礎資格を得るとともに、「教科及び教職に関する科目」として次の各号に掲げる授業科目について、当該各号に定めるところに従い、単位を修得しなければならない。
(1) 教科及び教科の指導法に関する科目
科目別表3(1)に定める授業科目から、中学校教諭一種免許状にあっては28単位以上を、高等学校教諭一種免許状にあっては24単位以上を、それぞれ選択して修得する。ただし、教科に関する専門的事項は、必修、選択科目併せて20単位以上を履修し、かつ、各教科の指導法の科目は、取得しようとする免許状の教科の種類に応じ、当該教科に係る授業科目を履修しなければならない。
(2) 教育の基礎的理解に関する科目
科目別表3(2)に定める授業科目から12単位以上修得する。
(3) 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
科目別表3(3)に定める授業科目から、中学校教諭一種免許状にあっては12単位以上を、高等学校教諭一種免許状にあっては10単位以上を、それぞれ選択して修得する。
(4) 教育実践に関する科目
科目別表3(4)に定める授業科目から、中学校教諭一種免許状にあっては7単位以上を、高等学校教諭一種免許状にあっては5単位以上を、それぞれ選択して修得する。
(5) 大学が独自に設定する科目
科目別表3(5)に定める授業科目から、上記(1)から(4)までに定める最低修得単位数を超えて修得した教科及び教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び

- 生徒指導、教育相談等に関する科目および教育実践に関する科目の単位と併せて、中学校教諭一種免許状にあっては4単位以上を、高等学校教諭一種免許状にあっては8単位以上を、それぞれ選択して修得する。
(6) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
科目別表3(6)に定める授業科目を当該別表に定めるとおり修得しなければならない。

(改廃)

- 第14条 本学部則の改廃は、スポーツ健康科学部教授会の議を経て、大学協議会で行う。

附 則

この学部則は、2010年4月1日から施行する。

- 附 則 (2012年3月16日 カリキュラム改革および教学委員会の設置等に伴う一部改正)

- 1 この学部則は、2012年4月1日から施行する。
2 前項にかかわらず、2012年3月31日に在籍する学生については、なお従前の例による。

- 附 則 (2013年1月28日 改廃手続の変更および科目別表記載項目の追加等に伴う一部改正)

- 1 この学部則は、2013年4月1日から施行する。
2 前項にかかわらず、2013年3月31日に在籍する学生については、なお従前の例による。ただし、改正後の第11条の2については、2012年4月1日以降の入学学生についても適用する。
3 第1項にかかわらず、第10条は、2013年度に2回生以上に転入学、編入学または再入学する者、2014年度に3回生以上に転入学、編入学または再入学する者、2015年度に4回生以上に再入学する者、2016年度に5回生以上に再入学する者、2017年度に6回生以上に再入学する者、2018年度に7回生以上に再入学する者、2019年度に8回生に再入学する者については、なお従前の例による。
4 前項の従前の例による者のうち、復学により2013年度以降のカリキュラムを適用する者については、当該カリキュラムを卒業まで適用する。

- 附 則 (2014年3月18日 カリキュラム改革等に伴う一部改正)

- 1 この学部則は、2014年4月1日から施行する。
2 前項にかかわらず、2014年3月31日に在籍する学生については、なお従前の例による。

- 附 則 (2014年3月18日 教科又は教職に関する科目の履修方法の変更に伴う一部改正)

- 1 この学部則は、2014年4月1日から施行する。
2 前項にかかわらず、2014年3月31日に在籍する者については、なお従前の例による。

- 附 則 (2015年1月27日 教育課程と履修方法の整理等に伴う一部改正)

- 1 この学部則は、2015年4月1日から施行する。
2 前項にかかわらず、2015年3月31日に在籍する者については、なお従前の例による。

- 附 則 (2015年4月21日 「学校教育法及び国立大学法人法の一部を改正する法律」の施行に伴う一部改正)

この学部則は、2015年4月21日から施行し、2015年4月1日から適用する。

- 附 則 (2016年2月19日 教養科目の追加および削除、卒業要件の変更等に伴う一部改正)

- 1 この学部則は、2016年4月1日から施行する。
2 前項にかかわらず、2016年3月31日に在籍する学生については、なお従前の例による。
3 前項にかかわらず、改正後の第6条科目別表1(1)ロB群(国際教養科目)のうち次表の授業科目の追加は、2010年4月1日以降に入学し、2016年3月31日に在籍する者に適用する。

科目名
Basic Academic Skills
Intermediate Academic Skills
Intermediate Seminar
Global Engineer Program
Hawaii University Program
Theme Study
Introduction to Law
Modern World History
Introduction to Politics
Japan and the West
Introduction to Economics
Kyoto and the Japanese Arts
Introduction to Sociology
Introduction to Geography
Special Lecture
Introduction to Linguistics
Introduction to Anthropology
Introduction to Natural Science
Peace Museum Seminar
Cross-cultural Encounters
Basic Communication Skills
Advanced Seminar

4 第2項にかかわらず、改正後の第6条科目別表3. 専門科目（2）共通科目、第7条第3項および第9条第4号は、2014年4月1日以降に入学し、2016年3月31日に在籍する者に適用する。

附 則（2017年2月17日 教養科目の追加、自由科目の削除等に伴う一部改正）

- この学部則は、2017年4月1日から施行する。
- 前項にかかわらず、2017年3月31日に在籍する学生については、なお従前の例による。
- 前項にかかわらず、改正後の第6条 科目別表3. 専門科目（2）共通科目の授業科目の追加、第7条第3項および第9条第1項第4号は、2014年4月1日以降に入学し、2017年3月31日に在籍する者に適用する。
- 前項の場合において、改正後第7条第3項に「〔インターンシップ（国内）〕」、「インターンシップ（海外）」、「サービ斯拉ーニング（専門）」、「クリニカルATインターンシップ（国内）」または「クリニカルATインターンシップ（海外）」については、」とあるのは「〔インターンシップ（国内）〕」、「インターンシップ（海外）」、「サービ斯拉ーニング（専門）」、「ATCクリニカルインターンシップ（国内）」、「ATCクリニカルインターンシップ（海外）」、「クリニカルATインターンシップ（国内）」または「クリニカルATインターンシップ（海外）」については、」と読み替えるものとする。

附 則（2018年2月16日 早期卒業制度の導入、履修科目の登録の上限の変更、教養科目の追加および削除等に伴う一部改正）

- この学部則は、2018年4月1日から施行する。
- 前項にかかわらず、2018年3月31日に在籍する学生については、なお従前の例による。
- 前項にかかわらず、改正後の第7条別表 教養科目 イ）A群科目 の「世界と日本の食文化」および教養科目 B群科目 国際教養科目のうち次表の授業科目の追加は、2017年4月1日以降に入学し、2018年3月31日に在籍する者に適用する。

科目名
Introduction to Humanities
Introduction to the United Nations
Introduction to Peace Studies
Introduction to Gender Studies
Introduction Course to Climate Change and Global Warming
Introductory Course to International Project Development
Understanding Visual Culture
Introduction to Food Culture
Cross Border Policy Issues

- 第2項にかかわらず、改正後の第7条別表 教養科目 イ）A群科目の下記科目は、2018年4月1日以降に入学し、2019年3月31日に在籍する者に適用する。

科目名
特殊講義（実践データ科学1）
特殊講義（実践データ科学2）

附 則（2019年1月11日 教育職員免許法および教育職員免許法施行規則の改正、小集団科目に関する卒業要件の変更等に伴う一部改正）

- この学部則は、2019年4月1日から施行する。
- 前項にかかわらず、2019年3月31日に在籍する学生については、なお従前の例による。

附 則（2020年1月31日 教養教育改革および全学海外留学プログラム改革に伴う一部改正）

- この学部則は、2020年4月1日から施行する。
- 前項にかかわらず、2020年3月31日に在籍する学生については、なお従前の例による。

附 則（2020年3月27日 学際総合科目の科目の追加に伴う一部改正）

- この学部則は、2020年4月1日から施行する。
- 前項にかかわらず、2020年3月31日に在籍する学生については、なお従前の例による。

附 則（2022年2月18日 教養科目における遠隔授業の実施、海外留学科目の追加、教育職員免許法施行規則の改正および日本語科目の一部削除に伴う一部改正）

- この学部則は、2022年4月1日から施行する。
- 前項にかかわらず、2022年3月31日に在籍する学生については、なお従前の例による。
- 前項にかかわらず、改正後の第6条別表6は2022年3月31日に在籍する者のうち、2022年度以降に受講する者に適用する。
- 第2項にかかわらず、2010年4月1日から2020年3月31日までに入学し、2022年3月31日に在籍する者のうち、2022年度以降に次表の授業科目を受講する者については、当該授業科目を多様なメディアを高度に利用して行う遠隔授業とする。

Theme Study
特殊講義（国の行政組織）

- 第2項にかかわらず、改正後の第6条別表1（1）ハ「Academic Communication（Online Learning）」および「Area Study（Online Learning）」の追加は、2020年4月1日以降の入学者から適用する。

附 則（2023年1月13日 教学改革による教育研究上の目的、教育課程の編成、履修の条件、卒業に必要な単位数等の変更、留学生の外国語科目の選

択および修得単位の取扱いの追加、「単位互換科目（遠隔授業）」およびデータサイエンス＋Rプログラム（応用基礎）の開設による教養科目の追加ならびに教育職員免許法施行規則の改正に伴う一部改正）

- この学部則は、2023年4月1日から施行する。
- 前項にかかわらず、2023年3月31日に在籍する学生については、なお従前の例による。
- 前項にかかわらず、改正後の第6条別表1および別表4への「単位互換科目（遠隔授業）」の追加は、2012年4月1日以降に入学し、2023年3月31日に在籍する者に適用する。
- 第2項にかかわらず、改正後の第6条別表1へおよび別表4への「データサイエンス＋AI基礎」および「データエンジニアリング基礎」の追加は、2022年4月1日以降に入学し、2023年3月31日に在籍する者に適用する。
- 第2項にかかわらず、改正後の第7条第3項および別表1（3）は、2016年4月1日以降に入学し、2023年3月31日に在籍する者に適用する。

附 則（2024年1月12日 遠隔授業科目の追加に伴う一部改正）

- この学部則は、2024年4月1日から施行する。
- 前項にかかわらず、2024年3月31日に在籍する学生については、なお従前の例による。
- 第2項にかかわらず、2012年4月1日以降に入学し、2024年3月31日に在籍する者のうち、2024年度以降に「学校保健学」を受講する者については、当該授業科目を多様なメディアを高度に利用して行う遠隔授業科目とする。

附 則（2025年1月10日 教職課程の履修における別表番号の修正および「データサイエンス＋Rプログラム（リテラシーレベル）」のリテラシーレベル認定（2023年9月）による教職課程科目の一部追加に伴う一部改正）

- この学部則は、2025年4月1日から施行する。
- 前項にかかわらず、2025年3月31日に在籍する学生については、なお従前の例による。
- 前2項にかかわらず、改正後の第13条は、2023年4月1日から適用する。
- 第2項にかかわらず、2018年4月1日から2023年3月31日までに入学し、2025年3月31日に在籍する者のうち、2025年度以降に「学習科学論」を受講する者については、当該授業科目を多様なメディアを高度に利用して行う遠隔授業科目とする。

科目別表

別表1 基礎科目

（1）教養科目
イ 立命館科目

科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次
日本の近現代と立命館	2	講義	選択	1・2
ピア・サポート論	2	講義	選択	1・2
ジェンダーとダイバーシティ	2	講義	選択	1・2・3・4
メディアと現代文化	2	講義	選択	1・2・3・4
市民と政治	2	講義	選択	1・2・3・4
日本国憲法	2	講義	選択	1・2・3・4
災害と安全	2	講義	選択	1・2・3・4
歴史観の形成	2	講義	選択	1・2・3・4
科学・技術と社会	2	講義	選択	1・2・3・4
実践データ科学	2	講義	選択	1・2・3・4
現代平和論	2	講義	選択	1・2・3・4
戦争の歴史と思想	2	講義	選択	1・2・3・4
平和人権フィールドスタディ	2	演習	選択	2・3・4

ロ 教養基盤科目（A群）

分野	科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次
第1分野 思想と人間	哲学と人間	2	講義	選択	1・2・3・4
	人間性と倫理	2	講義	選択	1・2・3・4
	心理学入門	2	講義	選択	1・2・3・4
	論理と思考	2	講義	選択	1・2・3・4
	社会思想史	2	講義	選択	1・2・3・4
	科学技術と倫理	2	講義	選択	1・2・3・4
	宗教と社会	2	講義	選択	1・2・3・4
	メンタルヘルス	2	講義	選択	1・2・3・4
	（留）日本の文化・地理・歴史	2	講義	選択	1・2・3・4
第2分野 現代と文化	メディアと図書館	2	講義	選択	1・2
	社会学入門	2	講義	選択	1・2・3・4
	文化人類学入門	2	講義	選択	1・2・3・4
	文学と社会	2	講義	選択	1・2・3・4
	現代的教育	2	講義	選択	1・2・3・4
	世界の言語と文化	2	講義	選択	1・2・3・4
	世界と日本の食文化	2	講義	選択	1・2・3・4
	観光学	2	講義	選択	1・2・3・4
	京都学	2	講義	選択	1・2・3・4
	（留）日本語学	2	講義	選択	2・3・4
	美と芸術の論理	2	講義	選択	1・2・3・4
第3分野 芸術と創造	音楽原論	2	講義	選択	1・2・3・4
	映像と表現	2	講義	選択	1・2・3・4
	映像メディア実践入門	2	講義	選択	1・2・3・4
	文芸創作論	2	講義	選択	1・2・3・4

第4分野 社会・経済 と統治	国の行政組織	2	講義	選択	1・2
	現代社会と法	2	講義	選択	1・2・3・4
	経済と社会	2	講義	選択	1・2・3・4
	企業と社会	2	講義	選択	1・2・3・4
	現代日本の政治	2	講義	選択	1・2・3・4
	現代の国際関係と日本	2	講義	選択	1・2・3・4
	現代の世界経済	2	講義	選択	1・2・3・4
	現代の経営	2	講義	選択	1・2・3・4
	社会と福祉	2	講義	選択	1・2・3・4
第5分野 世界の史的 構成	ソーシャルデザイン論	2	講義	選択	1・2・3・4
	(留)日本の社会・政治	2	講義	選択	1・2・3・4
	(留)日本の経済・経営	2	講義	選択	1・2・3・4
	エリスタディ入門	2	講義	選択	1・2・3・4
	新しい日本史像	2	講義	選択	1・2・3・4
	中国の国家と社会	2	講義	選択	1・2・3・4
	東アジアと朝鮮半島	2	講義	選択	1・2・3・4
	ヨーロッパの歴史	2	講義	選択	1・2・3・4
	アメリカの社会と文化	2	講義	選択	1・2・3・4
第6分野 自然・科学 と人類	イスラーム世界の多様性	2	講義	選択	1・2・3・4
	科学的な見方・考え方	2	講義	選択	1・2・3・4
	宇宙科学	2	講義	選択	1・2・3・4
	地球科学	2	講義	選択	1・2・3・4
	生命科学(分子と生命)	2	講義	選択	1・2・3・4
	生命科学(生物と生態系)	2	講義	選択	1・2・3・4
	材料と化学	2	講義	選択	1・2・3・4
	現代環境論	2	講義	選択	1・2・3・4
	科学と技術の歴史	2	講義	選択	1・2・3・4
第7分野 数理と情報	生命科学と倫理	2	講義	選択	1・2・3・4
	近現代の科学技術	2	講義	選択	1・2・3・4
	(留)日本の自然・科学 技術	2	講義	選択	1・2・3・4
	数理の世界	2	講義	選択	1・2・3・4
	情報の数理	2	講義	選択	1・2・3・4
	情報科学	2	講義	選択	1・2・3・4
	情報技術と社会	2	講義	選択	1・2・3・4
	データサイエンス・AI 基礎	2	講義	選択	1・2・3・4
	データエンジニアリング 基礎	2	講義	選択	1・2・3・4

ハ 国際教養科目 (B群)

科目区分	科目名	単位数	授業 方法	必修・選択・ 自由の別	配当年次
国際教養 科目	Liberal Arts Seminar	2	演習	選択	1・2・3・4
	Introduction to Law	2	講義	選択	1・2・3・4
	Modern World History	2	講義	選択	1・2・3・4
	Japan and the West	2	講義	選択	1・2・3・4
	Introduction to Economics	2	講義	選択	1・2・3・4
	Kyoto and the Japanese Arts	2	講義	選択	1・2・3・4
	Special Lecture	2	講義	選択	1・2・3・4
	Introduction to Linguistics	2	講義	選択	1・2・3・4
	Introduction to Anthropology	2	講義	選択	1・2・3・4
	Introduction to Natural Science	2	講義	選択	1・2・3・4
	Introduction to Humanities	2	講義	選択	1・2・3・4
	Introduction to the United Nations	2	講義	選択	1・2・3・4
	Introduction to Peace Studies	2	講義	選択	1・2・3・4
	Introduction to Gender Studies	2	講義	選択	1・2・3・4
	Introduction to Computational Linguistics	2	講義	選択	1・2・3・4
	History of Computing	2	講義	選択	1・2・3・4
	Digital Archives: Applications of ICT to the Humanities	2	講義	選択	1・2・3・4
	Understanding Language	2	講義	選択	1・2・3・4
	Computers in Education	2	講義	選択	1・2・3・4
	Language in Politics	2	講義	選択	1・2・3・4
	Introductory Course to Climate Change and Global Warming	2	講義	選択	1・2・3・4
	Introductory Course to International Project Development	2	講義	選択	1・2・3・4
	Understanding Visual Culture	2	講義	選択	1・2・3・4
	Introduction to Food Culture	2	講義	選択	1・2・3・4
	Cross Border Policy Issues	2	演習	選択	1・2・3・4
	Playing with Playfulness	2	講義	選択	1・2・3・4
	Introduction to Global Justice	2	講義	選択	1・2・3・4
	Sustainable Development Goals (SDGs) in a Nutshell	2	講義	選択	1・2・3・4

異文化交流 科目	Cross-cultural Encounters 1	2	演習	選択	1・2
	Cross-cultural Encounters 2	2	演習	選択	1・2・3・4
	Cross-cultural Studies	2	講義	選択	1・2・3・4
	Cross-cultural Seminar	2	演習	選択	1・2・3・4
海外留学 科目	Non-verbal Communication	2	講義	選択	1・2・3・4
	Academic Skills 1	2	演習	選択	1・2・3・4
	Academic Skills 2	2	演習	選択	1・2・3・4
	外国留学科目	1～8	講義	選択	1・2・3・4
	外国留学特修科目	1～8	講義	選択	1・2・3・4
	Global Engineer Program	2	講義	選択	1・2・3
	University of Hawaii Program	2	講義	選択	2・3
	グローバル社会の体験と 理解	2	実習・ 講義	選択	1・2・3・4
	Intensive Language Workshop	2	講義	選択	1・2・3・4
	Language for Academic Communication	2	講義	選択	1・2・3・4
	Global Project-Based Learning	2	講義・ 実習	選択	1・2・3・4
	Area Study I	2	講義	選択	1・2・3・4
	Area Study II	4	講義	選択	1・2・3・4
	Global Study	4	講義	選択	1・2・3・4
	Academic Communication (Online Learning)	2	講義	選択	1・2・3・4
	Area Study (Online Learning)	2	講義	選択	1・2・3・4

ニ 社会で学ぶ自己形成科目 (C群)

科目区分	科目名	単位数	授業 方法	必修・選択・ 自由の別	配当年次
キャリア 教育科目	社会と学ぶ課題解決	2	演習	選択	1
	学びとキャリア	2	講義	選択	1・2
	仕事とキャリア	2	講義	選択	2・3・4
	コーオプ演習(理論)	2	講義	選択	2・3・4
	コーオプ演習(実践)	2	演習	選択	2・3・4
サービ スラー ニング 科目	地域参加学習入門	2	講義	選択	1・2
	現代社会とボランティア	2	講義	選択	1・2
	現代社会のフィールドワーク	2	講義	選択	1・2・3・4
	シナズンシップスタディーズ	2	演習	選択	2・3・4

ホ スポーツ・健康科目 (D群)

科目名	単位数	授業 方法	必修・選択・ 自由の別	配当年次
スポーツの歴史と発展	2	講義	選択	1・2・3・4
スポーツと現代社会	2	講義	選択	1・2・3・4
スポーツ方法実習Ⅰ	1	実技	選択	1・2・3・4
スポーツ方法実習Ⅱ	1	実技	選択	1・2・3・4

ヘ 学際総合科目 (E群)

科目名	単位数	授業 方法	必修・選択・ 自由の別	配当年次
教養ゼミナール	2	演習	選択	1・2・3・4
異文化間テーマ演習	2	演習	選択	1・2・3・4
超領域リベラルアーツ	2	講義	選択	3・4
単位互換科目	1, 2又は4	講義	選択	1・2・3・4
単位互換科目(遠隔授業)	1, 2又は4	講義	選択	1・2・3・4
APU交流科目	1, 2又は4	講義	選択	2・3・4
特殊講義(総合)	2	講義	選択	1・2・3・4

(2) 外国語科目

科目名	単位数	授業 方法	必修・選択・ 自由の別	配当年次
英語P1	1	講義	必修	1・2・3・4
英語P2	1	講義	必修	1・2・3・4
英語P3	1	講義	必修	2・3・4
英語P4	1	講義	必修	2・3・4
英語S1	1	講義	必修	1・2・3・4
英語S2	1	講義	必修	1・2・3・4
英語S3	1	講義	必修	2・3・4
英語S4	1	講義	必修	2・3・4

(3) 日本語科目

科目名	単位数	授業 方法	必修・選択・ 自由の別	配当年次
日本語Ⅷ(アカデミック日本語a)	1	演習	選択	2・3・4
日本語Ⅷ(アカデミック日本語b)	1	演習	選択	2・3・4
日本語Ⅷ(キャリア日本語a)	1	演習	選択	2・3・4
日本語Ⅷ(キャリア日本語b)	1	演習	選択	2・3・4
日本語Ⅶ(文章表現a)	1	演習	選択	1・2・3・4
日本語Ⅶ(文章表現b)	1	演習	選択	1・2・3・4
日本語Ⅶ(読解a)	1	演習	選択	1・2・3・4
日本語Ⅶ(読解b)	1	演習	選択	1・2・3・4
日本語Ⅶ(聴解口頭a)	1	演習	選択	1・2・3・4
日本語Ⅶ(聴解口頭b)	1	演習	選択	1・2・3・4

別表2 専門科目
(1) 基盤科目

科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次
スポーツ健康科学原論	2	講義	選択	1・2・3・4
ヒト・ひと・人の倫理と哲学	2	講義	選択	1・2・3・4
身体の構造と働き	2	講義	選択	1・2・3・4
ヘルスプロモーション（衛生学および公衆衛生学を含む）	2	講義	選択	1・2・3・4
スポーツ健康科学とデータサイエンス	2	講義	選択	1・2・3・4
スポーツ健康科学と未来	2	講義	選択	1・2・3・4
基礎演習Ⅰ	2	演習	選択	1
基礎演習Ⅱ	2	演習	選択	1

(2) 領域科目

科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次
スポーツサイエンス概論	2	講義	選択	1・2・3・4
バイオメカニクス論	2	講義	選択	2・3・4
スポーツ生理・生化学	2	講義	選択	2・3・4
トレーニング科学	2	講義	選択	3・4
パフォーマンス測定評価論	2	講義	選択	3・4
スポーツ情報科学	2	講義	選択	3・4
健康運動科学概論	2	講義	選択	1・2・3・4
健康運動栄養・生理学（基礎健康科学）	2	講義	選択	2・3・4
運動・栄養処方論（応用健康科学）	2	講義	選択	2・3・4
健康運動評価方法論	2	講義	選択	3・4
スポーツ医学	2	講義	選択	3・4
生活習慣病論	2	講義	選択	3・4
スポーツ教育学概論	2	講義	選択	1・2・3・4
インクルーシブ体育・スポーツ論	2	講義	選択	2・3・4
スポーツコーチング論	2	講義	選択	2・3・4
スポーツ栄養教育学	2	講義	選択	3・4
スポーツ心理学	2	講義	選択	3・4
スポーツ教育実践学	2	講義	選択	3・4
スポーツマネジメント概論	2	講義	選択	1・2・3・4
組織心理学	2	講義	選択	2・3・4
ビジネス戦略論	2	講義	選択	2・3・4
マーケティング論	2	講義	選択	3・4
リサーチメソッド	2	講義	選択	3・4
ソーシャルインノベーション論	2	講義	選択	3・4
スポーツ健康科学特殊講義Ⅰ	2	講義	選択	1・2・3・4
外国留学特修科目	1～8	講義	選択	1・2・3・4
APU交流科目	2又は4	講義	選択	1・2・3・4
専門演習Ⅰ	2	演習	選択	3・4
専門演習Ⅱ	2	演習	選択	3・4
専門演習Ⅲ	2	演習	選択	4
専門演習Ⅳ	2	演習	選択	4
卒業論文	4	演習	必修	3・4

(3) 融合科目

科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次
PBLⅠ	4	演習	選択	2・3・4
PBLⅡ	4	演習	選択	2・3・4

(4) プロフェッショナル・キャリア形成科目

科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次
簿記入門	2	講義	選択	1・2・3・4
スポーツ健康科学セミナー	2	講義	選択	2・3・4
学校保健学	2	講義	選択	3・4
スポーツ健康科学特殊講義Ⅱ	2	講義	選択	2・3・4
スポーツ指導実習A（球技：ゴール型）	1	実習	選択	3・4
スポーツ指導実習A（球技：ネット型）	1	実習	選択	3・4
スポーツ指導実習A（武道）	1	実習	選択	3・4
スポーツ指導実習B（器械運動）	1	実習	選択	3・4
スポーツ指導実習B（陸上競技）	1	実習	選択	3・4
スポーツ指導実習B（水泳）	1	実習	選択	3・4
スポーツ指導実習B（ダンス）	1	実習	選択	3・4
インクルーシブ体育・スポーツ実習	1	実習	選択	3・4
エクササイズプログラミング実習Ⅰ	2	実習	選択	2・3・4
エクササイズプログラミング実習Ⅱ	2	実習	選択	3・4
外国留学科目	1～8	講義	選択	1・2・3・4
APU交流科目	2又は4	講義	選択	1・2・3・4
インターンシップ（国内）	2	講義および実習	選択	2・3・4
インターンシップ（海外）	2	講義および実習	選択	2・3・4
インターンシップ（健康運動指導士）	2	講義および実習	選択	3・4
クリニカルATインターンシップ（国内）	2	講義および実習	選択	2・3・4

クリニカルATインターンシップ（海外）	2	講義および実習	選択	2・3・4
サービ斯拉ーニング	2	講義および実習	選択	2・3・4

別表3 教職課程の授業科目

(1) 教科及び教科の指導法に関する科目
① 中学校教諭一種免許状（保健体育）

各科目に含めることが必要な事項		科目名	単位数	授業方法	修得方法	配当年次
教科に関する専門的事項	体育実技	スポーツ指導実習 A (球技：ゴール型)	1	実習	左記より 1 単位以上 選択必修	3・4
		スポーツ指導実習 A (球技：ネット型)	1	実習		3・4
		スポーツ指導実習 A (武道)	1	実習		3・4
		スポーツ指導実習 B (器械運動)	1	実習	左記より 1 単位以上 選択必修	3・4
		スポーツ指導実習 B (水泳)	1	実習		3・4
		スポーツ指導実習 B (ダンス)	1	実習		3・4
		スポーツ指導実習 B (陸上競技)	1	実習		3・4
	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史・運動学（運動方法学を含む）」	バイオメカニクス論	2	講義	左記より 2 単位以上 選択必修	2・3・4
		スポーツ健康科学原論	2	講義		1・2・3・4
		身体の構造と働き	2	講義		1・2・3・4
		スポーツ健康科学と未来	2	講義		1・2・3・4
		スポーツサイエンス概論	2	講義		1・2・3・4
		トレーニング科学	2	講義		3・4
		パフォーマンス測定評価方法論	2	講義		3・4
		スポーツ情報科学	2	講義		3・4
		健康運動栄養・生理学（基礎健康科学）	2	講義		2・3・4
		運動・栄養処方論（応用健康科学）	2	講義		2・3・4
		健康運動評価方法論	2	講義		3・4
		スポーツ教育学概論	2	講義		1・2・3・4
		生活習慣病論	2	講義		3・4
		インクルーシブ体育・スポーツ論	2	講義		2・3・4
		スポーツ栄養教育学	2	講義		3・4
		スポーツ心理学	2	講義		3・4
		スポーツ教育実践学	2	講義		3・4
	スポーツマネジメント概論	2	講義	1・2・3・4		
	生理学(運動生理学を含む。)	スポーツ生理・生化学	2	講義	必修	2・3・4
	衛生学・公衆衛生学	ヘルスプロモーション(衛生学および公衆衛生学を含む)	2	講義	必修	1・2・3・4
	学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	学校保健学	2	講義	必修	3・4
		スポーツ医学	2	講義	必修	3・4
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	(教)保健体育科教育概論	2	講義	必修	2・3・4
		(教)保健体育科指導法Ⅰ	2	講義	必修	2・3・4
		(教)保健体育科指導法Ⅱ	2	講義	必修	3・4
		(教)保健体育科授業法	2	演習	必修	3・4
		(教)保健体育科授業発展演習	2	演習	選択	3・4

② 高等学校教諭一種免許状（保健体育）

各科目に含めることが必要な事項	科目名	単位数	授業方法	修得方法	配当年次
教科に関する専門的事項	スポーツ指導実習 A (球技：ゴール型)	1	実習	左記より1単位以上選択必修	3・4
	スポーツ指導実習 A (球技：ネット型)	1	実習		3・4
	スポーツ指導実習 A (武道)	1	実習		3・4
	スポーツ指導実習 B (器械運動)	1	実習	左記より1単位以上選択必修	3・4
	スポーツ指導実習 B (水泳)	1	実習		3・4
	スポーツ指導実習 B (ダンス)	1	実習		3・4
	スポーツ指導実習 B (陸上競技)	1	実習		3・4
	バイオメカニクス論	2	講義	必修	2・3・4
	スポーツ健康科学原論	2	講義	左記より2単位以上選択必修	1・2・3・4
	身体の構造と働き	2	講義		1・2・3・4
	スポーツ健康科学と未来	2	講義		1・2・3・4
	スポーツサイエンス概論	2	講義		1・2・3・4
	トレーニング科学	2	講義		3・4
	パフォーマンス測定評価方法論	2	講義		3・4
	スポーツ情報科学	2	講義		3・4
	健康運動栄養・生理学 (基礎健康科学)	2	講義		2・3・4
	運動・栄養処方論 (応用健康科学)	2	講義		2・3・4
	健康運動評価方法論	2	講義		3・4
	スポーツ教育学概論	2	講義		1・2・3・4
	生活習慣病論	2	講義		3・4
	インクルーシブ体育・スポーツ論	2	講義		2・3・4
	スポーツ栄養教育学	2	講義		3・4
	スポーツ心理学	2	講義		3・4
	スポーツ教育実践学	2	講義		3・4
	スポーツマネジメント概論	2	講義		1・2・3・4
	生理学(運動生理学を含む。)	2	講義	必修	2・3・4
	衛生学・公衆衛生学	2	講義	必修	1・2・3・4
	学校保健 (小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	2	講義	必修	3・4
	スポーツ医学	2	講義	必修	3・4
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	(教)保健体育科教育概論	2	講義	必修	2・3・4
	(教)保健体育科指導法Ⅰ	2	講義	選択	2・3・4
	(教)保健体育科指導法Ⅱ	2	講義	選択	3・4
	(教)保健体育科授業法	2	演習	必修	3・4
	(教)保健体育科授業発展演習	2	演習	選択	3・4

(2) 教育の基礎的理解に関する科目

各科目に含めることが必要な事項	科目名	単位数	授業方法	修得方法	配当年次
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	(教)教育原理	2	講義	必修	1・2・3・4
教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	(教)教職概論	2	講義	必修	1・2・3・4
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	(教)教育社会学	2	講義	必修	1・2・3・4
	(教)教育制度論	2	講義	選択	3・4
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	(教)教育心理学	2	講義	必修	1・2・3・4
	(教)児童・生徒理解の心理学	2	講義	選択	3・4
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	(教)特別支援教育概論	2	講義	必修	1・2・3・4
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	(教)教育課程論	2	講義	必修	2・3・4

(3) 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

各科目に含めることが必要な事項	科目名	単位数	授業方法	修得方法	配当年次
道徳の理論及び指導法	(教)道徳教育の理論と方法	2	講義	中学必修	2・3・4
	(教)道徳授業発展演習	2	演習	中学選択	3・4
総合的な学習の時間の指導法(中学校) 総合的な探究の時間の指導法(高等学校)	(教)総合的な学習の時間の理論と方法	2	講義	必修	3・4
特別活動の指導法	(教)特別活動の理論と方法	2	講義	必修	2・3・4
教育の方法及び技術	(教)教育方法論 (ICT活用を含む)	2	講義	必修	2・3・4
情報通信技術を活用した教育の理論および方法	(教)生徒指導・進路指導の理論と方法	2	講義	必修	2・3・4
生徒指導の理論及び方法	(教)教育相談の理論と方法	2	講義	必修	2・3・4
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	(教)教育相談の実際	2	講義	選択	3・4
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)					

(4) 教育実践に関する科目

各科目に含めることが必要な事項	科目名	単位数	授業方法	修得方法	配当年次
教育実習	(教)教育実習事前指導	1	講義	必修	3・4
	(教)教育実習Ⅰ (事後指導を含む)	2	実験・実習	中学一種免4単位必修、高校一種免2単位以上必修	4
	(教)教育実習Ⅱ (事後指導を含む)	4	実験・実習		4
	(教)教職実践演習(中・高)	2	演習	必修	4

(5) 大学が独自に設定する科目

各科目に含めることが必要な事項	科目名	単位数	授業方法	修得方法	配当年次
	(教)学校教育総合演習	2	演習	必修	3・4
	(教)介護等体験(事前指導)	1	講義	中学選択	2・3・4
	(教)介護等体験実習	1	実験・実習	中学選択	3・4
	(教)学校インターンシップⅠ	2	実験・実習	選択	3・4
	(教)学校インターンシップⅡ	3	実験・実習	選択	3・4
	(教)学校インターンシップⅢ	4	実験・実習	選択	3・4
	(教)道徳教育の理論と方法	2	講義	高校選択	2・3・4
	(教)道徳授業発展演習	2	演習	高校選択	3・4
	(教)国際理解教育論	2	講義	選択	3・4
	(教)学校文化論	2	講義	選択	3・4
	(教)人間と差別的教育論	2	講義	選択	3・4
	(教)学級担任論	2	講義	選択	3・4

(6) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

科目分野	科目名	単位数	授業方法	修得方法	配当年次
日本国憲法	日本国憲法	2	講義	必修	1・2・3・4
体育	スポーツと現代社会	2	講義	左記より2単位以上選択必修	1・2・3・4
	スポーツ方法実習Ⅰ	1	実技		1・2・3・4
	スポーツ方法実習Ⅱ	1	実技		1・2・3・4
	スポーツコーチング論	2	講義		2・3・4
外国語コミュニケーション	英語P1	1	講義	左記より2単位以上選択必修	1・2・3・4
	英語P2	1	講義		1・2・3・4
	英語P3	1	講義		2・3・4
	英語P4	1	講義		2・3・4
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報技術と社会	2	講義	左記より2単位以上選択必修	1・2・3・4
	スポーツ健康科学とデータサイエンス	2	講義		1・2・3・4

別表 4 多様なメディアを高度に利用して行う遠隔授業科目

科目名	授業科目の区分
国の行政組織	教養教育科目 (A 群)
メディアと図書館	教養教育科目 (A 群)
ソーシャルデザイン論	教養教育科目 (A 群)
データサイエンス・AI基礎	教養教育科目 (A 群)
データエンジニアリング基礎	教養教育科目 (A 群)
Introduction to Food Culture	国際教養科目 (B 群)
Introduction to Computational Linguistics	国際教養科目 (B 群)
Liberal Arts Seminar	国際教養科目 (B 群)
Academic Communication (Online Learning)	国際教養科目 (B 群)
Area Study (Online Learning)	国際教養科目 (B 群)
超領域リベラルアーツ	学際総合科目 (E 群)
単位互換 (遠隔授業)	学際総合科目 (E 群)
スポーツ健康科学とデータサイエンス	専門科目 (基盤科目)
スポーツ生理・生化学	専門科目 (領域科目)
スポーツ情報科学	専門科目 (領域科目)
リサーチメソッド	専門科目 (領域科目)
ソーシャルイノベーション論	専門科目 (領域科目)
学校保健学	専門科目 (プロフェッショナル・キャリア形成科目)

別表 5 自由科目

科目名	単位数	授業方法	必修・選択・自由の別	配当年次
英語 P0	1	講義	自由	1

[illegible]